

Hokkaido University News

# 北大時報

平成29年

# 11

No. 764 November 2017

文化功労者にユニバーシティプロフェッサー・名誉教授 喜田 宏氏  
秋の叙勲に本学から3氏

お知らせ

・グローバルファシリティセンターで新たな社会貢献活動～産学協働によるものづくりイノベーション





サクシュコトニ川リフレッシュ



地域協働ファシリテーター育成講座

## 全学ニュース

- 1 文化功労者にユニバーシティプロフェッサー・名誉教授 喜田 宏氏
- 3 秋の叙勲に本学から3氏
- 8 平成29年度科研費審査委員の表彰に本学から6名
- 9 名和総長が第4回日本・インドネシア学長会議に出席
- 10 名和総長がインドネシア同窓生との夕食会に出席
- 10 笠原理事・副学長が第10回日中学長会議に出席
- 11 「北海道大学進学相談会」を大阪で開催
- 12 北大フロンティア基金
- 14 イチョウ並木の一般開放を実施
- 14 サクシュコトニ川リフレッシュの実施
- 15 北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行
- 15 平成29年度秋季外国人留学生ウェルカムパーティーを開催
- 16 秋のガレージセールを開催
- 17 北海道地区FD・SD推進協議会総会及び北海道FD・SDフォーラム2017を開催
- 17 高等教育推進機構等自衛消防訓練を実施
- 18 インターナショナルハウス等で消防避難訓練を実施
- 18 留学生と札幌市民で行く防災バスツアーを実施
- 19 情報セキュリティ対策セミナーを開催
- 20 キッズ フォレスト2017に参加
- 21 アグリビジネス創出フェア2017に出展
- 21 地域の中核人材育成プログラム「地域協働ファシリテーター育成講座」を始動
- 22 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第32回「赤い糸会&緑の会」を開催

## 部局ニュース

- 23 人獣共通感染症リサーチセンター、獣医学研究院及び水産科学研究院が「ISO17025」の認定を取得
- 24 生命科学院が「第5回生命科学国際シンポジウム」を開催
- 24 保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催
- 25 平成29年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス！」が終了
- 26 国際食資源学院でFD研修会を開催
- 26 経済学研究院で研究会「地域格差をどう考えるか」を開催
- 27 経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでセミナーを開催
- 28 経済学部で第4回プレゼン大会を開催
- 29 経済学院・経済学部で「学部生、研究生のための大学院ガイダンス」を開催
- 30 法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティーを開催
- 30 「法科大学院に関するアドバイザーグループ会議」を開催
- 31 北方生物圏フィールド科学センターで「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催

- 38 北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所でIBBP技術講習会を開催
- 38 北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林で一般公開事業「和歌山研究林の歴史的建造物と照葉樹天然林」を開催
- 39 北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭挙行
- 40 函館キャンパスで「防災訓練」と「秋のキャンパス一斉清掃」を実施
- 40 消防訓練等の実施
- 43 脳科学研究教育センターで合宿研修を開催
- 44 総合博物館「ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー&コンサート」を開催
- 45 「トビタテ！北海道」の活動に附属図書館が協力

## お知らせ

- 46 グローバルファシリティセンターで新たな社会貢献活動～産学協働によるものづくりイノベーション

## レクリエーション

- 47 平成29年度 第47回札幌社会人サッカーリーグ及び第32回札幌リーグカップに出場
- 48 教職員テニス大会の開催

## 諸会議の開催状況 50

## 学内規程 50

## 研修

- 51 平成29年度北海道地区国立大学法人等会計基準研修
- 51 平成29年度北海道地区国立大学法人等アドバイラストレータ研修

## 表敬訪問 52

## 人事 52

- 52 新任教授紹介

## 訃報

- 53 名誉教授 深澤 和三 氏
- 53 名誉教授 内山 洋一 氏

## 資料

- 54 役職員数（平成29年10月1日現在）
- 55 在籍学生数（平成29年10月1日現在）
- 57 広報誌等一覧（平成29年10月調査）



水産学部  
公開講座「海をまるごとサイエンス！」



北方生物圏フィールド科学センター  
一般公開事業「和歌山研究林の歴史的建造物と照葉樹天然林」



総合博物館  
ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー&コンサート



消防訓練等の実施

## ■全学ニュース

# 文化功労者にユニバーシティプロフェッサー・名誉教授 喜田 宏氏

この度、本年度の文化功労者に喜田 宏ユニバーシティプロフェッサー・名誉教授が選ばれました。

文化功労者は、日本において、文化の向上発達に関し特に功績が顕著な方が選ばれ、文化勲章に次ぐ榮譽とされています。同氏は、新型インフルエンザ出現のメカニズムを解明したほか、鳥インフルエンザ対策など感染症の克服に向けた国際共同研究に取り組んできました。現在も本学人獣共通感染症リサーチセンター統括として従事しています。

喜田ユニバーシティプロフェッサー・名誉教授の感想、功績等を紹介いたします。

(総務企画部広報課)



きだ ひろし  
喜田 宏 氏

### 感想

この度、文化功労者としての顕彰の栄に浴し、41年にわたり研究と教育に専念させていただきました北海道大学の教職員、同僚の皆様と優秀な学生諸君の温かいご支援に心から御礼申し上げます。

税金で好きなことをさせていただきました結果を文化の発達に寄与したものと認めくださいましたことに、私でよいのかとの戸惑いを覚えつつも、ありがたく存じます。

1976年に、7年間インフルエンザワクチンの開発・改良研究に携わりました武田薬品工業株式会社を辞し、北海道大学獣医学部講師に任用いただきました。以来、41年にわたりインフルエンザ並びに人獣共通感染症の克服に向けた研究・教育に専念させていただきました。その間に、インフルエンザが人獣共通感染症であることを確定し、パンデミックインフルエンザウイルスの出現機構を解明することができました。1977年10月1日、カモ猟解禁日に、石狩川流域で、シベリアから渡って来たオナガガモをハンターが撃ち落とし、これを猟犬よろしく拾った私に研究材料として提供いただきました。そのカモの腸から分離したインフルエンザウイルスA/duck/Hokkaido/5/77 (H3N2) 株を詳細に調べた結果、そのHA（ヘマグルチニン）がヒトの1968年のパンデミックウイルス A/Hong Kong/68 (H3N2) 株のそれと同じであり、NA（ノイラミニダーゼ）は1957年のパンデミックウイルス A/Singapore/1/57 (H2N2) 株のそれと同じであることがわかりました。この成績はパンデミックウイルスのHAとNA遺伝子の起源がカモのウイルスにある遺伝子再集合体であることを示唆するもので、パンデミックウイルス出現機構仮説の根拠となりました。この仮説を証明するのに15年を要しました。カモからの贈り物に感謝しています。

2005年には、内閣府総合科学技術会議並びに文部科学省

の絶大なご支援により北海道大学に人獣共通感染症リサーチセンターを設置していただきました。

武田薬品工業株式会社でご指導いただきました上司の松山繁夫様をはじめ、同僚の皆様、北海道大学にお招きくださり、厳しくも懇篤な教養を賜りました恩師の梁川 良先生をはじめ、先輩、同僚の諸先生、共同研究にご参加くださいました内外の諸先生並びに優秀な学生諸君の絶大なご協力のお陰で所期の研究成果を挙げることができました。厚く御礼申し上げます。

私は、実は40年前には、教えることも教えられることも苦手でした。今は、この40年間に私と親しく共同研究に携わった多くの学生諸君がそれぞれ使命感を持った見事な研究者、教育者に育った事実に感謝し、これを誇りとしています。

### 功績等

喜田 宏ユニバーシティプロフェッサーは、1976年に本学に赴任して以来、インフルエンザウイルスの生態学的研究に取り組み、疫学並びに実験的研究を通じて、インフルエンザが人獣共通感染症であることを確定するとともに、自然界におけるウイルスの存続メカニズムと伝播経路、抗原変異及び新型ウイルスの出現機構、並びに抗体によるウイルス感染性中和の分子の基盤を明らかにするなど、先駆的な研究を推進しています。さらに、インフルエンザ制圧のための国際共同研究を主導するとともに、多数の専門家を養成して、国内外に輩出してきました。

同氏は、ヒトと動物のインフルエンザAウイルス遺伝子の起源が自然界の野生水禽、特に渡りガモの腸内ウイルスにあることを突き止めました。すなわち、インフルエンザウイルスがカモの大腸陰窩を形成する単層円柱上皮細胞で増殖して、糞便と共に排泄され、水系伝播によってカモの間で受け継がれていることを発見し、カモが鳥及びヒトを含む哺乳動物のインフルエンザAウイルスの自然宿主であることを明らかにしました。さらに、ブタの呼吸器上皮細胞には哺乳動物のウイルスのみならず、鳥のウイルスに対するレセプターもあり、ブタがヒトのウイルスと鳥のウイ

ルスに同時感染すると、両ウイルスの遺伝子再集合体が生ずることを実証しました。また、疫学調査、感染実験と遺伝子解析によって、1968年のA香港(H3N2)新型ウイルスが渡りガモ→アヒル→ブタ→ヒトの伝播経路で出現したことを明らかにしました。

これらの知見に基づいて、同氏は、将来出現する高病原性鳥インフルエンザ及びヒトのパンデミックの“先回り”対策を実現するため、動物インフルエンザの疫学調査を地球規模で実施するとともに、調査で分離されるウイルスの中からパンデミックインフルエンザワクチン株を系統保存・供給する「動物インフルエンザのグローバルサーベイランス計画“Programme of Excellence in Influenza”」を日米医学協力研究会、世界保健機関（WHO）及び国際獣疫事務局（OIE）に提案し、インフルエンザの予防と制圧に向けた国際共同研究を主導してきました。この成果として、16のHAと9のNA亜型の組み合わせ144通りのインフルエンザウイルス2,900余株をワクチン及び診断抗原製造用株として系統保存し、300余株の病原性、抗原性、遺伝子情報と発育卵における増殖能を解析してデータベース化し、ウェブサイトにて公開しました。このウイルス株ライブラリーからH1N1, H5N1, H6N2, H7N7, H7N9及びH9N2ウイルスを用いて調製した不活化全粒子ワクチンはマウス、ニワトリとサルに、攻撃ウイルスに対する十分な感染防御免疫を誘導しました。この成績は、パンデミックワクチン製造ウイルスとして適切な株が既に用意できていることを示すものです。

また、2004年初頭、日本で79年振りに発生した高病原性鳥インフルエンザの感染拡大を防止した世界に誇れる実績は、同氏の適切かつ強力な指導によって2003年に作成されていた農林水産省家禽疾病対策マニュアルと専門委員会委員長としての卓越した指揮に負うものであることは、公知の事実となっています。その後8度にわたり日本に侵入したH5N2, H5N8, 及びH5N6ウイルスの家禽への感染被害を悉く発生農場のみに止めた世界に誇れる成果は、同氏のブレない強力な指導に依るものです。一方、ヒトのインフルエンザワクチンとパンデミックインフルエンザ対策についても見識の高い提言をして、的確な行政の推進に貢献しています。

以上のように、喜田氏の業績は獣医学、ウイルス学等への学術的貢献が顕著であるばかりでなく、家畜衛生、公衆衛生、予防医学等の進歩に寄与するところが多大で、人獣共通感染症の疫学研究モデルを提示したものとして、国際的にも高く評価されています。

さらに、同氏は、人獣共通感染症の研究・教育を抜本的に強化するため、世界に先駆けて「北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター」の創立に尽力、2005年4月に初代センター長に就任しました。人獣共通感染症リサーチセンターは、医学、獣医学、薬学、工学、理学を基盤とする、微生物学、ウイルス学、免疫学、病理学、情報科学等の専門家を結集・協力して新たな分野を創出し研究・教育を推進するという点で他に類を見ないものであり、2011年11月

には、WHOに人獣共通感染症対策研究協力センターとして指定されました。同氏はその統括として、国際社会において人獣共通感染症対策のリーダーシップを発揮しており、今後も多くの研究開発プロジェクトのリーダーとして、教育研究の進展に寄与が期待されています。2016年4月には北海道大学から、世界的に極めて顕著な教育研究業績を挙げた方のうち、長期にわたり北海道大学の教育研究の進展に寄与すると認められる方として、ユニバーシティプロフェッサーの称号を授与されています。

以上の学術上の業績に加え、同氏は多くの研究開発プロジェクトのリーダーとして、研究・教育を指揮・統括しています。また、製薬会社で技術研究職として、ワクチンの開発・実用化研究と製造に携わった経験から、学術的な研究のみならず、感染症に対する予防・治療法の開発・実用化にも精力的に取り組んでいます。さらに、国内の行政のみならず、国際機関に対しても感染症対策に関する的確な助言・提言を行っており、同氏が真摯で情熱的な教育・研究活動を通じ、多くの優れた専門家を養成し、国内外に輩出していることも特筆されます。

喜田氏には、1982年日本獣医学会賞、2002年北海道科学技術賞、2004年北海道新聞文化賞、2005年日本農学賞・読売農学賞、2005年日本学士院賞、2009年畜産大賞、2011年農事功績表彰緑白綬有功章、2016年北海道功労賞、2017年瑞宝重光章が授与されています。

略 歴

生 年 月 日	昭和18年12月10日
昭和42年 3月	北海道大学獣医学部獣医学科卒業
昭和44年 3月	北海道大学大学院獣医学研究科予防治療学専攻修士課程修了
昭和44年 4月	武田薬品工業株式会社
昭和51年 3月	北海道大学獣医学部講師
昭和53年 4月	北海道大学獣医学部助教授
平成 6年 6月	北海道大学獣医学部教授
平成 7年 4月	北海道大学大学院獣医学研究科教授
平成13年 5月	北海道大学大学院獣医学研究科長・獣医学部長
平成17年 4月	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター長
平成24年 3月	
平成19年12月	日本学士院会員
平成24年 4月	北海道大学大学院獣医学研究科特任教授
平成26年 3月	
平成24年 4月	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター統括
平成26年 4月	
平成28年 3月	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター特任教授
平成28年 4月	
	北海道大学名誉教授、
	北海道大学ユニバーシティプロフェッサー、
	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター特別招へい教授
平成29年 4月	長崎大学感染症共同研究拠点長

(人獣共通感染症リサーチセンター)

## 秋の叙勲に本学から3氏

この度、本学関係者の次の3氏が、平成29年秋の叙勲を受けることについて、11月3日（金・祝）に発表となりました。

勲章	経歴	氏名
瑞宝重光章	名誉教授（元 総長）	佐伯 浩
瑞宝中綬章	名誉教授（理学研究科）	徳永正晴
瑞宝単光章	元 看護師長	横畑千春

各氏の長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。各氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。

（総務企画部広報課）



さえき ひろし  
佐伯 浩 氏

### 感想

まずは、この度の叙勲の栄に浴し、長きにわたりご指導、ご支援いただきました北海道大学の歴代の教職員の皆様をはじめとする多

くの皆様に心より御礼申し上げます。

思い起こせば、雪山に憧れ昭和35年に入学して以来53年もの間、北海道大学で学び、研究に没頭し、学生達と議論を交え、その後総長として6年間を過ごせたことは、大学人冥利に尽きると感じております。

4年間で卒業して就職しようと考えていた学生時代、恩師である岸力先生の一言が大学院に導いてくださったことや、その後、研究者として港湾工学、海洋工学の研究に取り組んだ日々が鮮明に思い浮かびます。常に現地調査等を重視し研究に取り組んだ結果、サロマ湖のホタテ貝などを流水の被害から防ぐ「アイスブーム」を開発できたことも良い思い出です。

北海道大学の総長に就任した平成19年は、法人化後4年目を迎えた年でした。第2期に向けた中期目標・中期計画の策定を進めるとともに、「世界水準の人材育成システムの確立」、「世界に開かれた大学の実現」のため国際化に力を注ぎました。平成22年には国際関連組織を一元的に運営する国際本部を設置するとともに、留学生が安心して生活できるよう留学生寮の整備を行いました。法人化後の厳しい財政状況下ではありましたが、全教職員の努力と叡智により施設の充実に取り組むことができました。

さらに、「持続可能な開発」の実現に資する研究と教育を加速させ、国際貢献に寄与することを目的として、平成19年から「サステナビリティ・ウィーク」を開催し、環境問題やサステナビリティに関する市民講座や国際シンポジ

ウムを実施しました。

特に印象に残るのは、平成20年7月、「G8北海道洞爺湖サミット」に先駆け、「持続可能な社会づくり」に向けて20以上の国際シンポジウムを実施し、本学の研究成果を広く国際社会に公開したことで、サミットに先立ち、歴史上初めての試みとして、G8諸国と他の主要14ヶ国の大学等35大学の学長等140名による、「G8大学サミット」を開催したことです。

最終日にはG8サミット参加の首脳に対して、気候変動等に対する科学的で適正な政策の実施を求める「札幌サステナビリティ宣言」を採択し、当時の福田康夫総理に手交しました。教職員が一体となって本会議を成功裏に終えることができ、北海道大学の国際的プレゼンスを高めることにもなりました。

また、総長在任中最も大きな喜びは、平成22年10月6日、名誉教授である鈴木章先生のノーベル化学賞受賞のニュースを聞いた時でした。鈴木先生は北海道大学理学部で学ばれた後、工学部で長い間教育研究に携わってこられ、私にとっても、工学部教授会で約25年間ご一緒させていただいていたこともあり、この上なく嬉しいニュースでした。今も北海道大学に関わる全ての人々にとっての誇りであることに異論はないと思います。

国立大学は以前にも増して厳しい状況下にあります。私が愛してやまない北海道大学が、全教職員心をついにし、さらなる飛躍と発展を遂げることを願うばかりです。

私も陰ながら一大学人として応援させていただきます。

### 功績等

佐伯氏は、平成19年4月から、北海道大学総長として、国立大学法人化後間もない大学運営において、卓越したリーダーシップを発揮し、グローバル化による社会構造の急激な変化と激しい国際競争の中、本学の目指すべき方向を明確に示し、その実現に向けた諸施策を強力に推進し、

本学の発展に多大な貢献をされました。

### 1. 総長としての功績

- 1) 法人化後の大学運営の中核を担う運営組織の改革に力を注ぎ、大学の使命である教育と研究を全学的見地で推進するための体制として、全学に係る教育及び部局横断的な研究推進に関する事項の統括と実施を主たる任務とする「機構」と特定事項の企画・立案及び実施を主たる任務とする「本部」に整備し、その後の円滑な大学運営の礎を築いた。
- 2) 急速に進む医療の高度化や専門化に対応できる幅広い知識と高度な医療技術の修得、保健科学と看護学のそれぞれの分野における実践的指導者等の育成を目的とする「保健科学院・保健科学研究院」を設置した。また、理学院と工学研究科の化学系分野を融合させた新大学院構想の検討を進め、化学分野に関する総合的な教育研究体制を推進するため「総合化学院」を設置した。
- 3) 社会のニーズに対応した質の高い、また国際通用性のある獣医学教育構築のため、「北海道大学獣医学部・帯広畜産大学畜産学部共同獣医学課程」を開設し、今日の共同獣医学課程及び欧米水準の獣医学教育の実現に向けた体制の礎を築いた。
- 4) 北海道大学のグローバル化をより一層推進するため、学部教育と並行して、グローバル社会のリーダーとして必要とされるスキルを身につけるための新たな学士課程の特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」の創設に尽力した。
- 5) 学生への修学・学習支援体制を強化するため「アカデミック・サポートセンター」を設置した他、鈴木 章本学名誉教授のノーベル化学賞受賞を記念し、「北海道大学鈴木章科学奨励賞」を新設するなど、学生の勉学に対する意欲、向上を図る取り組みを積極的に行った。
- 6) 入学学部での勉強と希望していた勉強との入学後のミスマッチ防止、学問分野の細分化・融合化への対応、共通カリキュラムによる初年次教育の充実などを主な目的として、従来からの学部別入試に加え、文系、理系という大くくりの入試枠で受験し、本人の意思と1年次の成績によって学部・学科移行ができる「総合入試」を導入した。
- 7) 本学で創造された知の活用を通じて国際社会の持続的発展に貢献するため、海外拠点の整備を進め、既存の中国・北京に加え、韓国のソウル、ザンビアのルサカ、フィンランドのヘルシンキに海外オフィスを設置したほか、国際協力及び国際交流の推進を図るため国際本部を設置するなど、本学の国際化の牽引に尽力した。
- 8) 平成20年7月の「G8北海道洞爺湖サミット」に先駆けて、G8諸国と他の主要14ヶ国の大学等35大学の学長等140名による「グローバル・サステナビリティと大学の役割」をテーマとした「G8大学サミット」の実行委員会委員長として、万全の体制を整え、歴史上初の試みとなった会議を成功に導いた。

- 9) インフォメーションセンター「エルムの森」を正門付近に新築移転するとともに、開館時間の延長、開館日の拡大、カフェの併設など、利用者の利便性向上を図り、インフォメーションセンターの機能を充実させた。

### 2. 行政協力等における功績

- 1) 一般社団法人国立大学協会入試委員長として、大学入試センター試験の「地理歴史」教科の構成の見直し、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う大学入学者選抜への対応、昨今の高大接続に関する議論の先駆けとして、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部に意見を提出するなど、入学者選抜に関する課題解決に尽力した。また、事業実施委員長として、国立大学の理事の責任や役割が高まる中、経営的視点に立った国立大学の管理運営に資することを目的に「国立大学法人等理事研修会」を開催し、理事の意識向上に尽力した。
- 2) 北海道総合開発委員会委員長として、平成20年度から概ね10年間の道政の基本的な方向を総合的に示す「新・北海道総合計画（ほっかいどう未来創造プラン）」及び同計画の「第1回推進状況報告書」の取りまとめに主導的役割を果たし、同計画の実効性の確保に尽力した。
- 3) 北海道科学技術審議会会長として、平成20年度から概ね5年間の北海道経済の活性化・自立化の実現に向けて科学技術が果たしていくべき役割等を示す「北海道科学技術振興戦略」の策定の最終的な取りまとめに主導的役割を果たすとともに、同戦略の後継となる「新北海道科学技術振興戦略」の策定の取りまとめを主導して行い、地域イノベーションの創出に向けて「食・健康・医療分野」「環境・エネルギー分野」を中心とした取組計画を答申するなど、北海道における科学技術振興行政に多大な貢献をした。
- 4) 土木学会において、海岸工学委員会委員を長らく務め、海岸工学の中に、寒冷地海岸・海洋工学という新たな研究領域を創成するとともに、水工学、寒冷地海岸工学における構造物設計法の確立に大きく貢献した。また、氷海域における海岸・海洋構造物設計マニュアル作成の中心的役割を果たし、氷海域における海岸・海洋構造物設計法を建設業界に広く浸透させることに貢献した。

### 3. 学術分野における功績

- 1) 国内外で初めて海洋構造物に作用する氷荷重を適切に見積もることができる氷強度試験法を新たに開発し、過去の研究成果の相互比較を可能にするとともに、氷荷重下の海岸・海洋構造物の耐氷設計法を確立した。こうした研究を通して開発した独自の「氷強度試験法」並びに氷荷重式（佐伯の式）は、現在も国際標準として広く使われており、これらの成果は、国内外において創成期にあった寒冷地工学研究の発展に大きく貢献し、昭和56年に、「海水強度の試験方法の確立と海岸・海洋構造物の耐氷設計法」により、財団法人新技術開発財団より「市

村賞貢献賞（学術の部）」が授与された。

- 2) 流水等の移動氷盤と構造物材料間の摩擦係数、移動氷盤による構造物の摩耗速度の評価法を初めて確立するとともに、移動氷盤による石油採掘施設等の傾斜構造物に作用する水力や構造物表面の摩耗は、構造物の設計や維持管理に重要であることを世界に先駆けて指摘し、摩擦・摩耗に関する新たな試験法を用いた画期的実験により、正確な算定法を提案した。その成果は、海水と構造物材料の相互作用に関する新たな研究領域を拓くとともに、氷海構造物設計の国際基準に取り入れられ、昭和59年に米国機械学会より Arthur Lubinski賞が授与された。

略 歴

- 生 年 月 日 昭和16年 7月 1日
- 昭和41年 4月 北海道大学工学部講師
- 昭和41年 8月 運輸省第二港湾建設局技官
- 昭和43年 4月 北海道大学工学部助教授
- 昭和59年 4月 北海道大学工学部教授
- 平成 8年 4月 } 北海道大学工学部土木工学科長
- 平成 9年 3月 }
- 平成 9年 4月 北海道大学大学院工学研究科教授
- 平成11年 6月 } 北海道大学評議員
- 平成13年 3月 }
- 平成13年 4月 } 北海道大学大学院工学研究科長・工学部長
- 平成15年 4月 }
- 平成15年 5月 } 北海道大学副学長, 北海道大学評議員
- 平成16年 3月 }
- 平成15年 5月 } 北海道大学高等教育機能開発総合センター長
- 平成19年 4月 }
- 平成16年 4月 } 北海道大学理事・副学長
- 平成19年 4月 }
- 平成17年 4月 } アドミッションセンター長
- 平成19年 4月 }
- 平成19年 5月 } 北海道大学総長
- 平成25年 3月 }
- 平成26年 7月 一般社団法人寒地港湾技術研究センター代表理事会長

(総務企画部広報課)



とくなが まさはる  
徳永 正晴 氏

感 想

この度は、叙勲の榮譽を賜り、身に余る光栄と恐縮しております。北海道大学で研究・教育に携わらせていただいた各時点、各分野

でご指導いただき、お世話になり、支えていただいた先輩、同僚、学生、事務官、技官の皆様方に心より感謝申し上げます。

新設の応用電気研究所強誘電体部門へ、実験の研究室での理論研究者として赴任しました。誘っていただいた達崎達教授のリーダーシップのもとで、十分な研究時間をいた

だきました。強誘電体相転移の研究が原子・分子論的機構を確立させる一番面白い時期でした。その後退職まで、各地の実験家とも交流し、実験の提案や実験結果の議論など充実した研究生活を送らせていただきました。理論単独で、実験家との協力で、特色ある研究成果を出せたかなと思っております。

理学部に移って教養部に部屋をいただきました。教養部教務委員長になってから、管理的な業務（つまり会議）が増えました。先人が特徴ある北大方式とも呼べる教養制度を構築されていたので、大学設置基準の大綱化で全国的に教養（一般教育）制度の議論に時間と精力が奪われたこの時期、この問題では本学は先頭を走っていました。平成7年高等教育機能開発総合センター（以下、センター）が設置され、教養部制度の廃止に伴い一般教育を担う全学教育部が設置されました。センターで継続して開かれた学部一貫教育研究会に参加、報告もしました。

平成12年に理学研究科長・理学部長に選ばれ、以後の大学生生活が変わりました。平成13年からは中村陸男総長にセンター長を兼ねる副学長に任じていただき、ほとんどの時間をセンター長室で過ごす生活になりました。本学のセンター制度のお陰で他大学の同職に比して楽をさせていただいたでしょう。

法人化直前に退職しましたが、法人化後の運営を準備する議論には、再び多くの時間と精力が取られました。毎年1%の運営経費削減の方針だと、どの国立大学も現在の状況になることは自明の理でした。退職後付き合ってきた自然科学分野の現役の方々からは、悲鳴に近い愚痴ばかり聞かされます。大学評価や研究成果の数字にも表れており、少子化を迎えた日本の大学の今後が大変心配です。

功績等

徳永正晴氏は、昭和14年1月21日香川県に生まれ、同36年3月京都大学理学部物理学科を卒業し、同38年3月京都大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了、同41年3月同博士課程を単位取得退学して、同年4月京都大学原子炉実験所助手に任ぜられた後、同42年1月に、「KDP型結晶における強誘電性相転移の理論」により京都大学から理学博士の学位を授与されました。昭和43年5月北海道大学応用電気研究所助教授、同62年4月北海道大学理学部教授に昇任し、物理学専攻凝縮系物理学講座を担当して教育と研究に従事されました。平成7年4月には大学院重点化に伴い、大学院理学研究科教授に配置換えされ、同12年4月より理学研究科長・理学部長、同13年5月より北海道大学副学長に就任され、同15年4月任期満了に伴い定年退職され、同年5月に北海道大学名誉教授にられました。

この間、同氏は、北海道大学の全学教育、物理学科・専攻における物性物理学の教育と研究指導に尽力されました。特に一群の水素結合型強誘電体の代表物質であるKDP (KH<sub>2</sub>PO<sub>4</sub>) の相転移の発現機構の解明から、広く強誘電体における構造相転移の本質的解明に取り組み、絶えず実験家と密接な協力関係を保ちながら優れた理論的研究

を行いました。北海道大学のみならず我が国の強誘電体物理学の研究の進歩と発展に顕著な貢献をし、国際的にも大きな影響を与えました。主な研究業績は以下の4つに分けられます。

第1に、昭和38～45年になされたKDPの相転移理論の研究です。KDPは重水素化すると相転移温度が100Kも上昇する特異な物質で、この説明のために提案されていた水素のトンネリングモデルに、擬スピンハミルトニアンを導入したKDP相転移の理論を提案しました。この理論は多くの光散乱、中性子散乱実験、及び以降のより詳しい理論的計算の出発点となり、当該論文の引用件数は300件を超えています。

第2に、昭和43～54年の強誘電体相転移の臨界現象の研究です。相転移点近傍で異常に増大する長波長の電気分極の揺らぎのうち、縦波成分が静電的雙極子・雙極子相互作用により抑制されることに注目し、それまで存在しなかった強誘電体臨界現象の理論を構築し実験結果を説明しました。

第3に、昭和58年～平成10年に至るお茶の水女子大学理学部との共同研究です。PO<sub>4</sub>内部振動ラマン散乱スペクトルの観測により、KDP型誘電体の相転移機構は水素の協力的なトンネリング運動で起こるのではなく、H<sub>2</sub>PO<sub>4</sub>雙極子の分極反転による秩序・無秩序相転移機構で起こることを提案しました。これは従来のトンネリングモデルに基づく研究に大きな衝撃を与えました。

第4に、平成6～15年にわたる、超高压下でのDKDP (KD<sub>2</sub>PO<sub>4</sub>) 及びKDPの相転移機構に関する大阪大学極限科学研究センターとの共同研究です。DKDPでも6.3GPa (KDPでは1.5GPa) 以上の圧力で絶対零度まで常誘電相であることを発見し、電気分極揺らぎの増大がゼロ点振動で抑えられる量子常誘電性が水素結合系強誘電体でも存在することを世界で初めて明らかにしました。

以上の成果は63編の原著論文として発表している他、総説23編、著書1冊、全学教育用物理学教科書1冊を公表出版しています。

また、北海道大学内においては、平成6年4月～同11年3月理学研究科大学院委員、同6年6月～同7年5月評議員、同10年5月～同11年4月総長補佐、同12年4月～同13年4月理学研究科長・理学部長、同13年5月～同15年4月教育担当副学長（高等教育機能開発総合センター長併任）として、大学の管理・運営と教育環境の改善に尽力されました。特に、理学研究科長として郵政省通信総合研究所からの11m電波望遠鏡を苫小牧演習林へ移設するのに貢献したのをはじめ、副学長として武道場・野球場の全面改修等の厚生補導施設の整備充実や「北大元気プロジェクト」の実施など学生中心の大学への基礎作りに尽力されました。

さらに、学外においては、九州大学、大阪大学、東北大学、関西学院大学、名古屋大学、千葉大学、室蘭工業大学の非常勤講師を務めると共に、日本学術振興会審査委員、文部省学術審議会審査委員として専門的立場から関係行政を支援するなど物理学の発展に尽力されました。

以上のように、同氏は物性物理学における強誘電体の理論研究において優れた業績を挙げ学術の進歩と発展に多大の功績を残すとともに、北海道大学の管理・運営及び教育環境改善に大きな貢献をすることによって、我が国の大学教育・研究の進展に尽くされ、その功績は誠に顕著であります。

略 歴

生 年 月 日 昭和14年 1月21日  
 昭和41年 4月 京都大学助手  
 昭和43年 5月 北海道大学助教授  
 昭和62年 4月 北海道大学教授  
 平成 6年 6月 } 北海道大学評議員  
 平成 7年 5月 }  
 平成12年 4月 } 北海道大学大学院理学研究科長・理学部長  
 平成13年 4月 }  
 平成13年 5月 } 北海道大学副学長、北海道大学評議員、  
 平成15年 4月 } 北海道大学高等教育機能開発総合センター長  
 平成15年 4月 北海道大学定年退職  
 平成15年 5月 北海道大学名誉教授

(理学院・理学研究院・理学部)



よこはた ちはる  
**横畑 千春 氏**

感 想

この度、叙勲の栄誉を賜り身に余る光栄でございます。多くの皆様のご指導ご支援の賜物と心から感謝し、御礼申し上げます。

私は、昭和51年北海道大学病院に就職し、38年間勤務させていただきました。最初の配属は第一内科病棟でした。呼吸器疾患で長期に人工呼吸器を装着し寝たきり状態の患者や、検査・診断目的から終末期の患者までが入院していました。当時、多くのがん患者は正確な病名告知がされていませんでした。終末期の患者は、病気をどのように受け止めているのか、その人らしさとは何か、生命の尊厳とは何か等を考えさせられ、看護を考える原点となりました。

昭和59年に形成外科病棟、副看護婦長として平成元年に精神神経科病棟、そして同4年中央材料部に異動しました。当時、病院の新病棟移転がありました。それまで各部署で管理していたディスプレイ製品を回収し、材料部の管理下で供給する医療材料の定時定数管理カート交換方式が始まりました。看護婦長と共に、各部署と調整しながら医療材料を定数化して物流システムを運用し、滅菌物の清潔管理や経済効果等、中央部門の役割を認識しました。

また、感染対策看護部委員として全部署対象に医療器材の消毒・滅菌に関する実態調査を行い、共通品目の消毒・滅菌マニュアルを作成しました。この取り組みにより、患者に使用する医療器材の安全保証と共に、業務改善や無駄



なコストの削減に貢献できました。

看護師長として平成10年に泌尿器科病棟、同17年に放射線科・核医学診療科・歯科病棟、同21年に物流管理センター材料室に異動しました。全国国立大学病院材料部部长・看護師長会議の当番校では、「医療現場における滅菌保証のガイドライン2010」について課題検討を行い、また、日本医療機能評価機構の病院機能評価受審において、医療器材の滅菌の質保証に貢献できました。歯科材料室を閉鎖し医科に統合する等、業務上の変革にも、経験豊かで目的意識を持ち信頼できる看護助手さんに助けられ、請負業者さんたちと協働しながら楽しく仕事をすることができました。

北海道大学病院での看護師生活を振り返ると、多くの患者さんから学ばせていただき、諸先輩・同僚・後輩や多職種の方々にご指導いただき感謝の気持ちでいっぱいです。今後はこの荣誉に恥じることが無いよう過ごしてまいりたいと思います。

最後になりましたが、北海道大学、北海道大学病院、看護部の発展をご祈念申し上げ、お礼の言葉といたします。

### 功績等

横畑千春氏は、昭和28年5月22日に北海道弟子屈町に生まれ、同50年3月に帯広高等看護学院を卒業後、他病院での勤務を経て、同51年4月に北海道大学医学部附属病院に採用、平成元年副看護婦長、同10年看護婦長を歴任し、同26年3月に北海道大学病院を定年にて退職されました。

同氏は当初、第一内科病棟、形成外科病棟で勤務し、副看護婦長昇任後は精神神経科病棟で、患者の個別性を尊重した看護実践に取り組みました。その後、中央材料部へ異動し、院内全体の医療器材提供の一元化を看護婦長とともに実施されました。看護婦長時代は、泌尿器科病棟、歯科・放射線科・核医学診療科病棟、物流管理センターで勤務されました。

泌尿器科病棟では、腎・尿路疾患のある小児の成長を支援する看護や生体腎移植を受ける患者・家族の看護に取り組まれ、平成12年日本腎移植研究会で「2歳児の生体腎移植の術後管理を考える一点滴ラインの管理と成長発達を視点到に振り返って」を発表、また雑誌「ウロ・ナーシング」へ「泌尿器科ナースの為の検査マニュアル」を投稿する等、泌尿器科看護の質向上に貢献されました。また、平成15年北海道ストーマリハビリテーション研究会での「ストーマ造設患者のセルフケア取得についての一考察～セルフケアを取得するための計画共有の必要性について考える～」発表等、患者参加型看護にも取り組まれました。この間、北海道看護協会主催のセカンドレベル研修を受講し、看護管理能力の研鑽に努められました。

物流管理センターでは、医療器材の不具合報告システムを構築し、医療器材の洗浄・滅菌を適切に管理するとともに、滅菌有効期限の延長に取り組み、業務量減少・コスト削減にも貢献されました。平成24年には、全国国立大学病院材料部部长看護師長会議で当番校を務め、「医療現場に

おける滅菌保証のガイドライン2010」のアンケート結果を基に課題検討を行いました。また、平成26年の病院機能評価受審において本院は、「医療器材の洗浄・滅菌機能を適切に発揮している」について「秀でている」の評価を受けました。

同氏は、社会貢献活動も積極的に行い、北海道中材業務研究会の書記・会長を歴任し、北海道看護協会の業務委員や第4支部推薦委員も務められました。

以上のように同氏は、38年の永きにわたり看護管理・教育の充実、医療器材の質保証に尽力され、その功績は誠に顕著であります。

### 略歴

生年月日	昭和28年5月22日
昭和50年4月	釧路労災病院
昭和51年4月	北海道大学医学部附属病院看護部
平成元年4月	北海道大学医学部附属病院看護部副看護婦長
平成10年4月	北海道大学医学部附属病院看護部看護婦長
平成15年10月	北海道大学医学部・歯学部附属病院看護部看護婦長
平成16年4月	北海道大学病院看護部看護婦長
平成26年3月	北海道大学定年退職

(北海道大学病院)

## 平成29年度科研費審査委員の表彰に本学から6名

日本学術振興会は科学研究費助成事業の配分審査に関し、有意義な審査意見を付した審査委員への表彰を行っており、平成29年度は約5,300名の第1段審査（書面審査）委員の中から255名が表彰者として選考されました。

本学からは以下の6名が表彰され、表彰状が授与されました。

なお、表彰された審査委員の氏名等については、日本学術振興会のホームページにて公表されています。

◆日本学術振興会ホームページ

[http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/26\\_hyosho/index.html](http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/26_hyosho/index.html)

（研究推進部研究振興企画課）

### 【表彰者】（50音順）

所 属	氏 名	
水産科学研究院	荒井 克俊	特任教授
公共政策学連携研究部	石川 達也	教 授
総合博物館	大原 昌宏	教 授
農学研究院	金澤 章	准 教 授
工学研究院	島田 敏宏	教 授
情報科学研究科	渡邊 日出海	教 授

# 名和総長が第4回日本・インドネシア学長会議に出席



集合写真

10月23日（月）～25日（水）、インドネシア共和国スラバヤにおいて開催された第4回日本・インドネシア学長会議に、名和豊春総長が出席しました。

本学長会議は、日本とインドネシア両国大学間の学术交流促進を目的として、これまで2012年に名古屋、2013年にジョグジャカルタ、2015年に札幌で開催されました。第4回となる今回は日本側23大学、インドネシア側62大学の代表者がスラバヤに集い、両国の今後2年間の交流方法に関する活発な議論が交わされました。本学は第3回学長会議を主催したことから、本学長会議の日本側のとりまとめを担当しました。

開会式に先立ち、初日の23日（月）午後Technical Meetingが行われ、幹事校のスラバヤ工科大学（以下、ITS）が事前に集計した両国の交流状況データに基づき、翌日の分科会での議論の方向性を決定しました。

24日（火）午前開催された開会式

では、ジョニ ヘルマナITS学長及びカダルサ スリヤディインドネシア大学協会代表による挨拶に続き、日本側参加者を代表して、在インドネシア日本国大使館の中村 亮公使より挨拶がありました。さらに文部科学省高等教育局高等教育企画課の堀尾多香国際企画室室長補佐による「日本の高等教育の現状」に関する講演、エドワード オット カンターインドネシアトヨタ自動車株式会社副社長による産学連携をテーマとした基調講演が行われ、参加者が日本の高等教育の現状や両国の産学連携に関する知識を深める良い機会となりました。講演と同時並行して開催された記者会見には、幹事校学長らと共に名和総長が出席し、集まったインドネシアの報道関係者らの前で、両国の今後の交流に関する意気込みを語りました。

午後には、参加者は①教育連携②研究連携③産学連携の3つのテーマに分かれ、前日のTechnical meetingで決まった方向性に従い、今後の交流方法

に関する具体的な議論を実施しました。

夕方のレセプションは、Surabaya North Quayの船上で行われました。レセプションでは、ヘルマナITS学長の挨拶に続き、谷 昌紀スラバヤ総領事に日本語・インドネシア語2カ国語でご挨拶を賜りました。さらに、前回学長会議開催校の代表として名和総長による第3回学長会議の振り返りに続き、第5回日本・インドネシア学長会議の開催校である広島大学の丸山恭司副学長より次回開催に向けた意気込みが語られました。両大学からのユーモアを交えた挨拶により、レセプションは終始和やかなムードで行われ、両国の活発な意見交換の場となりました。

最終日の25日（水）午前に開催された閉会式では、前日の分科会の内容に関して各分科会の議長から報告され、両国間の連携強化に向けた提言が作成されました。

（国際部国際連携課）



記者会見の様子



中村公使による挨拶



文部科学省高等教育局高等教育企画課堀尾国際企画室室長補佐による講演



インドネシアトヨタ自動車株式会社カンター副社長による基調講演

## 名和総長がインドネシア同窓生との夕食会に出席



同窓生との集合写真

10月23日（月）、インドネシア共和国スラバヤにおいて開催されたインドネシア同窓会の夕食会に、名和豊春総長が出席しました。本夕食会は、10月23日（月）～25日（水）にスラバヤに

おいて開催された第4回日本・インドネシア学長会議に名和総長が出席することから、企画されたものです。当日は北海道アンバサダーのハニー・C. ウィジャヤ ポゴール農業大学教授の

呼びかけにより集まったインドネシア在住の8名の同窓生が夕食会に出席しました（ハニー教授は欠席）。

同窓生の多くは、ポゴール農業大学、バラカラヤ大学をはじめとするインドネシアの大学やジャカルタ市、インドネシア政府で活躍しており、本学在籍中の思い出や、これからの本学との交流予定について、名和総長に報告しました。

名和総長からは、これからも本学とのつながりを活かし、両国の発展に貢献してほしいとの激励の言葉が述べられました。

（国際部国際連携課）

## 笠原理事・副学長が第10回日中学長会議に出席



各大学代表者の集合写真（笠原理事・副学長 1列目右側）

10月20日（金）、東北大学（中国・瀋陽）において、第10回日中学長会議が開催され、笠原正典理事・副学長が出席しました。当日は、日本から19大学、中国から17大学の学長や副学長等、さらに両国政府関係者からの参加者を合わせ約120名が参加しました。

日中学長会議は、2000年に東京で第1回会議が開催されて以来、隔年で開

催されており、両国を代表する大学の学長が一堂に会し、大学教育の在り方についての率直な意見交換、及び大学間交流・連携のあり方等について議論を行う場となっています。

第10回となる今年は、「日中大学の発展：チャンス、挑戦と未来に向けて」をテーマに議論が行われました。

開会の後、大連理工大学学長及び神戸

大学長による基調講演が行われ、続いて「大学教育モデルの変革とイノベーション」「学生のキャリア発展への挑戦と大学教育のあり方」を個別テーマとして、11名の学長・副学長等から各大学の特色のある取り組み事例が紹介され、活発な議論が行われました。

笠原理事・副学長は日本側代表として、中国側代表の清華大学代表者と共に、閉会式の司会を担当しました。閉会式では、東京大学の羽田 正理事・副学長及び東北大学（中国）の趙継学長から会議の総括があった後、笠原理事・副学長は、全体を通じて充実した議論が行われ、この会議が大変有意義なものであった旨の発言をされ、会議は終了しました。

今回は、2年後の2019年に早稲田大学主催で開催される予定です。

（国際部国際連携課）

## 「北海道大学進学相談会」を大阪で開催

本学単独主催の大学進学希望者向け「北海道大学進学相談会」を8月の東京開催に続いて、10月8日（日）に大阪で開催しました。

会場では名和豊春総長、長谷川晃理事・副学長をはじめ、各学部やアドミッションセンターの教職員、在学生会等、合わせて約60名が高校生や保護者等への説明・相談に当たりました。

全体説明では、冒頭で名和総長によ

る挨拶があり、引き続き長谷川理事・副学長が本学の魅力について説明を行いました。その後は、藤田 修アドミッションセンター副センター長による総合入試についての説明、山口淳二新渡戸カレッジ副校長による新渡戸カレッジについての説明等を行いました。また、それと並行して、全12学部の教職員・学生による相談ブース等において個別相談対応を行い、多くの高

校生・保護者等が訪れていました。

大阪会場の来場者数は742人で、大阪で開催した過去10年で最多の来場者数を記録しました。8月19日（土）に開催した東京会場での来場者数1,203人を加えると、今年度は2会場で1,945人となりました。

（アドミッションセンター）



全体説明で挨拶する名和総長



本学の魅力について説明する長谷川理事・副学長



総長・副学長と話そうコーナーで対応する名和総長と長谷川理事・副学長



入試制度の説明をする藤田アドミッションセンター副センター長



北大生と話そうコーナーの様子



学部相談ブースの様子

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

## 北大フロンティア基金情報

基金累計額 (10月31日現在)

21,417件 4,249,337,981円

## 10月のご寄附状況

法人等21社、個人126名の方々から18,407,717円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

### 寄附者ご芳名 (法人等)

アトリエテッラ株式会社、大塚ホールディングス株式会社、株式会社木村工務店、株式会社グランビスタ ホテル&リゾート 札幌グランドホテル、医療法人 徳洲会 札幌東徳洲会病院、株式会社ジーシー、株式会社シード、医療法人 仁楡会 仁楡会病院、社会医療法人 製鉄記念室蘭病院、医療法人社団 つつみ整形外科クリニック、デンツプライシロナ株式会社、医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院、医療法人社団 心優会 中江病院、社会医療法人 函館博栄会、医療法人 喬成会 花川病院、北大医学部46期、北大全学教育基礎科目教科書『地球惑星科学入門』著者一同、公益財団法人 北海道結核予防会、北海道厚生農業協同組合連合会、社会保険労務士法人 北海道賃金労務研究所

### 寄附者ご芳名 (個人)

合川 正幸	浅野 賢二	安部秀太郎	安藤 孝夫	飯田 彰	生駒 一憲	入澤 秀次	上田 康夫
内田 文雄	太田 博	小内 透	小原 大和	帰山 雅秀	金井 壮律	金川 眞行	河本 充司
菅野 保	喜田 明裕	木村 幸文	小西 新蔵	小林 國彦	斉藤 久	桜井 謙介	櫻田 恵右
佐藤 嘉晃	佐野 英彦	三升畑元基	志賀 敏彦	渋谷真希子	數土 文夫	住田 啓	瀬名波栄潤
高田 賢蔵	高橋順一郎	田中 佐織	田中 利男	土家 琢磨	寺澤 睦	豊田 威信	中田 聖志
中津川孝道	長嶺 正紀	中村 橋夫	中村 昌弘	長屋 良行	滑川 貴彦	羽角 淳	鉢呂 喜一
八田 光世	姫野 雅子	藤川 豊美	古田 康	北條 敬之	本郷 博久	牧 健太郎	箕輪 和行
柳川三千代	吉田 貴生	吉田 敏雄	吉田 広志				

### 銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)

#### (法人等)

株式会社グランビスタ ホテル&リゾート 札幌グランドホテル、医療法人 徳洲会 札幌東徳洲会病院、株式会社シード、医療法人 仁楡会 仁楡会病院、社会医療法人 製鉄記念室蘭病院、医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院、医療法人社団 心優会 中江病院、社会医療法人 函館博栄会、医療法人 喬成会 花川病院、公益財団法人 北海道結核予防会、北海道厚生農業協同組合連合会、社会保険労務士法人 北海道賃金労務研究所

## (個人)

安藤 孝夫, 生駒 一憲, 菅野 保, 櫻田 恵右, 高田 賢蔵, 高橋順一郎, 中村 楯夫, 牧 健太郎, 吉田 敏雄

## 感謝状の贈呈



水谷匡宏 様 (平成29年10月4日)



北海道ガス株式会社 様(平成29年10月13日)



空沼小屋の保存を考える会・北大山の会 様  
(平成29年10月13日)



安間 莊 様 (平成29年10月13日)



加藤 元 様 (平成29年10月17日)

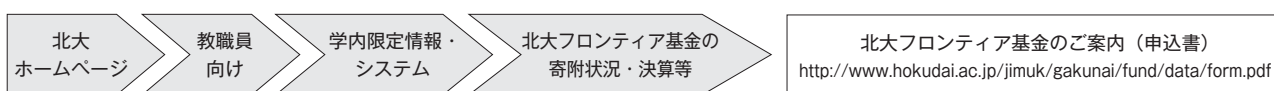


佐々木俊夫 様 (平成29年10月26日)

## ご寄附のお申し込み方法

## ① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



## ② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

## ③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

## ④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ (<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>) のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (事務局・学内電話 2017)

(総務企画部広報課)

## イチョウ並木の一般開放を実施

10月29日（日）、観光客や市民の皆様が安全に黄葉を鑑賞できるように、北13条通りの車両通行を規制して「イチョウ並木の一般開放」を実施しました。

天気は曇り空でしたが比較的暖かく、一万人を超す方々が訪れました。来場者は、イチョウで埋めつくされた黄色のじゅうたんをゆっくりと歩き、

写真撮影するなど、秋の一日を満喫していました。

また、10月28日（土）・29日（日）には、北大元気プロジェクト採択団体が、飲食屋台やイチョウ並木のライトアップなどの「北大金葉祭」を実施し、黄葉の鑑賞を盛り上げました。

（総務企画部広報課）



北13条通りのイチョウ並木

## サクシュコトニ川リフレッシュの実施

9月8日（金）から10月27日（金）にかけて、サクシュコトニ川のリフレッシュとして浚渫（しゅんせつ：水底の土砂や岩石をさらうこと）や安全対策工事を実施しました。

札幌キャンパスの中央を流れる現在のサクシュコトニ川は、「北海道大学キャンパス・マスタープラン96」に基づき、本学創基125周年記念事業の一環として、平成13年から3年がかりの工事で再生したものです。しかし近年、経年によりヘドロなどが堆積し、悪臭や蚊の発生が確認されていました。

この度のリフレッシュは、平成15年

12月のサクシュコトニ川再生以降、初めて本格的に実施したもので、生態環境を専門とする教員の助言を受けて、中央ローンの吹出口から大野池南側のボードウォークまでの約750mについて、浚渫を行いました。浚渫は、上流部の水路底部にエアを吹き付け、ヘドロや落ち葉を下流部に堆積させた後除去することにより行い、約65m<sup>3</sup>もの堆積物を除去しました。

また、水の供給を約3週間停止し、水路底部一部の石敷、飛び石の固定及び一部護岸の整備工事をあわせて実施しました。

本学では、今後もサクシュコトニ川

のせせらぎと、これらを含めた自然豊かなキャンパスを、将来にわたって保っていきたいと考えています。

（施設部環境配慮促進課）



水底底部のエア吹きつけ



汚泥搬出



完成後の通水状況



完成後風景



## 北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行



全員での記念撮影



名和総長から給付証書授与

北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を、10月17日（火）に国際連携機構大会議室で行いました。

授与式には名和豊春総長、笠原正典国際連携機構長をはじめ、徳久治彦理事・事務局長、留学生が所属する部局等の長、指導教員など関係者が出席し、北海道大学総長奨励金被給付留学生には給付証書、北海道大学私費外国人留学生特待プログラムに採用された留学生には採用証書が、名和総長から授与されました。留学生は緊張しながらも、誇らしげに証書を受け取っていました。

留学生一人ひとりに証書が手渡された後、名和総長から祝辞が述べられ、

「これから各自が進めようとしている研究計画を必ず達成し、後に続く外国人留学生の目標となしてほしい、また、学内の留学生を支援するサポートデスク及び日本人学生や地域の人々と交流できるたくさんの行事や催し物があるので積極的に参加し、健康で、研究に専念し、心豊かな学生生活を過ごしてほしい」との激励の言葉を、留学生は熱心に聞き入っていました。

北海道大学総長奨励金は、優秀な外国人留学生が自由に、そして安心して学ぶことができることを目的として平成18年度に開始された制度です。修士課程、博士後期課程（医学院、歯学院、獣医学研究院及び生命科学院臨床薬学専攻については博士課程）、専門職学位課程等に、協定校等から推薦さ

れた者を選考の上、受入れを行っています。

北海道大学私費外国人留学生特待プログラムは、国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開始された制度です。博士後期課程（医学院、歯学院、獣医学研究院及び生命科学院臨床薬学専攻については博士課程）、博士課程教育リーディングプログラムに選抜された修士課程と博士後期課程（獣医学研究院については博士課程）に入学する私費外国人留学生を対象にしており、アドミッションポリシー、研究分野、研究の課題等を明確にしたプログラムに基づき受入れを行っています。

（国際部国際教務課）

## 平成29年度秋季外国人留学生ウェルカムパーティーを開催

10月12日（木）、北部食堂において、国際連携機構主催で平成29年5月以降に本学に入学した留学生を対象としてウェルカムパーティーを開催しました。

この行事は、新入留学生が出身国や専攻分野の垣根を越えて、留学生同士、及び日本人学生等との交流の機会を提供することで本学での留学がより実りあるものになることを目的に実施

するもので、新渡戸カレッジ生を中心とした日本人学生ボランティア14名も含め、約270名が参加しました。

パーティーは、総長補佐で国際連携機構留学生生活支援室長であるミシェル・ラフェイ・ケイ准教授の挨拶に始まり、司会の蟹江紗耶子さん（農学院修士課程2年）、木下靖崇さん（法学部1年）の乾杯で開会しました。新入生を代表して、理学研究院生のドウ・



パーティー開始直後の様子

ティ・フンさん（ベトナム出身）、工学研究院生のシルワンバ・マーシアスさん（ザンビア出身）ら2名により今後の学生生活について希望に満ちた抱負が述べられました。

続いてオープニングアクトとして、民謡研究会合唱団「わだち」による演舞が披露され、日本伝統民舞の迫力あるパフォーマンスに会場は盛り上がり、留学生は写真を撮るなど熱心に見

入っていました。また、パーティー後半には、軽音楽研究会のブルーグラス研究会によるバンジョーなどの生演奏の軽快なリズムと歌声に聞き入る姿や、ヒューマンビンゴなどのアトラクションが行われ、日本の文化の一つであるじゃんけんを通して、北海道ゆかりの品がそろう景品を勝ち取るなどの留学生の姿が見られました。

また、このパーティーは日本人学生

ボランティアが中心として企画運営をしており、パーティーに参加したことに対する前向きな意見が多く見られました。参加した留学生らは互いに親交を深め、新たな交流の輪を広げていました。

（国際部国際教務課）



（左から）ラフェイ准教授、司会の蟹江さん、木下さん



留学生代表挨拶



みんなでじゃんけん

## 秋のガレージセールを開催

10月3日（火）、国際連携機構ロビー及び学生生活動室において、秋のガレージセールを開催しました。これは、本学の教職員の妻と女性教職員で構成されている北海道大学国際婦人交流会が春と秋の年2回行っているもので、留学生と外国人研究者に対して日常生活に必要な物資を提供しているものです。

当日はあいにくの雨にもかかわらず開場前から長い列ができ、来場者は開場とともに炊飯器、アイロンといった小型家電や、食器や調理器具など日用品のコーナーに詰めかけていました。来場者数は約250名でした。これからの時期に向けて毛布や布団など寝具が特に人気で、多くの留学生が手に大きな荷物を抱え、満足そうな顔つきで会場を後にしていました。

毎年4月と10月の開催前には学内に向けて物品提供依頼をしています。皆様のご協力をお願いいたします。

（国際部国際教務課）



開場前から列を作る来場者



賑わう日用品コーナー



人気の寝具コーナー



屋外の無料コーナー

## 北海道地区FD・SD推進協議会総会及び北海道FD・SDフォーラム2017を開催

北海道地区FD・SD推進協議会総会及び北海道FD・SDフォーラム2017を9月1日（金）に高等教育推進機構S講義棟において開催しました。

本協議会は、参加校である道内51の大学・短期大学・高等専門学校が連携・協同して、FD、SD及びTAD<sup>\*</sup>の推進に係る情報の交換・共有やプログラムの共同開発を目的として、平成21年10月に設立され、本学が代表幹事校を務めています。

開催にあたり、長谷川晃理事・副学長からの挨拶の後、総会が行われました。午後からは、北海道地区FD・SD推進協議会及び高等教育推進機構高等教育研修センターが共催し、初めての開催となる「北海道FD・SDフォーラム2017」が行われました。

本フォーラムでは、はじめに、桜美林大学の篠田道夫教授による「マネジメント改革、3P・教育の質向上、

SDの義務化を考える」と題した講演が行われ、出席した関係者は熱心に聞き入っていました。次いで、小樽商科大学の深田秀実氏、北海道科学大学の北條 誠氏、北海道医療大学の笠原晴生氏から「教職協働の取り組み強化のために」をテーマとして、各大学の取組事例の報告が行われた後、全体討論が行われ、活発な質疑応答が行われました。

その後、FD・SDについて、広いテーマで公募した発表者による個人発

表を実施しました。個人発表では、各テーマに分かれ、発表者から実践報告等が行われ、参加者と情報共有・意見交換を行いました。参加者にとってFDやSDについて理解を深める良い機会となりました。

<sup>\*</sup>TAD (Teaching Assistant Development) ティーチング・アシスタント (TA) の教育能力向上のための組織的取組み。

(学務部学務企画課)



講演を行う桜美林大学の篠田教授



全体討論の様子

## 高等教育推進機構等自衛消防訓練を実施

高等教育推進機構、附属図書館北図書館、メディア・コミュニケーション研究院、放送大学北海道学習センターを構成員とする共同防火管理協議会では、10月19日（木）に自衛消防訓練を実施しました。

訓練は高等教育推進機構N棟2階化学学生第2実験室から出火したとの想定で、札幌市北消防署の立会いのもと、約500名の学生・教職員が参加し、自衛消防隊が通報連絡、初期消火及び避難誘導等の一連の訓練に取り組みました。また、特別修学支援室と連携し、災害時に避難が困難となることが予想される肢体不自由学生及び視覚障害学生の救護訓練を実施しました。

訓練終了後、札幌市北消防署員から

「各自衛消防隊は適切に行動していたが、大きな声を出して意思疎通をはかることが大切である」などの講評がありました。続いて、自衛消防隊本部長である長谷川晃理事・副学長から「災害時には落ち着いて行動するとともに、自分の命を守りつつ、周囲の人

への配慮も忘れないでほしい」との挨拶がありました。

最後に、水消火器の操作訓練が行われ、実際の火災に備えた実戦的な訓練を行うことができました。

(学務部学務企画課)



長谷川理事・副学長の挨拶



水消火器による消火訓練

## インターナショナルハウス等で消防避難訓練を実施

国際部では、10月21日（土）にインターナショナルハウス北8条東、インターナショナルハウス北8条、インターナショナルハウス北23条、インターナショナルハウス伏見、外国人研究者等宿泊施設の5か所で、消防避難訓練を実施しました。

当日は、穏やかな天候の下、居住者171名が参加し、宿舎に配置されたチューターと管理人が連携して初期消火から声かけ、119番通報、避難誘導へと続く火災発生時の手順を確認しま

した。

講話では、火災発生時の通報及び避難手順に加え、地震が起こった際の注意点についても日本語と英語で説明しました。

また、訓練に引き続き、消火器を使った模擬消火体験を実施し、多くの参加者が消火器を手にとって使用方法を学びました。

（国際部国際教務課）



札幌東警察署による講話  
（指定避難場所である信行寺にて）



消火器の説明を聞く参加者



階毎に点呼を受ける参加者



消火器を用いた模擬消火体験

## 留学生と札幌市民で行く防災バスツアーを実施



さとらんどでの記念写真

国際連携機構では、留学生と札幌市民（外国人市民・日本人市民）が一緒に防災について考えるバスツアーを、10月28日（土）に公益財団法人札幌国際プラザと共同で実施しました。26人の本学留学生を含む41人の外国人と37人の日本人が参加し、バス2台で白石

区にある札幌市民防災センターを訪れました。センターでは、模擬消火器を使って鍋から出た火を消す訓練や、震度7の揺れを体感できるシミュレーター体験、風速30m/sの暴風体験、火事により煙が充満した部屋から逃げる訓練などを行いました。参加者はリア



バター作り体験

ルなシミュレーターを楽しみながら、時には真剣に、災害時に自分の身を守る方法を学んでいました。その後、会議室に移動し、札幌市民防災センター長から災害の時に携帯電話やテレビなどで発信される災害速報・アラートについての説明を受け、具体的にどうい

う避難行動を取ればよいか等を学びました。

昼食はサッポロビール園へ移動し、市民の皆様ジンギスカン鍋の作り方・食べ方を教わりながら、一緒に鍋を囲みました。参加していた中学生



地震防災訓練

は、習いたての英語で一生懸命説明してくれました。その後サッポロさくらんどを訪れ、牧場の動物と触れ合ったり、バター作りを体験したりしました。

留学生は、防災についての知識のみ



災害時の対応や避難所での生活について学ぶ参加者

でなく、日本人参加者との交流を通して日本での生活のヒントを得ることもできたようです。

(国際連携機構)



消火訓練

## 情報セキュリティ対策セミナーを開催

11月1日(水)、工学部フロンティア応用科学研究棟2階レクチャーホール(鈴木章ホール)において、情報環境推進本部主催の「情報セキュリティ対策セミナー」を開催しました。

セミナーには、株式会社ラック事業企画推進室理事の長谷川長一氏(セキュリティ教育業務担当)を講師に迎え、情報セキュリティに関わる管理・監督者を対象に、「大学におけるサイバー攻撃の傾向と対策～経営視点でのセキュリティ～」と題し、大学特有の狙われやすい情報やシステム管理のあり方などについて、事例を交えて講演いただきました。同氏の講演は昨年引き続くもので、今回は高等教育機関における管理体制の構築、すぐ動ける体制づくりの必要性、組織を取り巻く脅威等についても触れられ、大変貴重な内容でした。

また、長谷川氏の講演の後には、南弘征情報セキュリティ対策室長から、本学の情報セキュリティに関する現状等の解説が行われました。

セミナーには、理事及び部局長をはじめ、教職員並びに学生等約100名が参加し、病院における患者データや学生に関連した教務データへの対応事例、Webページの改ざんに関する質疑応答もあり、個々人のみならず、組織としての意識の高まりも伝わってきました。



講演する長谷川講師

ました。

情報環境推進本部では、今後もサイバーセキュリティセンター(情報基盤センター)との連携協力のもと情報セキュリティに関するセミナー等を開催するなどして、本学の教職員及び学生の情報セキュリティに関する意識強化に取り組んでいきます。

(情報環境推進本部)



現状を解説する南情報セキュリティ対策室長

## キッズ フォレスト2017に参加

創成研究機構では、本学が研究活動を社会・国民に対してわかりやすく説明する、国民との科学・技術対話推進事業「Academic Fantasista」を行っており、2017年度は23名の研究者たちが、それぞれの研究内容、研究そのものの意義を札幌市内の高校生を中心に出張講義や公開講義で伝える活動をしています。

この事業の一環として、9月30日（土）・10月1日（日）にサッポロファクトリーで開催された「キッズフォレスト2017（北海道新聞社主催）」の「科学の森」に2名の教授が参加しました。

理学研究院・創成研究機構の冨本尚義教授（JAXA特任教授）は、2日間にわたり、2つの公演を行いました。「玉手箱の中身は?!はやぶさ2のミッション」では、アトリウムステージにて、イトカワサンプルの分析結果や「はやぶさ2」のミッションについて

解説しました。「惑星・小惑星をめぐるバーチャルツアー！2017年 太陽系の旅」では、株式会社内田洋行「札幌ユビキタス協創広場U-cala」にて、事前募集で抽選に当選した小学3～6年生の親子20組を対象に、太陽系の惑星や、イトカワなどの小惑星について解説しました。冨本教授の案内のもと宇宙旅行に出発した子供たちは目を輝かせて聞き入っており、宇宙の冒険を楽しんでいました。

情報科学研究科の小野哲雄教授は、「札幌ユビキタス協創広場U-cala」にて、事前募集で抽選に当選した小学3～6年生の親子20組を対象に「ロボットが街にやって来る！人とロボットの共生の時代にむけて」と題して2回にわたり講演しました。ロボットの種類についての解説や、アニメやキャラクターからアイデアを得て作られたロボットの紹介に、子供たちは熱心に耳を傾けていました。公演の最後には、

実際にロボットと触れ合ったり、自分でロボットを操作したりと、積極的に参加していました。

公的な研究資金を受ける研究者は、その責任として研究成果や研究の必要性を国民に伝えていく必要があります。創成研究機構研究支援室は、Academic Fantasista事業内外にかかわらず、今後も市民の皆様と研究者が触れ合える機会の提供に努めて参ります。

（創成研究機構）



冨本教授による講演



小学生からの質問に丁寧に答える冨本教授



小野教授による講演



ロボットも一緒に

## アグリビジネス創出フェア2017に出展

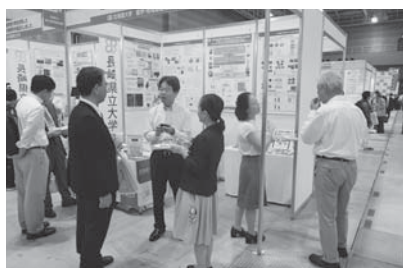
産学・地域協働推進機構及び大学力強化推進本部食科学プラットフォームは、10月4日（水）～6日（金）の3日間にわたり、東京ビッグサイトで開催されたアグリビジネス創出フェア2017に出展しました。

今回のブースは、当プラットフォームが推進している、農林水産省農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「北方圏紅藻類の資源開発とその健康機能・素材特性を活かした次世代型機能性食品の創出」の研究成果の展示を目的に出展しました。

ブースでは、スーパーフードとして話題の紅藻類「ダルス」の機能性を表したポスターや試作品の展示を行ったほか、株式会社満寿屋商店（北海道帯広市）のご協力により、ダルスパンの

試食も行いました。磯の香りがするダルス入りのパンを試食された方々から、「美味しい」という感想を多数いただきました。当日の様子はテレビ番組にも取り上げられ、放映されました。

また、農林水産省産学連携コーディネーターの案内による「マッチングサポートツアー」のブース訪問も受け、

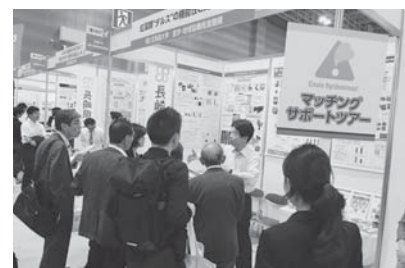


「ダルスパン」試食提供の様子

当機構長及びプラットフォーム長の木曾良信特任教授が参加者に研究内容を説明しました。

当機構及びプラットフォームでは、今後もダルスの機能性を明らかにしつつ、事業化の支援をしてまいります。

（産学・地域協働推進機構、大学力強化推進本部）



「マッチングサポートツアー」のブース来訪

## 地域の中核人材育成プログラム 「地域協働ファシリテーター育成講座」を始動

産学・地域協働推進機構は、10月18日（水）に大地みらい信用金庫札幌支店2階オープンフロアにおいて「地域協働ファシリテーター育成講座」を開始し、北海道内の地域金融機関（地方銀行・信用金庫・信用組合）職員や行政担当者ら15人が参加しました。

当講座は、地方創生が活発に議論される中で、地域内の行政や産業界、住民との対話が必要不可欠となることから、地域のステークホルダーと日常的に接している地域金融機関の若手・中堅職員がファシリテーションの基礎知

識を身に付け、現状の把握、課題の抽出、資料収集・整理、インタビューなどを通じ、地方創生のために必要な産学官金連携の中核となる人材育成を目的としています。

当講座は本学の第3期中期目標・中期計画の中で地域協働プロジェクトに位置付けされ、産学・地域協働推進機構人材育成部門長の末富 弘特任教授が担当し、3月下旬まで毎月2回の開催を予定しています。

講師を務めたシゴトツクル代表の本宮大輔氏は「ファシリテーションは協

働作業です。対話を通じ、お互いの持っている知識や経験を出し合って学んでいく姿勢が重要となります」と話されました。

また、今後この講座を踏まえ、産学官金連携のために必要な各金融機関へのヒアリングや文献調査、地方自治体へのフィールドワーク候補地策定などを行い、現場に即した人材育成のプログラムを開発していくことを目指します。

（産学・地域協働推進機構）



プロジェクトの趣旨を説明する末富特任教授



ファシリテーターに必要な観点を説明するシゴトツクル代表の本宮氏



ワークショップ形式で行う授業

# 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで 第32回「赤い糸会&緑の会」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、9月28日（木）に学術交流会館にて本年度第1回「赤い糸会&緑の会」を開催しました。

本会は、企業と若手研究者（DC、PD）との直接情報交換会であり、企業には若手研究者の高い専門性や総合力を理解いただき、若手研究者には企業の研究開発活動や企業における博士の活躍状況等を知ってもらうことで、相互理解を深め、視野の複線化、活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回で「赤い糸会&緑の会」は通算32回目の開催となり、若手研究者の参加も回を重ねるにつれ増加し、10部局からDC44名、また、平成26年度末より採択された科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業で、東北大学から3名、名古屋大学から2名、横浜国立大学から1名の若手研究者も参加しました。企業からは、各種業界から16社（36名）、オプザーバ大学4校及び

科学技術振興機構（JST）など総勢43名にご参加いただきました。

本会では、冒頭の人材育成本部長の笠原正典理事・副学長による開会挨拶、赤い糸会担当の樋口直樹特任教授による趣旨説明の後、参加企業の皆様から業界動向や博士の活躍状況等の紹介が行われ、その後、若手研究者の自己紹介ポスター発表、企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行われました。さらには、この「赤い糸会&緑の会」を通じて企業に就職した若手研究者の先輩方が今回は1名企業説明会に参加し、後輩達に対して熱い思いを語ってくれました。

開催後の企業側のコメントからも、「初参加でしたが非常に優秀な学生に出会うことができ良かったと思います」「学生との貴重な接触機会として今後も参加させていただきたいです」との声をいただきました。また参加した若手研究者からは、「参加しなければわからないことが多くあり、非常に

有意義だった。企業の方と気軽に話せる機会を作っていただけて感謝しています」「興味のある会社と情報交換できて進路決定の参考になりました」といった嬉しい声も聞かれました。

人材育成本部では、以上の活動に加えて、企業事業所視察、Advanced COSA、J-window、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップ等を通して、これまで以上に若手研究者の実践力を高めることへ注力しているとともに、コンソーシアム結成により、東北大学や名古屋大学等が運営しているより多くの洗練されたプログラムも博士達に活用されています。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、興味のある方は人材育成本部のホームページをぜひご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



笠原人材育成本部長の開会挨拶



樋口人材育成本部特任教授の趣旨説明



企業からの業界動向説明



説明に聞き入る若手研究者



若手研究者のポスター発表



企業との個別情報交換



## ■ 部局ニュース

# 人獣共通感染症リサーチセンター，獣医学研究院及び水産科学研究院が「ISO17025」の認定を取得

OIE（国際獣疫事務局）レファレンスラボラトリーとして指定されている人獣共通感染症リサーチセンターが本年3月7日付けで、水産科学研究院が9月19日付けで検査や試験の技術能力を証明する国際規格である「ISO17025」の認定をそれぞれ取得しました。これにより、検査能力の信頼性に国際機関からの裏付けが得られたこととなります。ISO17025認定は本学としては初の事例で、2つのレファレンスラボラトリーは引き続き、国際社会からの信頼に応えながら質の高い検査を提供してまいります。

OIEレファレンスラボラトリーは、家畜等の特定の疾病の診断において加盟国への支援を行うためにOIEが指定した研究所で、日本国内には11の疾病について10機関が指定を受けています。人獣共通感染症リサーチセンターは鳥インフルエンザ、水産科学研究院はサケ科魚ヘルペスウイルス病のOIEレファレンスラボラトリーとして、これまで国際的な検査体制の一角を担ってきました。

水産科学研究院所属のチーム（代

表：水産科学研究院 笠井久会准教授）は、平成5年にOIEレファレンスラボラトリーに指定されました。同チームは、サケ科魚類のふ化放流事業並びに養殖産業上の重要課題の一つであるヘルペスウイルス病について、検査だけでなく、防除対策による衛生面の向上と生産安定化に取り組んでいます。これらの貢献を通して培った技術と信頼は、北海道だけでなく、国際的にも高い評価を得ています。

人獣共通感染症リサーチセンター並びに獣医学研究院の教員らで構成されるチーム（代表：人獣共通感染症リサーチセンター 喜田 宏統括）は、平成17年よりOIEレファレンスラボラトリーとして、アジア各国で問題となっている鳥インフルエンザの検査業務に従事しています。検査実績は日本国内外で高く評価されており、同チームは環境省の死亡野鳥等調査の確定検査機関としても指定されています。また、研究面でも日本国内やモンゴル、ベトナムなどでサーベイランス調査を行うなど、国際共同研究を積極的に推進しています。

いずれのレファレンスラボラトリーも、ウイルス感染症という国境のない課題に取り組んでいる研究室が母体となっており、地道な研究活動とその継続のための努力がOIEによるレファレンスラボラトリーの指定と、今回のISO17025認定につながったと言えます。いずれのチームも、大学生・大学院生教育に携わる大学教員から構成されているため、国際認証を受けた検査体制から得られた知見を教育現場にフィードバックしています。また、本学における検査・教育体制の強化だけでなく、海外で次世代のレファレンスラボラトリーを育てる事業であるOIEツイニングにも積極的に参加するなど、教育・研究・国際貢献が三位一体となった大学ならではのアプローチで、これからも引き続き国際社会での役割を果たしていく所存です。

（人獣共通感染症リサーチセンター，  
獣医学院・獣医学研究院・獣医学部，  
水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



人獣共通感染症リサーチセンター，獣医学研究院



水産科学研究院

## 生命科学院が「第5回生命科学国際シンポジウム」を開催



集合写真

10月28日（土）学術交流会館を会場に“The 5<sup>th</sup> International Life-Science Symposium（第5回生命科学国際シンポジウム）”を開催しました。本シンポジウムは、国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムとして生命科学院が実施する「次世代の生命科学グローバルリーダー養成プログラム（IGP-GLLS）」と国際連携研究教育局（GI-CoRE）が共催する国際シンポジウムで、生命科学院の学生を中心に企画・運営を行いました。

本年度も、今後、世界の生命科学研究を担う若手研究者のために異文化交流の足掛かりとしてこの学会を位置づけ、留学生を含む若手研究者同士の情報交換を通して、自らの研究をトップレベルに発展させ、生命科学分野のリーダーを目指すという目標のもと、留学生50名を含む120名が参加し、口頭発表及びポスター発表を通して、活発な意見交換が行われました。

招待講演では、東京大学大学院農学生命科学研究科の伏信進矢先生をお招きしました。先生のX線結晶構造解析技術を駆使した様々な酵素機能についての研究成果に加えて、ご自身の経験談を交えて科学者として世界で活躍するために必要な心構えについてご講演いただき、参加者は熱心に耳を傾けていました。

シンポジウム終了後は、本年度10月入学のIGP-GLLS留学生19名の歓迎会と優秀口頭発表賞の授賞式を兼ねた懇

親会を中央食堂2階で行いました。本年度は、13名の発表者の中から新井達也さん、Shobaki Nour A. K.さん、Schenz Daniel T.さんの3名に優秀口頭発表賞が贈られました。参加者はお互いの研究から普段の生活まで国という垣根をなくして語り合いました。

本シンポジウムは、北大という世界中から若手研究者が集まる環境を利用してお互いに活発な討論を行うことで、参加した留学生と日本人学生が将来的に国際的な場で活躍するための一助となり、将来のますますの発展を手助けするものになったと思います。

開催にあたりご指導・ご協力いただいた先生方、ご支援いただいた事務担当者の方々、準備・運営にご協力いただいた留学生、学生の方々に深くお礼申し上げます。

（生命科学院・先端生命科学研究院）



ポスター発表の様子



東京大学 伏信先生による講演

## 保健科学研究院公開講座「ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ」を開催

保健科学研究院の公開講座「ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ」を11月3日（金・祝）に開催し、3名の講師が専門分野の紹介を行い、88名の参加がありました。

第1限目は、進藤ゆかり助教が「痛みは病気のサイン! - 帯状疱疹後神経痛にならないために -」と題して、高齢者が罹患しやすい急性帯状疱疹、帯状疱疹後神経痛に関して、最新の研究成果を基に予防に必要な知識について

講演しました。

第2限目は、政氏伸夫准教授が「生

命（いのち）をささえる血液のはなし」と題して、「息」をすること、



政氏准教授による講演の様子



質疑応答の様子

「脈」が触れること、これらの「生命（いのち）」のサインと「血液」の関わりについて講演しました。

第3限目は、大槻美佳准教授が「脳のふしぎ－脳機能の最新の知見からさまざまな症状への対応まで－」と題して、高次脳機能障害、失語症、認知症

など、脳の不具合で生じる症状を最新の脳科学の知見からその対応について講演しました。

参加者からは大変好評を博し、様々な質問があり、各講師はわかりやすく丁寧に解説を行いました。

今後も毎年、その時代を反映するよ

うなテーマや、興味を持って参加いただけるようなテーマを設定して、公開講座を開催していく予定です。

(保健科学院・保健科学研究院)

## 平成29年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス!」が終了

水産学部では8月7日(月)から10月9日(月・祝)まで、全5回の公開講座「海をまるごとサイエンス!」を開講し、水産学部で行っている「海・川・湖を舞台とした総合的な理科(生物学, 化学, 物理学, 地学)」の研究について、教員が講義を行いました。

練習船で大海原に乗り出での調査から室内での緻密な実験まで多様な研究内容が紹介され、受講者からは毎回多くの質問が寄せられました。

今年はオープンキャンパスや北水祭と同時開催することにより、水産学部に関心のある高校生が多く出席したり、受講者が北水祭の出店を楽しんだりといった様子も見られました。

最終回では、3回以上出席した37名の受講生に安井 肇研究院長から修了証書が手渡されました。

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)



熱心に聞き入る受講生



講義を行う高木教授



研究で扱う器具を紹介する野村助教



安井研究院長より修了証書の授与

### 講演題目と講師

第1回 「ヤドカリの横恋慕」	水産科学研究院	教授	和田 哲
第2回 「魚類の遊泳能力」	水産科学研究院	教授	高木 力
第3回 「コンブの生存戦略」	水産科学研究院	教授	水田 浩之
第4回 「海洋生物の毒と薬」	水産科学研究院	准教授	藤田 雅紀
第5回 「凍る海の不思議」	水産科学研究院	助教	野村 大樹

## 国際食資源学院でFD研修会を開催

国際食資源学院では、10月13日（金）にフィリップ・カルプCIRAD（フランス農業開発研究国際協力センター）上席研究員を講師に迎え、ランチョンセミナー兼FD研修会を開催しました。講演・研修テーマは、「アフリカにおける安全確保の仕方（Security Rules on African Field）」で、英語で行われました。カルプ氏はマダガスカルやカメルーンなどの調査研究の経験が豊富で、現在はケニア在住です。

国際食資源学院では、所属大学院生や教員がワンダーフォーゲル実習や、共同研究、現地調査で海外に行くことも多く、自らの安全をどのように確保するかが重要な課題となっており、今回、カルプ氏に講演を依頼しました。

当日は、1時間の短い時間でしたが、冒頭の山田敏彦教務・学生委員長からセミナーの趣旨説明があり、農学部・農学院も含め、約20人の教職員と学生が出席し、カルプ氏の講演を聞いた後、活発な質疑応答が行われました。講演内容は、アフリカの地理や言語的範囲、食べ物と病気のリスクについての具体的な解説があり、さらにはアフリカの深刻な政治的混乱やテロリズム、暴力の実態が緊張感をもって伝えられました。

質問では、実際にテロに遭った時はどうしたらよいかなど、実用的で一般的に応用が効く内容のものが多く、カルプ氏の話をもとめると、現地の情報を得て危険回避の行動をとるしかない

という結論になりました。現地政情について情報を得るにしても、言語の違いや、通信・インターネット回線の悪さ、地域住民だけが持つネットワークなどがあり、現地協力者がいたとしても、なかなかアクセスできません。安全に関して絶対という神話はないのだと改めて認識し、研究・開発プロジェクトを進めていくために、それぞれの自覚を促した機会となりました。

講演者のカルプ氏には、貴重な情報をいただき、改めて感謝申し上げます。

（国際食資源学院）



山田教務・学生委員長からの挨拶



講師のカルプ氏



研修会の様子

## 経済学研究院で研究会「地域格差をどう考えるか」を開催

経済学研究院では、10月13日（金）に経済学研究棟3階会議室において、格差論の第一人者である橋本俊詔京都大学名誉教授による、「地域格差をどう考えるか」と題した研究会を地域経済経営ネットワーク研究センターとの共催で開催しました。

橋本教授による報告では、福井県がなぜ都道府県幸福度ランキングで25年間1位にランクしているかという話題から始まり、正社員比率、女性の労働力率、持ち家比率、公立小中学生の学力、一人暮らしの高齢者率の低さ、待機児童率の低さで上位にランクされるなど、仕事、暮らし、教育など生活の

多くの側面で客観的指標が高いことが示されました。また、国別の主観的幸福度のランキングではデンマークやノルウェーなどの北欧諸国が上位に連なっており、女性の労働力率の高さや子供の学力の高さなど、日本で（客観的指標による）幸福度ランキングの高い福井県をはじめとする北陸地域との類似性が指摘されました。

さらに、東京一極集中ではなく東京を縮小し札幌や福岡など全国で8つ程度の同規模の都市を作ることで地域間格差を緩和するというハケ岳スタイルの地域構造を目指してはどうかという提案もありました。これに対して参加

者から、東京への集中を政策的に抑えるのは、競合するアジアの主要都市との競争力を弱めてひいては日本の競争力を低下させるおそれがある、北海道の中では札幌一極集中の問題があり、札幌と地方の格差の方が問題である、



研究会の様子

地域間格差より人口減少が焦眉の課題である、という意見が出て活発な議論となりました。

当日は、本学の教職員と学生合わせ

て20名程度の参加者が集まり、橘木教授の軽妙な語り口もあって、和やかな中にも多くの発言があり、上述の論点に結論は出ませんでした。問題に対

する理解が深まり有意義な研究会となりました。

(経済学院・経済学研究院・経済学部)

## 経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでセミナーを開催

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでは、日本計画行政学会北海道支部との共催により、10月17日（火）に学术交流会館小講堂で、シンポジウム「北海道の地域づくり、まちづくり—夕張から学ぶ—」を開催しました。

シンポジウムでは、まず、鈴木直道夕張市長に「RESTART Challenge More」と題して基調講演をいただきました。鈴木市長は、夕張市の財政破綻後に東京都職員として夕張市支援のために派遣されました。その後東京都庁を退職、夕張市長に立候補され、現在2期目の任期を務められています。この間、日本で唯一の財政再生団体（いわゆる赤字再建自治体）である夕張市の厳しい舵取りにあたられてきました。市長の指揮の下、夕張市は再建計画を見直し、今春、総務省からこれが認められ、夕張市のまちづくりは新たなスタートを切ったところです。

本シンポジウムは、夕張市が再スタートを切ったタイミングにあわせ、

人口減と財政難の中でまちづくりを進める、いわば日本の未来の縮図のような夕張市から何が学べるかを考えようとしたものです。基調講演で、鈴木市長は、夕張市の状況、コンパクトシティ実現に向けた計画、交通問題やエネルギー産業への期待等を詳細に語られました。ユーモアを交えながらの1時間余りの講演は、聴衆を引きつけ、夕張市に学ぶべきことの意義の大きさを考える時間となりました。

その後、鈴木市長の講演を受けて鼎談を行いました。鈴木市長は当初予定していた鼎談への参加はかありません

でしたが、日本計画行政学会北海道支部長の押谷 一酪農学園大学教授を司会に、吉地 望北海道武蔵女子短期大学教授、吉見 宏経済学研究院教授が登壇しました。鼎談では、夕張市の方向性への高い評価と、鈴木市長のリーダーシップ、そして研究者の立場からこれらをどのように分析すべきかについて意見が述べられました。

当日は平日午後の時間帯にもかかわらず、一般市民を含め多くの聴衆が参加し、盛会となりました。

(経済学院・経済学研究院・経済学部)



講演する鈴木市長



鼎談の様子

## 経済学部で第4回プレゼン大会を開催

10月19日（木）に経済学部主催「第4回プレゼン大会」を開催しました。「プレゼン・ディベート大会」からの通算で14回目となる本大会には、総勢5チームが参加しました。

当日は、本年度のテーマである「ファイターズの本拠地はどこがい？」に沿って、各チームが、本学や北広島を候補地とした独創的な提案をしました。また、それぞれの発表に対して、他チームから多くの質問が投げかけられ、約3時間にわたって白熱した大会となりました。参加学生にとっては、準備に時間をかけた研究内容を発表する良い機会になり、また、ファイターズの新本拠地球場という共通テーマでも、様々なアプローチがあることを知ることができました。本大会を通じて学んだ内容を今後の学生生活に活かしてもらいたいと思います。参加チームからは「建設的な議論ができた」「テーマに関する議論が盛り上がった」「ゼミ対抗のような大会にしたらおもしろい」という感想や意見が寄せられました。

どのチームの発表も甲乙つけがたい完成度で、審査も慎重を期すものとなりましたが、最終的には、いずれも本学を移転候補地として提案した次の2チームが表彰対象となりました。

優勝チーム「チームロマック」（吉見ゼミ）は、「日本初！キャンパスボールパーク」というテーマで、観客、球団、選手、周辺住民という4つの視点から、本学が候補地として優位性を持つ点を具体的に検討しました。観客や選手にとってのアクセスの良さ、周辺住民の不安解消、本学と球団の連携によるメリットなどが示されました。他候補地との比較も含めて、手堅くまとめている点が高く評価されま

した。

準優勝チーム「高井ゼミ4年生」は、収益性と波及効果に注目し、球団、地域、大学という3つの側面に基づいた提案を行いました。特に、オフシーズンに地域住民の健康対策のために球場を貸し出すなどといったユニークな提案が評価されました。

初の平日開催で運営側は若干の不安を持っていましたが、多くの学生、教員が参加し、盛況のうちに大会を終えることができました。参加学生の皆さん、来場者の方々にお礼申し上げます。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



プレゼンの様子



質疑応答の様子

## 経済学院・経済学部で「学部生，研究生のための大学院ガイダンス」を開催

経済学院・経済学部では，10月26日（木）に，「学部生，研究生のための大学院ガイダンス」を開催しました。本研究院教員2名から，経済学院の各専攻の特色や入学試験制度などについての説明が行われました。その後，現役大学院生4名から，大学院の魅力や院生生活の紹介が行われ，最後に質疑応答という順でガイダンスが進められました。経済学部所属の学生，研究生など，約10名の出席者があり，熱心に内容に耳を傾けていました。

本ガイダンスは，学部生の就職活動が本格的にスタートする前に実施するようにし，学部卒業後の進路が就職だ

けではなく，大学院進学も一つの選択肢であることを知ってもらうことを目的として行っています。

大学院生と学部生が同一の環境で研究活動を行う機会のある理系の学生と比較すると，文系学部生の多くにとって大学院は必ずしも身近な存在ではないことから，大学院がどのようなところなのかについての具体的なイメージが持ちにくい状況にあります。そこで，本ガイダンスでは，経済学院の特徴や，大学院生の研究活動や生活について，教員と大学院生の双方の視点から情報提供を行いました。

出席者からは，受験に際してのコー

ス選択の方法，入学後の学習内容，修士課程が1年で修了可能となる学部生の大学院授業の早期履修制度などについて熱心な質疑応答がなされ，大学院への関心の高さをうかがうことができ，有意義な場となったと考えています。

学生が，卒業後の進路をより多面的に考える機会が得られるよう，経済学院・経済学部では今後もこうしたガイダンスを定期的に開催していく予定です。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



大学院生による「大学院への道」紹介



ガイダンスの様子

## 法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティーを開催



集合写真

10月26日（木）、外国人留学生とサポーター・チューター学生や交換留学経験者、関係教職員を対象とした、法学研究科主催による法学研究科・法学部・公共政策大学院合同の「留学生パーティー」を開催しました。

全学的にも外国人留学生の入学者は年々増加していますが、現在、法学研究科・法学部及び公共政策大学院には

117名の外国人留学生が在籍しています。本パーティーは、今年度新たに入学した留学生に早く大学生活に慣れてもらうこと、苦勞を抱えながら勉学に励んでいる在学生の状況を知ってもらうこと、及び学生間の交流を広げてもらうことを目的として開催しました。

当日は、外国人留学生、日本人学生及び関係教職員ら61名が出席し、留学



パーティーの様子

生が司会を務めました。パーティーは主催者を代表して加藤智章法学研究科長の挨拶で始まりました。参加者は自己紹介やビンゴゲームなどを通じて大いに盛り上がり、互いに親交を深めました。

（法学研究科・法学部）

## 「法科大学院に関するアドバイザリーグループ会議」を開催

11月2日（木）に、東京都千代田区の学士会館において、「第16回法科大学院に関するアドバイザリーグループ会議」を開催しました。

本会議は、法曹界、産業界、教育界等各界において現在中核を成してご活躍されている法学部卒業生の方で構成されており、毎年、法科大学院のみならず、法学研究科全体及び法学部に対して助言をいただいています。

今回は8名の同会議メンバーと、法

学研究科から加藤智章法学研究科長及び山本哲生法科大学院長が出席しました。

会議では、加藤法学研究科長及び山本法科大学院長から本学の近況が報告された後、法科大学院の今後の在り方等について熱の入った活発でかつ貴重な意見交換及び提言がなされ、盛会のうちに終了しました。

（法学研究科・法学部）



会議の様子



# 北方生物圏フィールド科学センターで 「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催

7月22日（土）～9月30日（土）に、雨龍研究林、札幌キャンパス、函館市国際水産・海洋総合研究センター、忍路臨海実験所、白尻水産実験所及び七飯淡水実験所において、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催しました。

本事業は、小学校5・6年生、中学生、高校生を対象として、科学研究費助成事業の研究成果をもとに、最先端の研究成果について直に見て、聞いて、触れることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムとして、独立行政法人日本学術振興会からの支援を受けて実施しています。

以下に、今回実施した7件のプログラムを紹介します。

(北方生物圏フィールド科学センター)

## 生き物の個性から学ぶ豊かな森の守り方

7月22日（土）に「生き物の個性から学ぶ豊かな森の守り方」を開催しました。これは、「若手研究（B）：フィールドにおける群集と進化のフィールドバックループの解明」「若手研究（A）：景観群集ゲノミクス・アプローチによる群集生態－進化動態の統合的解明」（以上、研究代表者：内海俊介准教授）による成果をもとに、「生き物の個性」というキーワードを切り口に、森林生態系における遺伝子から生物群集に至る生命現象の階層性と多様性の仕組みについて実験とフィールド実習を通して体感し、最先端の研究に触れてもらう体験プログラムです。

本プログラムは、雨龍研究林（幌加内町）で実施しました。道内各地（苫小牧市、札幌市、旭川市、士別市、美深町、幌加内町、稚内市）から中学生6名・高校生11名の計17名が参加しました。

午前中は、雨龍研究林庁舎内で2つの実験に取り組みました。1つ目は、雨龍研究林に生息する植食性のハムシ・テントウムシと肉食性のテントウ

ムシを用いた行動実験、2つ目は、ハムシを対象としたリアルタイムPCRによる一塩基多型のジェノタイピング実験です。行動実験では、各自が実際に種間での形態や行動の違いを比べ、種間相互作用について調べました。ジェノタイピング実験では、種内の遺伝的な変異性を調べました。受講生は、抽出済みDNA試料やプローブを微量ずつ混合する操作に挑戦し、実際に装置にセットしてリアルタイムPCRを行いました。

実験結果を待つ間に、午後は、フィールド実習を行いました。受講生はまず、樹木の周りの土を掘り返し、「一番カッコいい根粒を見つけるのは誰か!?コンテスト」のもと、根粒のサイズや形態の違いを調べました。また、根粒を形成する共生バクテリアの窒素固定機能や、その遺伝的な変異性と生態的意義について、その場で解説を受けました。次に、野ネズミの食害と樹木の形質についての関係を観察しました。食害を受けると植物の成長が悪くなるという受講生の予想に反し、食害を受けると枝と葉が大型化すると

いう樹木の補償成長の不思議について観察しました。そして、野外大型実験を見学し、遺伝的変異・迅速な進化・生物群集の関わりについて学びました。

最後に庁舎に戻り、行動実験の結果とリアルタイムPCRの実験結果を調べ、その実験結果の整理と一連のプログラム内容の解説を中心としたミニ講義を行いました。活発な質疑応答のあと、「未来博士号」を授与してプログラムは終了しました。

実施においては、受講生を3～4名の5班に分けて各班に職員・学生によるスタッフ2名がつき、話しかけとサポートを行いました。昼食時は、7月の爽やかな気候に恵まれ、受講生とス



昆虫の行動実験をセットアップ



一塩基多型のジェノタイピング実験に挑戦



森の中で根粒共生の意義とその変異性を探る



野外大型実験の見学

スタッフ全員で庁舎前の芝生で弁当を広げて開放的な雰囲気を楽しみました。これらを通し、すべての受講生が体験を楽しみ、終始和気藹々とプログラムを進行することができました。遠方で

の開催のためプログラムの時間は短く、そのなかで盛りだくさんの内容であったため、解説が足りないところもあったように思いますが、アンケート結果からは受講生が各内容について高

い満足度を得られたことがわかりました。本プログラムを実施するにあたり、研究林の職員並びに環境科学院の大学院生には惜しめない協力をいただきました。心より感謝いたします。

**体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”**

7月29日（土）に「体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”」を開催しました。これは、「基盤研究（B）：ユーラシア・北米のハスカップ野生遺伝資源の多様性解析と評価に関する研究」（研究代表者：星野洋一郎准教授）による成果をもとに、中学生を対象とした体験的なプログラムとして企画しました。北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場で実施し、13名が参加しました。

午前中は、参加者はキャンパス内の農場を探索し、様々な小果樹について、それぞれの違いや分類を学び、実際に味わってベリーの特徴を体験しました。その後、植物の交配実験を行いました。参加者は微細な操作にもすぐ

慣れて、集中して取り組むことができました。

午後は、4班に分かれて「交配袋を作ろう！」「果実の糖度とpHを測ろう！」「生きた花粉が伸びる様子をとらえよう！」「シーベリーのタネを採ろう！」の実験を行いました。これらの実験は、夏休みの自由研究にも役立つ

てもらえるよう企画しました。

実験終了後は、ハスカップソースを添えたアイスクリームで一息つき、最後に「未来博士号」の授与式を行いました。実験の楽しさを味わってもらえたら嬉しく思います。参加者の皆様、スタッフの皆さんに深く感謝いたします。



様々なベリーを観察



植物の交配に挑戦

動物の動きを測ってみよう～装着型記録計による行動計測～

8月4日（金）に、「動物の動きを測ってみよう～装着型記録計による行動計測～」を開催しました。これは、「基盤研究（B）：RFID技術を活用した河川生態系における小型魚の行動モニタリングシステムの構築」「基盤研究（B）：高次捕食者をモデルとした北方海洋生態系多次元モニタリングネットワークの構築」「基盤研究（A）：設置型モニタリングシステムを用いたミナマガロ幼魚の回遊経路の解明」「萌芽研究：多次元定量計測技術を用いた絶滅危惧種イトウの行動生態の解明」（以上、研究代表者：宮下和士教授）による成果をもとに、体験的なプログラムで最先端の研究に触れてもらう企画で、今年が3回目となります。

中高生を対象に募集し、中学生7名・高校生3名の計10名の参加がありました。本プログラムでは、函館市国際水産・海洋総合研究センターの大型水槽（300t）で、記録計（ロガー）による魚類の行動計測とGPSを使った移動情報の収集を実施しました。開講式の後に、宮下教授による「行動を可視化するとはい」の講義で、バイオロギン

グを使った最先端の行動研究の紹介と本プログラムの予備知識を説明しました。また、実施分担者の三谷曜子准教授による「海棲哺乳類のバイオロギング」の講義が行われました。その後、受講者はカッパと長靴に着替えて、実際に魚にロガーの装着を行い、大型水槽へ放流しました。ランチタイムでは、受講者と実施者が同じテーブルでお弁当を食べて、身近な話題から大学生活、研究者への道など受講者の進路相談まで話が弾みました。昼食後は、受講者がGPSロガーを持ち、センターの周りを散策して移動情報の収集を行いました。その後、GPSによる移動情報の解析結果についての解説、パソコンを使った遊泳行動データの解析を行いました。最後に、受講者に「未来博士号」を授与して、記念撮影を行って終了しました。

本プログラムを実施するにあたり、中学生と高校生それぞれの学習レベルに応じた解析課題を提供することで、参加者が飽きないように心がけました。また、受講生を中高生別に3班に分け、各班に補助学生1名を付けるとともに、全体を統括する補助学生を1

名配置しました。各班の補助学生は、受講者と終始一緒に行動して積極的な話しかけを行い、統括担当の補助学生はそのサポートを行いました。その結果、1人で参加した受講生も寂しい思いをせず、また全体的に気軽に質問ができる雰囲気が生まれました。その甲斐があつて、受講者の様子・アンケート結果からも、本プログラムは満足度が高いものであったと実感しています。最後に、本プログラムの開催にあたり、終始ご協力いただいた教職員・学生諸氏、中学校・高等学校にポスター掲示やチラシ配布等のご協力をいただいた一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構に深く感謝いたします。



魚にロガーを装着



大水槽に放流したロガー装着魚の観察



GPSロガーを持って散策



ロガーデータの解析

海の森の調査隊～おしよの“こんぶ”を知る、守る～

8月5日(土)に、「基盤研究(B):北太平洋西部沿岸におけるコンブ類の種多様性とその由来の解明」(研究代表者:四ツ倉典滋准教授)の成果をもとに、大学で取り組んでいる研究の一端に触れてもらうという児童・生徒へ向けた体験型プログラムを行いました。今回は小学5・6年生を対象に、「海の森の調査隊～おしよの“こんぶ”を知る、守る～」をテーマとして、忍路臨海実験所で実施しました。

当日は、北海道のみならず、東京都や大阪府からの参加者も含めて、計16名の小学5・6年生が実験所に集まりました。開講式では、まずは主催者側としての目標:①大学の研究成果を参加者に理解してもらうこと、②受講生には人の意見に耳を傾け、自分の意見をしっかりとと言えるようになってもらうこと、③楽しく安全にプログラムを終えることが伝えられ、それに続いて受講生一人ひとりが目標を述べました。その後、実施代表者が、大学での研究内容を紹介しながらフィールド調査の魅力を伝えました。次いで、受講生は胴付長に着替え、採集ヘラと採集ネットを持って磯へ出てコンブ群落の調査と、群落内に生育する海藻類の採集を行いました。受講生は、局所的にわずかに残るコンブ群落の現状に驚く一方で、群落の中に多くの海藻類や魚

介類が暮らしている様子を見て、コンブの役割の一つを理解したようです。さらに、受講生はグループに分かれて磯船に乗り込み、箱メガネと水中カメラを使った“海中観察”と、多項目水質計を使った“水質調査”を行いました。

昼食後は、午前中に採集した海藻を使った“海藻じゃんけん”を行いました。これは「じゃんけんポン!」の掛け声とともに海藻を出し合うゲームで、司会者が出すテーマ(「美味しそうな海藻は?」「癒し系の海藻は?」「採るのが難しそうな海藻は?」など)に最も合致する海藻を出した人が勝ちとなります。審判は参加者全員で行いましたが、このゲームを行うことになっていたため、受講生は午前中、コンブやその他の海藻に積極的に触れ、細部まで観察し、匂いを嗅ぎ、それぞれが生える生育環境を熱心に考えていました。その後は、採集したホソメコンブや海藻類の種同定と押し葉標本作りを行いました。今回は、合わせて32種が採集され、その多様性の豊かさに受講生は驚いた様子でした。受講生は、それぞれ採集した海藻について実施者から説明を受けながら、丁寧に標本を作っていました。次いで、実施分担者が“コンブの森の環境と、そこに見られる海藻類”について解説し、

質疑応答によって疑問点を解消しました。おやつ休憩の後は、実験所に保存されているコンブ類の培養株を高分子ゲルに混ぜ込んだ種苗を作成して海中へ投入する実習を行いました。“コンブの種”と“ゲル”,これらはつながりにくいと思われませんが、一緒になって大きな“海の森づくり”に貢献することを知った受講生は、将来への期待を込めて作った種苗を一心不乱に海に投げ込んでいました。修了式では、受講生各自が、目標を達成できたかどうかを確認し、さらに、今後に向けて興味ある課題を整理しました。最後に、一人ひとりに“未来博士号”が手渡されました。

本プログラムは、毎回主催関係者の強いチームワークのもとで実施されています。今回も、準備から実施当日の円滑な進行と、安全の確保のためにご尽力いただいた教職員及び大学院生諸氏に感謝いたします。



実験所前浜の海中を観察



海藻じゃんけんの様子



“コンブの森”のフィールド調査



種苗を海中に投げ込む受講生

## のぞいてみよう海の底、北海道の魚たちをまるごとリサーチ

白尻水産実験所（函館市白尻町）では、「基盤研究（B）：親潮流路にある島嶼生物の側所的進化と適応放散—極東域生物相形成史の解明を目指して」（研究代表者：宗原弘幸准教授）による成果をもとに、8月6日（日）に4年連続7回目、日帰りイベントにして2回目の「北海道の魚たちをまるごとリサーチ」を開催しました。今年には日本学術振興会の「ひらめき☆ときめきサイエンス 実施プログラム一覧」で紹介したこともあり、すぐに定員に達し、兵庫県、愛知県、埼玉県のほか、帯広市や札幌市など道内各所から小学5・6年生と中学生、あわせて23名の参加がありました。

当日は、太平洋の夏らしい薄曇りでしたが、水温は例年よりも低く、海の中での活動が予定通りできるか心配なほどでした。はじめに、白尻水産実験所前浜の生物相の特徴と、よく見られる生物の生態について、「北大元気プロジェクト2012」で作成した『白尻、海の生き物図鑑』を使った講義を行いました。その中で、科学研究費助成事業で行った研究成果の一つとして、世界で初めてとなる海産魚の半クローンがこの海で見つかったことや、それまで3種に分けられていたダンゴウオ科の魚が、実験所の飼育施設で長期飼育し、性差や成長段階で変異することを見出し、一つの種であることを実証したことなどが紹介されました。参加者は、魚類研究の最新のトピックがこれから入る海で行われていることに驚いたようで、ワクワクする気持ちを抑えられない様子で、イベントの最初の掴みは首尾よくいきました。

講義の後、シュノーケリングで使う機材の使い方をインストラクターの学

生たちが作ったDVDで説明し、屋外のプールでトレーニングしました。海は危険がつきものなので、正しいシュノーケリング技術は絶対に必要になります。浮き身、シュノーケルクリアー、フィンワークの練習をし、合格した参加者から少し離れた地引網を行う磯に移動しました。今年の白尻は、例年と比べて水温が低く、参加者が海に入るのを嫌がらないか心配でしたが、それは杞憂で、参加者は海に飛び込み、少し沖にセットした地引網を声掛けしながら協力して岸に引き上げました。今年春から藻場が貧弱で魚の数は例年より少ない状態でしたが、午後の種査定実習に使うだけの材料は獲れました。

お楽しみの昼食タイムでは、例年、教材兼用の食材として、白尻沖を回遊するクロマグロを使用していましたが、未成魚は資源保護のため、漁獲制限対象です。そこで、一昨年からは大きなマグロを使うようにしました。今年もその予定でしたが、運悪くマグロは獲れず、マグロに代わって10kg近いブリを5個体調達しました。夏でも脂がのる特大のブリは、食べ盛りの参加者やインストラクターのお腹を満たし、しばらく動けなくなるほどでした。食べている様子は、まさにフードファイターのような様子でした。ブリを食べる前には、胃内容物を取り出し、ブリが何を食べているかといった食物連鎖について学び、食物連鎖の頂点に立つ生き物が何かを確認しました。「『いただきます』というのは、生き物の命のこと」だと教えるインストラクターの説明に、参加者は素直に頷いていました。

午後の最初の作業は、シュノーケリ

ングを使った藻場での海中観察と、エゾメバル釣りです。海水が冷たいと感じた参加者4名は海に入らず、種査定を先に始めました。参加者全員が海中で魚の動きを見ながらの釣りは初体験で、寒さを忘れて楽しんでいました。

たった1日でしたが、盛りだくさんの内容で、参加者は海の生物の多様性を体感することができたようです。指導に当たった学生たちとの会話も尽きず、達成感と実験の楽しさを味わって、本年度の「北海道の魚たちをまるごとリサーチ」も無事終了することができました。

海で行うフィールドワークは、準備と安全管理が大変です。神経を使う1日となりましたが、サポートする実験所の学生たちにとっては、日頃の研究活動で培うフィールド力を発揮する場でもあります。子どもたちに教える過程で、海の生産力や生命の尊さを再認識し、生物を研究する学生生活を総括し、自分たちの研究意義を見直す機会になります。白尻水産実験所のすべての夏季実習が終わり、研究の取りまとめの季節になりました。教わる側にも教える側にも有意義な夏のイベントを糧にした、学生たちの今後の成長が楽しみです。



保護者を交えての昼食の様子



地引網の藻屑の中から魚を探す



図鑑を見ながら種査定



ブリの解体ショー

北大農場で生物資源の循環をみてみよう

8月18日(金)に、食べ物に関心をもちだし、農作物に関する教育が開始される中学生を対象に、北大農場の作物生産や家畜飼養の場を利用して、農業生産の仕組みを学習する機会を提供し、札幌市内と道外の中学生20名が受講しました。本プログラムは、「基盤研究(B):カバークロップの導入による省資源・温暖化ガス抑制型の有機栽培の確立」(研究代表者:荒木 肇教授)の成果によるもので、①ミニ講義、②フィールド観察調査(牛乳試飲を含む)③模擬実験で構成しました。

ミニ講義では、責任者の荒木 肇教授が、「食料生産と環境保全」と題して、私たちの食料が地球のほんのわずかな表土で作られていること、その土地を人間が改良して作物を作ること、その改良には動植物資源を有効に活用することの重要性を説明しました。

その後、有機質資材(堆肥と緑肥)を施用したハウスで栽培しているトマトの生育調査と収穫をグループに分かれて実施しました。ここでは、トマトの生育状態から、堆肥やマメ科緑肥の効果を確認し、これらの資材により減肥料が実現できていることを理解しました。また、北大農場内を歩いて、多様な作物の観察もしました。大学院生

が圃場に設置した看板を利用しながら、加工トマトと生食トマトとの差異、枝豆とダイズは同じ植物であることや、ズッキーニはかぼちゃの仲間であることや、ジャガイモには多数の品種があり、色や形が様々であること等を説明しました。

牛舎では、乳牛の飼養体系、牛が食べる餌の種類や放牧等を紹介するとともに、当日搾乳した牛乳(殺菌済み)を試飲して、市販牛乳との味の差を体感しました。この差について、北大では農場で生産した草を牛に使用しているので草臭が牛乳にあることや試飲牛乳はホモジナイズ(脂肪粒の均一化)処理をしていないことが原因であることをパネル等で説明しました。牛舎近傍に乳牛糞尿と敷料を混合製造した堆肥を準備しておき、中学生の前で堆肥を攪拌させると、大量の湯気が立ち上り、堆肥に触ると熱いことも体感し、堆肥中で微生物が増殖して堆肥化が進行することを理解しました。北大農場の主要な糞尿処理システムはバイオガスであり、そのシステムを観察できました。昼食には、収穫したトマトや野菜等を試食しました。

午後には、実験室で午前に収穫したトマトの収量調査を行いました。各グ

ループが収量と生育データを黒板に書き出し、有機物処理の効果を比較しました。ハウスで生育中のトマトの葉を採取し、その葉柄を供試して硝酸濃度を測定して、土壌窒素を推定する模擬実験を行いました。生育のよいトマトの葉内窒素(硝酸)濃度が高いことが観察できました。

本講座では、受講生の理解を促進すべく、農場や畜舎に説明看板やパネルを設置し、その縮小印刷物をテキストに入れて帰宅後にも学習できるようにしました。また、テキストには、データ記入ページを作成して、自身で測定したデータを記入・計算できるように工夫しました。

受講生からの感想では、直に作物や家畜に接したことの喜びが聞かれ、農業科学に関心をもつ機会となったようです。今回は、個人参加とともに、札幌市内の中学校から10名の中学生が指導教諭とともに参加しました。教諭の話では、中学校としても直接自然や農業に触れる場を求めているとのことであり、この意見を参考に、一層のプログラム進化をはかりたいと考えています。



トマトの生育調査



身長より高いデントコーン畑を歩く



堆肥の熱さを体感

## 挑戦！イクラをさかなにしてみよう！

七飯淡水実験所（亀田郡七飯町）では、9月30日（土）に「挑戦！イクラをさかなにしてみよう！」を開催しました。これは、「基盤研究（B）：雑種ゲノムの発生工学的解析による育種利用に関する研究」（研究代表者：山羽悦郎教授）等の成果をもとに、大学で取り組んでいる研究の一端を、小学5・6年生から中学生に体験してもらおうという企画で、一昨年から連続で3回目の開催でした。

前日の雨で、朝は曇り空でしたが次第に快晴となり、魚を飼育している川水も澄んできて、絶好の実習日和となりました。今回は、七飯町と近隣の函館市から14名が参加しました。締め切りより1ヶ月半も早く定員に達しました。

受講者は、まず飼育されている様々なサケマス類を見学し、卵の培養や飼育の方法を学びました。次に、成熟したサクラマス親からの採卵と採精、そして受精を体験しました。また、水と混ぜると精子が泳ぎ始めることを顕微鏡で確認し、精液が沢山の精子の集合体であることを理解しました。卵の方は、受精前には指で簡単につぶせるけれど、受精するとピンポン球のように弾むほど固くなることを体験しました。



飼育されているイトウの観察

昼食では、受講者自身に魚を締めてもらい、内臓を取り除いて串打ちし、炭火で塩焼きにしました。メニューは他にも、お刺身、イクラ醤油漬、押寿司とサケマス三昧でした。一番人気はイクラご飯でした。イクラの醤油漬は、成熟した排卵卵と、未成熟の卵巣卵から作ったものを用意し、受精前の卵と受精後の卵の違いを実感できるようにしました。プチプチした食感のサクラマス卵の醤油漬が一番人気でした。押寿司は大人の味のように、箸がのびた子は少なかったです。最初に、「魚は触れない」と言っていた女の子も、塩焼きを作って食べた後は全く気にならなくなったようで、解剖も自然にできました。

午後には、塩焼きで残した骨を観察し、血管と脊髄がついているのを観察しました。そして、麻酔をかけた魚の尾柄に注射針を刺し「採血」を、尾柄からワイヤを差し込んで脊髄破壊による「活け締め」をしました。受講者は、採血をされたことはあっても、自分でしたのは初めてでしたが、全員きれいな血液の標本を作ることができました。「活け締め」では、魚の尾柄からワイヤを少しずつ入れて、頭からワイヤを出しました。その後は解剖実験です。スライドで手順を確認し、実施



サクラマス親魚から採卵と採精

協力者の学部生・大学院生の指導を受けながら、内臓の種類、形、つながり、心臓の構造と血の流れ、目の構造と脳とのつながりを調べました。

おやつのは後は、卵黄を持っている赤ちゃん魚の顕微鏡観察をし、血液がからだの中を循環する様子を確認しました。ここで、体験教室は終了しました。最後に、自分たちが受精させた卵、2週間前に受精させた卵、そして1ヶ月前に受精させた卵を各家庭に持ち帰り、孵化までを観察してもらいました。昨年度は、魚が孵化したので餌が欲しいとの連絡が何回も入っていました。

今回のプログラムでは、事務や実験所の職員の方、指導の補助をしてくれた学生さんにお世話になりました。子供たちが主役でしたが、主役をもり立てていただきありがとうございました。



屋内飼育池のサケマス類を見学



魚の顕微鏡観察を体験

## 北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所でIBBP技術講習会を開催

10月17日（火）に、北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所において、基礎生物学研究所大学連携バイオバックアッププロジェクト（IBBP）センター主催、水産学部、北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所の共催で、「IBBP技術講習会 in 北海道 2017（サケ科魚類）」を開催しました。

IBBPは、日本における生命科学研究などの研究に不可欠な生物遺伝資源を、予期せぬ事故や災害等による毀損や消失から回避させるために平成24年より開始されたプロジェクトです。七飯淡水実験所では、飼育しているいくつかのサケ科魚類の凍結した精子をIBBPセンターに預けています。また、水産学部の藤本貴史准教授は、IBBP生物遺伝資源新規保存技術開発

共同利用研究に採択され、サケ科魚類の効果的な精子凍結技術確立のための研究を行っています。今回の講習会は、その成果の一部を一般に公開するために開催されました。

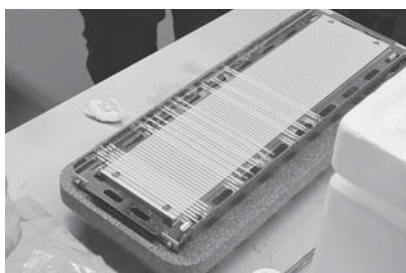
講習会には、IBBPセンター職員と北海道サテライト拠点の教員をはじめ、民間水産会社、サケ科魚類の研究を行っている大学、県の水産関連職員など、11名の参加がありました。

冒頭に、IBBPセンターの成瀬 清センター長より、本プロジェクトの目的、現状などの説明が行われ、その後、七飯淡水実験所長の山羽悦郎教授による施設のこれまでの研究の歴史と現在の研究内容の説明の後、同施設で飼育されているサケマス類をはじめとする魚類の飼育状況、系統保存の状況が説明されました。午後は、藤本准教

授によるサケ科魚類の精子凍結の目的等の講習、サクラムスからの採卵・採精実習、ストロー管を用いた実際の精子凍結を行い、精子と凍結精子の活性についてCASA（精子運動解析装置）を用いた精子活性の評価の実習を行いました。最終的に、凍結した精子を用いた受精を行い、講習会を終わりました。

参加者からは、技術の詳細に関する質問や、産業への展開についての質問が相次ぎ、活発な議論が交換されました。生命科学研究においては実験動物の保存がメインとなっているため、産業種での講習に対して参加者より様々な質問が寄せられていました。

（北方生物圏フィールド科学センター）



精子が充填されたストロー管



CASAシステムでの精子活性の測定



CASAシステムの使用法の説明

## 北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林で一般公開事業「和歌山研究林の歴史的建造物と照葉樹天然林」を開催

10月20日（金）に、北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林において、一般市民を対象とした見学会「和歌山研究林の歴史的建造物と照葉樹天然林」を開催しました。本見学会は、平成25年3月に和歌山研究林の本館が国指定の登録有形文化財となったことを機に、毎年秋に開催しているものです。

当日は小雨が降りしきり、恵まれた天候ではありませんでしたが、近隣市町村をはじめ、遠くは東京都などから

11名の参加者が集まりました。

参加者は、研究林の技術スタッフによる説明のもと、午前中は研究林本館の内外に凝らされた他に類をみない独特な建築様式や意匠の数々を堪能し、午後は古座川県立自然公園の特別地域に指定された、原始の自然が色濃く残る照葉樹林の中を徒歩や小型モノレールで散策して楽しんでいました。

参加者からは終始大きな関心とともに屈託のない質問や感想があり、大学の施設を公開することばかりでなく、



研究林本館の外観について説明



大学が野外フィールドを所有する意義やそこで行われている活動内容について、広く一般にも周知していくことの

重要性を改めて認識しました。

本見学会は来年度も実施を予定していますので、多くの方々のご参加をお

待ちしています。

(北方生物圏フィールド科学センター)



本館2階の標本室の見学



モノレールに乗って林内を移動



原始の自然が残る照葉樹林の見学

## 北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭挙行

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、10月27日(金)にアグリフードセンター傍に位置する畜魂碑前において、教育・研究に供された家畜の供養のために畜魂祭を執り行いました。穏やかな秋晴れのなか、山田敏彦農場長をはじめとする本センターの教職員、本センターを利用する農学部の教員、畜産科学科の学生など約60名の関係者が参列しました。

本センター生物生産研究農場では、自給飼料を主体とする物質循環型の持続的な家畜生産が継続的に営まれ、様々な教育・研究に利用されています。また、飼料畑での作物の栽培・生産から得られる飼料に基づいて家畜を

飼養し、得られる牛乳や食肉を加工して畜産製品を製造するという一連の流れを教育の中心としており、これらの教育・研究活動に対して、多大な貢献をした家畜・家禽に感謝し、その御霊を供養するために毎年畜魂祭を行っています。

はじめに、中小家畜生産研究施設、酪農生産研究施設及び畜産製造施設より、家畜・家禽の飼養頭数や利用実績等の報告があり、その後、参列者全員で畜魂碑に拝礼しました。最後に、山田農場長から、世界的には人口増加や経済発展に伴って肉需要が急増しているなかで、自然環境破壊、水資源不足、土壌・水質汚染など多くの環境問

題と向き合っていかなければならないことや、食資源の確保、北海道の畜産の重要性などについて紹介があり、参列者一同は、持続的な畜産生産システムや高付加価値生産システムの構築に向けて、教育・研究の推進や技術の向上が不可欠であるという思いを新たにしました。

(北方生物圏フィールド科学センター)



利用実績等の報告をする職員



畜魂碑に御神酒を捧げる山田農場長



畜魂碑

## 函館キャンパスで「防災訓練」と「秋のキャンパス一斉清掃」を実施

10月25日（水）に函館キャンパスにおいて「防災訓練」を実施しました。

訓練当日は、約200名の学生・教職員等の参加があり、地震災害及び地震災害による二次災害を想定した自衛消防隊による通報連絡、避難誘導の各訓練に併せて、学生・教職員等による避難訓練等を、防災行動の能率・統制推進と防災意識の高揚を図ることを目的に行われました。

避難訓練完了後、函館市消防本部より災害時の自衛消防隊員の行動についての講評があり、また、自衛消防隊長の安井 肇研究院長から訓練参加者への慰労の辞と、今回の訓練を実際の災害時に活かすことの重要性について講評の後、水消火器による消火訓練を実施し、一連の訓練を終了しました。

防災訓練終了後には、「秋のキャンパス一斉清掃」が行われました。

当日は晴天にも恵まれ、絶好の清掃日和となり、函館キャンパス構内とそ

の周辺の清掃を行うことができ、大変きれいになりました。

収集されたごみ等は、一般ごみ、産業廃棄物（金属やプラスチックの混合

物）、木の枝等を合わせて約2m<sup>3</sup>になりました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



自衛消防隊員による消火活動



消火訓練の様子



清掃作業を行う学生たち



協力し合いながらの清掃作業

## 消防訓練等の実施

### 情報基盤センター

情報基盤センターでは、10月5日（木）に本センター自衛消防隊による防災訓練を行いました。

今回の防災訓練は、教職員・学生等約40名が参加して実施され、火災の発生を想定した初期消火、通報連絡及び避難誘導の訓練に加え、防災設備点検

業者による消火器の取り扱い説明を行いました。

参加者は防災意識を新たにするとともに訓練の重要性を再認識していました。また、共同利用・共同研究拠点として適切な防災体制を改めて確認することができました。

訓練終了後、高井昌彰情報基盤センター長より日頃からの防災の心構えについて注意喚起があり、訓練を無事終了しました。

（情報基盤センター）



初期消火訓練の様子



消火器を使った訓練の様子

## 医学院・医学研究院・医学部，遺伝子病制御研究所，アイソトープ総合センター

医学院・医学研究院・医学部，遺伝子病制御研究所，アイソトープ総合センター合同で10月16日（月），医学研究院図書館2階多目的室から出火したとの想定で，消防訓練を実施しました。

出火時の初動体制を確立するために，自衛消防隊が直ちに活動し，出火場所に対応して各職務分担の任務（通

報連絡・避難誘導・消火・防護措置・救護）を行い，被害を最小限に食い止める訓練を実施しました。

終わりに吉岡充弘研究院長から，訓練を通し，火災時の避難や自衛消防の手順について理解を深めることの重要性や日頃の防火に対する心構えについて話があり，参加した約150名の教職員・学生は防災意識を改めて見直す機

会となりました。

総合訓練に続いて，消火器を使った消火訓練を防災設備業者指導のもと実施し，使用方法について理解を深め，一連の消防訓練を無事に終えることができました。

（医学院・医学研究院・医学部）



消火器を使った消火訓練の様子



通報連絡係より火災の報告を受けている様子



初期消火班による消火体制の様子

## 獣医学研究院

獣医学研究院では，10月17日（火）に防火訓練を実施しました。

今回の訓練は，本研究院自衛消防隊を主体とした通報，避難誘導，初期消火等の訓練であり，非常時における学生，教職員等の安全確保を図ることを目的とし，約150名が参加して行われました。

避難訓練では出火時における初動体制の確立を目的として，本館4階の感染症学第一実験室から出火したとの想定で始まり，自衛消防隊各班が訓練計画に基づいた職務分担に従い，通報，初期消火，避難誘導を行い，被害を最小限に食い止める訓練を実施しました。

避難訓練に引き続き，消火器を使った放水による消火訓練及びAED操作を含む救命講習を防災設備業者等指導の下で実施し，使用方法に理解を深め，一連の防火訓練を行うことができました。

（獣医学院・獣医学研究院・獣医学部）



消火器を使った訓練



AED操作を含む救命講習

工学系部局

工学系部局では、10月20日（金）、工学部NPQR棟（国際連携機構を含む）を被災想定現場として、自衛消防訓練を実施しました。工学系部局、国際連携機構及び国際部は合同で自衛消防組織を構成しており、今年度は、同組織に同機構及び同部が加わってから初めて、国際連携機構がある棟が主な被災現場となることを想定した訓練となりました。

今回の訓練は、大きな地震が発生し

た後に国際連携機構がある棟内で大きな火災が発生し、工学部NPQR棟内で小規模な火災が発生したとの想定で行われました。

自衛消防隊各班は、今年度もトランシーバーを使用して火災の状況を報告し、各現場での火災の規模に応じて、班員の配置を適切に振り分けるなどの措置を行いました。また、外国人留学生が対応できるよう、英語による放送も行われました。

訓練は、札幌市北消防署の協力のもと行われ、終了後、同消防署による講評及び増田隆夫工学研究院長から防災意識を啓蒙する挨拶がありました。

自衛消防訓練に続いて、防災設備業者の指導のもと、水消火器による消火訓練が行われ、一連の訓練を無事に終えることができました。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター）



防災センターから指示を行う  
勝山憲明自衛消防隊長（工学系事務部長）



訓練終了後、謝辞を述べる増田工学研究院長



水消火器による消火訓練の様子

附属図書館

附属図書館本館では、10月20日（金）に東棟1階休憩室から出火したとの想定のもと、図書館利用者及び職員85名が参加して防災訓練を実施しました。

英語による館内放送並びに掲示も行い、火災発生後、直ちに「通報連絡係、避難誘導係、消火係、防護措置

係、救護係、搬出係」の自衛消防隊の各担当に分かれ、現場の確認、消防署への通報、非常放送、避難誘導、消火活動等、実践さながらの訓練が行われました。

防災訓練に続いて防災設備業者指導のもと、避難器具の取扱説明及び実地

訓練を実施し、使用方法についてより一層の理解を深め、一連の訓練を無事に終了しました。

（附属図書館）



初期消火の様子



緩降機訓練をする職員

## 理学研究院

理学研究院では、10月30日（月）に消防訓練を実施しました。

当日は、雨天で強風が吹く肌寒い天候の中、博物館3階N311A室から出火した想定で、石森浩一郎理学研究院長を隊長とする事務部で構成された自

衛消防隊による通報連絡、非常放送、初期消火、避難誘導、救護等の総合的な訓練を、教職員・学生約100名が参加し実施しました。

訓練終了後に、石森理学研究院長から訓練参加者及び協力者への慰労の辞

と、日頃からの防災に対する心構えや協力体制について要請があり、一連の訓練を終了しました。

（理学院・理学研究院・理学部）

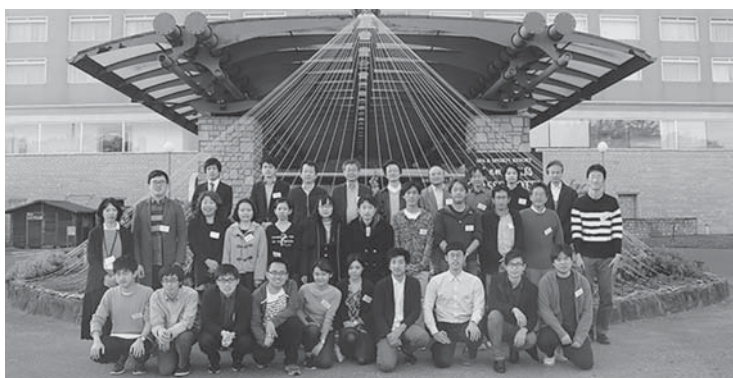


消火班による初期消火（放水）の様相



自衛消防隊長（石森研究院長）からの講評

## 脳科学研究教育センターで合宿研修を開催



参加者の集合写真

10月21日（土）から1泊2日で、北広島クラッセホテルにおいて脳科学研究教育センターの合宿研修を行いました。平成25年度から、多くの関係者が参加しやすいように札幌近郊で開催しています。

研修には、渡邊雅彦センター長をはじめ、文学、教育学、理学、生命科学、医学、薬学、保健科学の各研究科・研究院・学部へ属する教員12名、大学院生19名、事務職員2名の計33名が参加しました。2日間の研修では、大学院生の口頭による研究発表（研修Ⅰ～Ⅳ）、基幹教員の講演（研修Ⅳ～Ⅵ）、センターが提供する大学院共通科目や学部生の一般教育科目などについての意見交換（研修Ⅶ）を行いまし

た。大学院生の発表では、ようやく研究が始まったばかりの修士課程1年生に加え、昨年も合宿に参加した修士課程2年生や博士課程の履修生の研究成果を見聞することができ、研究の進捗を知ることができました。

例年通り、発表会では大変活発な質疑応答があり、各研修とも予定時間を超えて議論が続きました。今年度はセンター長講話の代わりに3名の基幹教員の講演があり、それぞれ最先端の知見を織り交ぜた研究室紹介がありました。これらの研修を通して脳科学研究への理解を深めると同時に、深夜に及ぶ懇親会も含め、部局を超えた学生と教員の間の実質的な交流を行いました。

この合宿研修は、ともすると所属研



研修会の様子



懇親会の様子

究室の研究テーマや実験手法のみに偏りがちな大学院教育を、分野の垣根を越えて融合させることを目指す本センターの最も重要な活動の一つです。平成25年度から受け入れている本専攻修了生及び将来の履修生の参加や、温泉付きのリゾートホテルでの開催も大変好評で、来年度も多くの関係者の参加を期待しています。

（脳科学研究教育センター）

## 総合博物館「ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー&コンサート」を開催

総合博物館では、6～10月の金曜日に午後9時まで開館時間を延長して「ミュージアム・カフェ 金曜ナイトセミナー&コンサート」を「知の交差点」を中心に開催しました。午後6時半から8時まで、ミュージアムカフェ「ぼらす」で購入できる飲み物を片手に、夏と秋の夜長を勉学や音楽に親し

もうという企画です。

セミナーは、6月16日（金）から計5回開催しました。また、学生やチェンバロ・ボランティアによるコンサートは計4回開催し、異なるジャンルの音楽を楽しむことができました。

こうした取り組みは、博物館が展示物を見るだけの場ではなく、人と人の

交流の場、大学内の学際的な交流と公開の場であろうとするミッションの発露です。今後も様々なアクティビティ公開の場として、学内外の皆様のご利用をお願いします。

（総合博物館）

### ナイトセミナー

第1回 6月16日（金）

「夜の博物館から時間旅行」

湯浅万紀子（総合博物館／博物館教育学，文化資源学）

第2回 7月28日（金）

「博物学会の夜明け：明治期博物学会の比較から」

山下俊介（総合博物館／映像資料学，研究資料のアーカイブズ）

第3回 9月8日（金）

「ナスカの地上絵に描かれた鳥は何か？－鳥類形態学からの検討－」

江田真毅（総合博物館／動物考古学，考古動物学，系統地理学）

第4回 9月29日（金）

「火山としての支笏洞爺国立公園を評価する：国内最大級の火山活動場の誕生と変遷」

中川光弘（理学研究院・総合博物館／火山学，岩石学）

第5回 10月20日（金）

〈イグ・ノーベル賞受賞記念講演〉

「性器の逆転した昆虫，トリカヘチャタテ」(R-12)

吉澤和徳（農学研究院・総合博物館／昆虫学，系統学，形態学，分類学）

### コンサート

第1回 6月9日（金） テレマン ヴィオラ協奏曲 他（北海道大学交響楽団）

第2回 7月7日（金） BLUEGRASS!（北海道大学ブルーグラス研究会）

第3回 8月11日（金・祝） 邦楽の夕べ（北海道大学邦楽研究会）

第4回 10月27日（金） 室内楽の世界（北海道大学交響楽団）



イグ・ノーベル賞を受賞した吉澤准教授によるセミナー



ミュージアム・カフェ・ナイトコンサート 室内楽の世界

# 「トビタテ！北海道」の活動に附属図書館が協力

附属図書館が広報に協力している学生有志団体「トビタテ！北海道」の原田要一さん（工学院2年）は、文部科学省が中心となって展開する「トビタテ！留学JAPAN<sup>®</sup>」の第3回留学成果報告会において、ブランドマネージャー最優秀活動賞（エヴァンジェリスト）を受賞しました。これは、附属図書館等で開催したポスター展示や留学説明会（トビタテカフェ）等の、エヴァンジェリスト（留学の良さを広める）活動が評価されたことによるもの

です。

「トビタテ！北海道」は、今年度7月から、附属図書館本館の玄関ロビーや法学部との渡り廊下での大々的なポスター展示や、北図書館等でのトビタテカフェ（合計25回で354名の参加）の開催など、図書館施設を積極的に活用し、北大生に留学を身近に感じてもらうための活動を行いました。この活動により、北海道は他地区と比較して「トビタテ！留学JAPAN」への応募者を増加させることができました。

附属図書館は、会場等の提供や図書展示の協力など、今回の受賞に少なからず貢献できたことを嬉しく思います。今後も附属図書館は、意欲ある学生の活動を応援します。

※「トビタテ！留学JAPAN」

文部科学省が官民協働で推進する留学促進キャンペーン（奨学金支援事業）で、本学も学生の本プログラムへの応募を推奨している。

（附属図書館）



最優秀活動賞のトロフィー



北図書館の利用促進ポスター



本館玄関ロビーでの海外経験者150人の想い展示企画

## ■お知らせ

# グローバルファシリティセンターで新たな社会貢献活動～ 産学協働によるものづくりイノベーション

創成研究機構グローバルファシリティセンター（GFC）試作ソリューション部門では、昨年8月に、産学協働事業「試作ソリューション」を日本軽金属株式会社と共にスタートさせ、学外からの試作品作成依頼を受けています。本事業では、大学の持つ優れた「ものづくり」技術に焦点を当て、企業とは異なる先端工作機器や技術を生かした取り組みを展開しています。

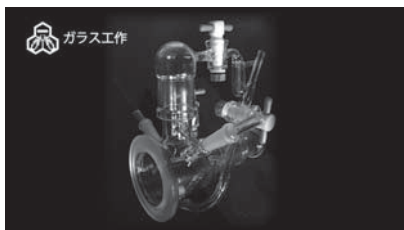
この度、9月19日（火）に日本軽金属株式会社が運営する試作品の提供サービス「Shisaku.com」のホームページリニューアルにあわせ、新たに北海道大学「試作ソリューション事業」がスペシャルコンテンツとして掲載されました。今後はGFCが、試作品作製のオーダーを直接受けることが可能になりました。事業開始から約1年間で試作依頼は10件以上あり、試作の依頼者は国内メーカー・企業のみならず、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、海洋研究開発機構（JAMSTEC）などの研究機関にも及んでいます。GFCの収入総額は150万円ほどになり、得られた収入は試作品作製に携わった技術職員のスキルアップのための出張費や機器の新規購入などに充てることのできる仕組みとなっています。

提供サービスの「ガラス工作」では、研究で使用する複雑な実験器具なども自在に作製することができます。「機械工作」では過去に、小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワから持ち帰った粒子の分析に用いる部品の加工を行いました。「薄片技術」では、岩石のような固いサンプルから生物のような柔らかいサンプルまで様々な対象を均一の厚さに研磨し、恐竜の骨や歯などの加工実績があります。

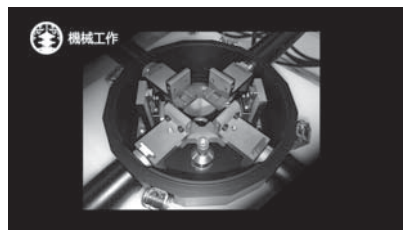
この度の試作ソリューション事業の体制強化により、今まで以上に多彩な依頼に対応する機会が増えるため、本学の高い工作技術の社会還元が加速されるとともに、試作品作製を通じた本学技術職員のさらなる技術向上が期待されます。GFCでは、本事業が全国の産学連携のモデルケースになるよう努力していくとともに、大学ならではの社会貢献のあり方を今後も模索し、積極的に実践していきます。

- ◆ 試作ソリューション事業 <http://www.shisaku.com/hokudai/>  
Shisaku.comホームページ <http://www.shisaku.com/>

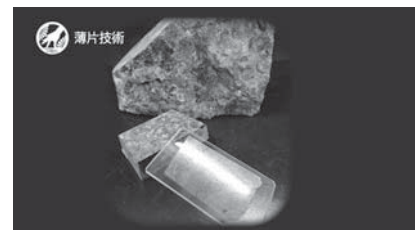
（創成研究機構）



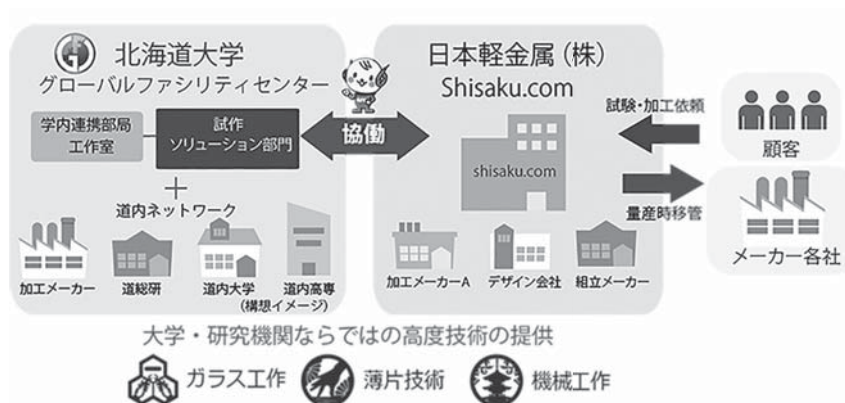
（ガラス工作）ガラスを精密に組み合わせた化学実験器具



（機械工作）顕微鏡上でサンプルを2軸方向に伸展させる措置



（薄片技術）岩石を30マイクロメートルまで薄くし、鏡のように表面を磨いたもの





## ■レクリエーション

# 平成29年度 第47回札幌社会人サッカーリーグ及び 第32回札幌リーグカップに出場

5月7日（日）～9月3日（日）の日程で平成29年度 第47回札幌社会人サッカーリーグに出場しました。

最上位のSリーグから新規加入チームによるライラックリーグまで、全11部・103チームで構成されるリーグ戦で、教職員サッカークラブはBリーグ3部に所属し、7勝1敗1分の2位で全日程を終えました。

また、今年は参加全チームによるトーナメント方式で行われる第32回札幌リーグカップにも出場しました。

対戦成績は2回戦敗退という結果となりましたが、上位リーグ所属のチームとの対戦という貴重な機会を通じ、チームのレベルアップに繋がったと感じられました。

北大教職員サッカークラブは、夏場のサッカーだけでなく、11月～3月にかけては屋内でフットサルの活動もしており、札幌社会人フットサルリーグにも参加しています。

サッカーやフットサルの活動の詳細は、ホームページからご確認いただけます。興味のある方は、お近くの部員かホームページの問い合わせ先までご連絡ください。

◆<http://hokudaikyousyokuinsc.web.fc2.com/>

(教職員サッカークラブ)

### 第47回札幌社会人サッカーリーグ

---

5月7日	教職員サッカークラブ	4 - 1	FC XEROX
5月21日	教職員サッカークラブ	11 - 0	NECソリューションイノベータ北海道
6月18日	教職員サッカークラブ	4 - 1	FC大将
6月25日	教職員サッカークラブ	5 - 0	北ガスFC
7月9日	教職員サッカークラブ	4 - 0	LooP
7月30日	教職員サッカークラブ	8 - 0	AFC Brave
8月6日	教職員サッカークラブ	9 - 0	札幌四十雀サッカークラブ
8月27日	教職員サッカークラブ	0 - 3	ソレラマ札幌
9月3日	教職員サッカークラブ	0 - 0	薄野倶楽部

### 第32回札幌リーグカップ

---

9月24日	教職員サッカークラブ	4 - 2	Goonies (Aリーグ4部)
10月8日	教職員サッカークラブ	1 - 2	アンフィニVANKEI FC (Aリーグ1部)



集合写真

# 教職員テニス大会の開催

10月21日（土），工学部・低温科学研究所の各コートで職員硬式庭球同好会主催による学内テニスミックスダブルス大会を開催しました。

参加者は総勢28名で，結果は次のとおりです。

（職員硬式庭球同好会）

## 平成29年度 学内ミックス大会試合結果

【ミックスA級】会場：工学部コート

予選リーグ

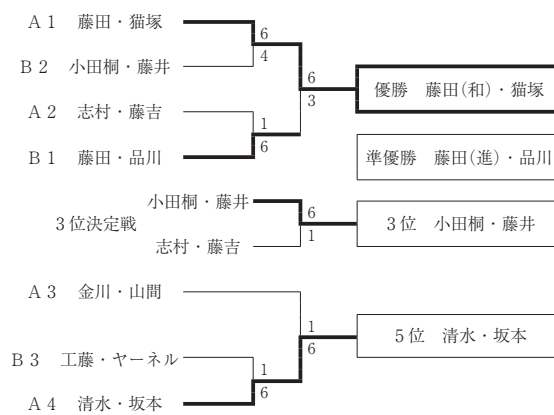
Aブロック

氏名	志村 藤吉	清水 坂本	金川 山間	藤田 猫塚	勝：負 (ゲーム数)	順位
志村 和紀 (工) 藤吉 亮子 (工)		○ 5-4(3)	○ 5-4(3)	× 1-5	2-1	2
清水 泰貴 (事) 坂本 ゆう子 (図)	× 4(3)-5		× 1-5	× 2-5	0-3	4
金川 眞行 (事) 山間 久美子 (薬)	× 4(3)-5	○ 5-1		× 1-5	1-2	3
藤田 和之 (低) 猫塚 和美 (事)	○ 5-1	○ 5-2	○ 5-1		3-0	1

Bブロック

氏名	藤田 品川	小田桐 藤井	工藤 ヤーネル	勝：負 (ゲーム数)	順位
藤田 進一郎 (工) 品川 和絵(病)		○ 6-1	○ 6-0	2-0	1
小田桐 誠 (事) 藤井 恵美子 (事)	× 1-6		○ 6-2	1-1	2
工藤 勲 (水) ヤーネル 由起子 (低)	× 0-6	× 2-6		0-2	3

決勝トーナメント



○Aブロックは4ゲーム先取（デユース無し，4-4タイブレーク）

○Bブロックは6ゲーム先取（デユース無し，5-5タイブレーク）

○トーナメントは6ゲーム先取（デユース無し，5-5タイブレーク）



ミックスA級 優勝・準優勝・3位

【ミックスBCD級】会場：低温研コート

予選リーグ

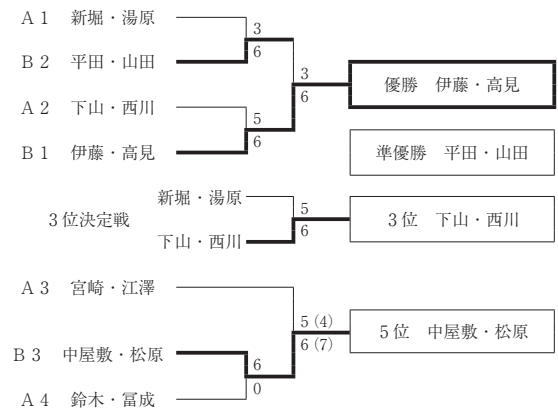
Aブロック

氏名	新堀 湯原	鈴木 富成	宮崎 江澤	下山 西川	勝：負 (ゲーム数)	順位
新堀 邦夫 (低) 湯原 綾子 (低)	/	○ 5-0	○ 5-3	○ 5-4	3-0	1
鈴木 敦生 (理) 富成 絢子 (メ)	× 0-5	/	× 1-5	× 1-5	0-3	4
宮崎 脩平 (事) 江澤 海 (事)	× 3-5	○ 5-1	/	× 3-5	1-2	3
下山 宏 (低) 西川 はつみ (低)	× 4-5(7-3)	○ 5-1	○ 5-3	/	2-1	2

Bブロック

氏名	伊藤 高見	中屋敷 松原	平田 山田	勝：負 (ゲーム数)	順位
伊藤 秀臣 (理) 高見 敏子 (メ)	/	○ 6-3	○ 6-5	2-0	1
中屋敷 洋介 (工) 松原 友姫 (情)	× 3-6	/	× 2-6	0-2	3
平田 康史 (低) 山田 美和 (電)	× 5-6(9-7)	○ 6-2	/	1-1	2

決勝トーナメント



- Aブロックは4ゲーム先取 (デユース無し, 4-4タイブレーク)
- Bブロックは6ゲーム先取 (デユース無し, 5-5タイブレーク)
- トーナメントは6ゲーム先取 (デユース無し, 5-5タイブレーク)



ミックスBCD級入賞者

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（平成29年10月4日）

- 議案・平成28年度内部統制システムモニタリング結果について  
・平成29年度部局評価配分事業（第二次配分）及び平成30年度以降の部局評価配分事業について
- 報告事項・北海道大学ホームカミングデー 2017の実施報告について  
・障害者の雇用状況等について
- 

### 教育研究評議会（平成29年10月18日）

- 報告事項・スーパーグローバル大学創成支援事業（HUCI）の中間評価について  
・北海道大学ホームカミングデー 2017の実施報告について  
・大学間交流協定の新規締結について  
・産業創出部門の設置（更新）について  
・運営費交付金の重点支援に係る評価指標の進捗状況について  
・平成28事業年度財務諸表の承認について  
・学生の懲戒について
- 

### 役員会（平成29年10月26日）

- 議案・経営戦略室の設置について  
・諸規則の制定及び一部改正について  
・教育研究顕彰（総長表彰）の見直しについて
- 協議事項・全学運用教員（総長措置）の措置決定方法の見直しについて
- 報告事項・平成29年度北海道大学進学相談会の開催結果について
- 

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

## ■ 学内規程

---

### 国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

（平成29年10月26日海大達第210号）

### 国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

（平成29年10月26日海大達第213号）

大学設置基準の一部を改正する省令（平成29年文部科学省令第17号）が本年3月31日に公布されたこと及び企画・経営室を廃止し、新たに経営戦略室を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学経営戦略室規程

（平成29年10月26日海大達第211号）

総長室の一つを構成する企画・経営室を廃止し、大学全体の横断的な経営戦略の策定を任務とする経営戦略室を設置することに伴い、経営戦略室の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学総長室規程の一部を改正する規程

（平成29年10月26日海大達第212号）

総長室の一つを構成する企画・経営室を廃止することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 北海道大学病院借上宿舎規程の一部を改正する規程

（平成29年11月1日海大達第214号）

病院借上宿舎について、使用料の区分を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 北海道大学遺伝子病制御研究所附属動物実験施設規程の一部を改正する規程

（平成29年11月1日海大達第215号）

本年11月1日付けで、遺伝子病制御研究所附属動物実験施設長の任期を同研究所長の任期の末日以前とすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## ■ 研修

---

### 研修名：平成29年度北海道地区国立大学法人等会計基準研修

---

開催期間：平成29年10月11日～13日

開催場所：百年記念会館大会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の会計事務に従事して間もない職員等に対し、国立大学法人（独立行政法人）会計基準、同注解及び実務指針に係る知識を習得させることを目的とする。



監査法人による講義



受講の様子



若月桂一財務管理室長による講義



修了証書を授与される受講生

(財務部主計課)

---

### 研修名：平成29年度北海道地区国立大学法人等アドバイザーイラストレータ研修

---

開催期間：平成29年10月16日・17日

開催場所：情報基盤センター

研修目的：アドバイザーイラストレータの基本操作の実習を通して、既存データの編集、簡単な図面を組み合わせたイラスト作成など、業務上使用する上で必要となる基礎知識を習得する。



研修の様子

(総務企画部情報企画課)

## 表敬訪問

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
29.10.19	モンゴル国立大学（モンゴル）Tumurbaatar Yadmaa 学長	両大学の交流に関する懇談
29.10.26	慶南科学技術大学校（韓国）Choi Jine-Shang 産業福祉大学院長	両大学の交流に関する懇談
29.10.26	アフリカ地域持続可能な開発目標センター Belay Begashaw 総裁	両地域の交流に関する懇談



モンゴル国立大学（モンゴル）  
Tumurbaatar Yadmaa 学長（中央右）



慶南科学技術大学校（韓国）  
Choi Jine-Shang 産業福祉大学院長（中央左）



アフリカ地域持続可能な開発目標センター  
Belay Begashaw 総裁（右側）

（国際部国際連携課）

## 人事

平成29年10月16日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【教授】 大学院理学研究院教授	吉永正彦	大学院理学研究院准教授

平成29年11月1日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【総長補佐】 （期間：平成31年3月31日まで）	大場雄介	大学院医学研究院教授
【部局長・施設長等】 遺伝子病制御研究所附属動物実験施設長 （期間：平成30年3月31日まで）	高岡晃教	遺伝子病制御研究所教授

### 新任教授紹介

平成29年10月16日付



理学研究院教授に

よしなが まさひこ  
吉永 正彦 氏

数学部門数学分野

生年月日

昭和52年8月12日

最終学歴

京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成16年5月）  
京都大学博士（理学）

専門分野

数学、特に超平面配置とその周辺

## 訃報

### 名誉教授 深澤 和三 氏 (享年85歳)



名誉教授 深澤和三先生が平成29年10月19日に逝去されました。

先生は昭和7年3月9日にフィリピンのマニラ市にて生まれました。昭和28年3月に北海道大学農学部林産学科を卒業され、同29年5月に岐阜大学に奉職、同年9月同大学助手、同40年8月講師、同42年5月助教授を経て、同43年6月に古巣の北海道大学農学部配置換となりました。以降、昭和59年4月に教授に昇任、平成7年3月に停

年退職されるまで北海道大学に勤続されました。退職後には、北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

岐阜大学在任中から北大を停年退職されるまで、先生は林産学の教育研究に尽力されました。キャリア初期を過ごした岐阜大学では、林木材質学の研究に取り組み、中部地方の針葉樹人工造林木の材質に関する多くの基礎データを収集され、その成果を昭和42年に学位論文としてまとめ、農学博士を授与されています。北大に着任後は木材解剖学の研究に転じましたが、紫外線顕微鏡など組織化学的手法によるリグニン多様性の解析や年輪情報を用いた気候変動の解析など、木材化学や年代学など他の学問分野との境界領域において先駆的な研究を展開されました。昭和59年には、その功績を称えてInternational Academy of Wood Science (国際木材科学アカデミー)

のフェローに選出されています。

外国旅費を公的な研究費から支出することが認められない時代から、外国で開催される国際学会に頻々と参加するとともに、国際交流の補助金を度々獲得して外国の著名研究者を招聘するなど、国際交流に大きく貢献されました。また、学生時代に陸上ホッケー部に在籍していた縁で、教員として北大に復帰後は陸上ホッケー部の顧問や学生ホッケー連盟の要職を歴任されるなど、学生の課外活動のサポートにも努められました。停年までの2年間は評議員と学生部長を兼任され、北大の管理運営にも尽力されました。

先生の功績とお人柄を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

(農学院・農学研究院・農学部)

### 名誉教授 内山 洋一 氏 (享年84歳)



内山洋一先生は、平成29年10月25日ご逝去されました。先生は、昭和9年新潟県に生まれ、同33年3月東京医科歯科大学歯学部を卒業後、同年6月同大学歯学部助手に採用され、同40年11月歯学博士の学位を授与されました。その後、東北大学歯学部助教授を経て、昭和46年4月北海道大学歯学部教授(歯科補綴学第二講座)に就任されました。平成9年3月停年退官されるまで、学生の教育や卒後研修による人材の育成、博識と先見性、柔軟な発想力による数々の先駆的な研究成果、歯

科臨床の発展への寄与など、多くの功績を残されました。また、北海道大学歯学部附属病院長、北海道大学評議員ほか、各種委員会委員を務められ、本学の管理運営に尽力されました。

専門である冠橋義歯補綴学では、若い頃からその卓越した治療手技は広く知られ、自ら素晴らしい臨床実績を残しただけでなく、歯科界の治療技術レベルの向上に向けて、後進の技術教育に力を注がれました。一方で、術者の手技の力量の個人差に左右されることのない歯科医療の質の向上の必要性、そして歯科医療の省力化の重要性を早くから認識し、工業界の機械化や自動化技術の導入を提唱され、工学部や医学部、産業界と共同で研究開発に取り組まれました。その成果は、3年前保険収載されるに至ったCAD/CAM冠など、歯科における現在のCAD/CAM技術の普及に繋がり、その先駆者として高く評価されています。

学外においては、日本学術会議咬合

学研究連絡委員会委員、歯科医師国家試験委員、医療関係者審議会専門委員、歯科医師部会員、学術審議会専門委員、厚生省医療技術参与を務め、学会においては、日本補綴歯科学会会長、第96回学術大会会長、日本医用歯科機器学会会長、日本接着歯学会副会長、日本歯科審美学会副会長などを務め、我が国の歯科医学の発展に大きく貢献されました。

北海道大学退官後も、年2回の教室の同門会の集まりでは、歯科に残された問題点の指摘や研究に関するアイデアをお話しされるなど衰えぬ思考力を見せていました。また、平成25年まで北海道医療大学客員教授、非常勤講師として外来診療、教育、研究を続けられ、生涯、歯科治療や研究、教育への情熱を持ち続けられました。

ここに生前のご功績を称え、心より哀悼の意を表します。

(歯学院・歯学研究院・歯学部)

# 資料

## 役員員数

平成29年10月1日現在

部局等	職種	総長	理事	監事	小計	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	URA職	専門職	事務職員	技術職員	合計
役員		1人	5人	2人	8人	人	人	人	人	人	人		人	人	人	8人
政策調整室														4		4
監査室														6		6
事務局	総務企画部												4	90	12	106
	財務部													81		81
	学務部													71		71
	研究推進部													33	1	34
	施設部													9	24	33
	国際部														38	
附属図書館														93		93
文学研究科・文学部						50	35		8		93	2		16		111
法学研究科・法学部						33	16	1	6	2	58		2	18		78
情報科学研究科						41	37		18		96					96
水産科学院・水産科学研究所・水産学部						29	30		19		78				40	118
函館キャンパス事務局														23	4	27
環境科学院・地球環境科学研究所						20	23		8	1	52					52
環境科学事務局														12		12
理学院・理学研究所・理学部						75	66	11	43	2	197		1		18	216
理学・生命科学事務局														41	2	43
薬学研究所・薬学部						16	5	10	20		51				3	54
薬学事務局														11		11
農学院・農学研究所・農学部						44	38	30	19		131				11	142
農学・食資源学事務局														28	2	30
生命科学院・先端生命科学研究所						11	4	1	11		27					27
教育学院・教育学研究所・教育学部						13	22		4	1	40					40
教育学事務局														8		8
国際広報メディア・観光学院・メディア・コミュニケーション研究所						27	29	2	4		62					62
メディア・観光学事務局														9		9
保健科学院・保健科学研究所						26	11	6	33		76					76
工学院・工学研究所・工学部						87	95	2	91	1	276		1		49	326
工学系事務局														68	3	71
総合化学院																
経済学院・経済学研究所・経済学部						25	17		4		46		2			48
経済学事務局														9		9
医学院・医学研究所・医学部						34	31	13	62	2	142				12	154
医学系事務局														46	2	48
歯学院・歯学研究所・歯学部						18	19	1	44		82				4	86
歯学事務局														12	1	13
獣医学院・獣医学研究所・獣医学部						17	15	5	15		52				3	55
獣医学系事務局														15		15
医理工学院																
国際感染症学院																
国際食資源学院																
公共政策学教育部・公共政策学連携研究部						12	6	2			20					20
北海道大学病院						4	20	55	82		161			121	661	943
低温科学研究所						13	10	1	21		45			8	9	62
電子科学研究所						14	13		20		47				10	57
遺伝子病制御研究所						8	5	5	13		31				7	38
触媒科学研究所						8	7		6		21				6	27
スラブ・ユーラシア研究センター						8	2		5	1	16					16
情報基盤センター						7	5		3		15					15
人獣共通感染症リサーチセンター						6	4	3	3		16				2	18
アイソトープ総合センター						1	1		1		3				2	5
量子集積エレクトロニクス研究センター						3	3				6					6
北方生物圏フィールド科学センター						13	19		10		42			19	72	133
観光学高等研究センター						3	2				5					5
アイヌ・先住民研究センター						1	6		1		8					8
社会科学実験研究センター									1		1					1
環境健康科学研究教育センター							1				1					1
北極域研究センター						3	1		3		7					7
脳科学研究教育センター																
外国語教育センター																
総合博物館						3	2	2	2		9					9
大学文書館							1				1		1			2
保健センター						1		2			3				9	12
埋蔵文化財調査センター									2		2					2
国際連携研究教育局						10(37)	5(26)	1(8)	6(15)		22					22
技術支援本部																
情報環境推進本部													1			1
アドミッションセンター																
人材育成本部																
創成研究機構							1		1		2		1		8	11
高等教育推進機構						2	8	1			11				4	15
サステイナブルキャンパス推進本部																
安全衛生本部						2					2		1			3
大学力強化推進本部												12				12
産学・地域協働推進機構						1					1		8			9
国際連携機構						4	5		9		18		6			24
総合IR室																
北キャンパス合同事務部														16		16
合計		1	5	2	8	693	620	154	598	10	2,075	14	28	905	981	4,011

\*国際連携研究教育局の教職員数の( )内は、北海道大学ユニットの本務者数で内数。当該教職員は、原籍組織の教職員数に計上。  
 (情報科学研究科：9名、水産科学研究所：1名、地球環境科学研究所：4名、農学研究所：13名、先端生命科学研究所：10名、教育学研究所：1名、メディア・コミュニケーション研究所：1名、保健科学研究所：2名、工学研究所：3名、経済学研究所：1名、医学研究所：7名、獣医学研究所：3名、北海道大学病院：5名、低温科学研究所：1名、電子科学研究所：5名、スラブ・ユーラシア研究センター：2名、人獣共通感染症リサーチセンター：10名、北方生物圏フィールド科学センター：1名、北極域研究センター：7名)

(総務企画部人事課)



## 在籍学生数（平成29年10月1日現在）

- (注) 1 ( ) 内は女子の内数, < > 内は女子の比率  
 2 [ ] 内は2年次編入学定員で外数  
 3 [ ] 内は3年次編入学定員で外数(工学部は高専卒業者の受入れ)  
 4 以下の表は, すべて外国人留学生数を含む

## ■学部

学部等名	入学定員	在籍者数							聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講学生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人 [人]	一人	186人	193人	236人	一人	一人	615人 (276(44.9%))	11人	3人	61人	70人	760人 (384(50.5%))
教育学部	50 [10]	—	51	64	77	—	—	192 (91(47.4))		16	20	4	232 (117(50.4))
法学部	200 [10][10]	—	214	212	248	—	—	674 (220(32.6))	6	3		15	698 (231(33.1))
経済学部	190	—	208	188	226	—	—	622 (148(23.8))			46	10	678 (189(27.9))
理学部	300	—	313	322	355	—	—	990 (239(24.1))	1	7		11	1,009 (247(24.5))
医学部	287 [5]	—	297	314	305	108	125	1,149 (524(45.6))		1		2	1,152 (526(45.7))
歯学部	53	—	54	52	56	48	55	265 (108(40.8))			2		267 (108(40.4))
薬学部	80	—	81	86	81	27	29	304 (131(43.1))		5	1		310 (133(42.9))
工学部	670 [10]	—	704	727	853	—	—	2,284 (321(14.1))		1		37	2,322 (330(14.2))
農学部	215	—	227	228	244	—	—	699 (266(38.1))	3	3		6	711 (272(38.3))
獣医学部	40	—	41	43	49	38	41	212 (85(40.1))				15	227 (98(43.2))
水産学部	215	—	218	215	230	—	—	663 (149(22.5))		1	4	8	676 (157(23.2))
現代日本学 プログラム課程	—	—	16	9		—	—	25 (20(80.0))					25 (20(80.0))
総合教育部	—	2,703	—	—	—	—	—	2,703 (764(28.3))				114	2,817 (819(29.1))
合計	2,485 [15][30]	2,703	2,610	2,653	2,960	221	250	11,397 (3,342(29.3))	21	40	134	292	11,884 (3,631(30.6))

※学部の入学定員は, 学生が第2年次に進級した場合の入学定員である

## ■研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合計
観光学高等研究センター	2人	人	一人	一人	2人(2(100.0%))
低温科学研究所	2		—	—	2(0(0.0))
電子科学研究所	2	1	—	—	3(1(33.3))
遺伝子病制御研究所	7		—	—	7(3(42.9))
触媒科学研究所	8		—	—	8(1(12.5))
スラブ・ユーラシア研究センター	3		—	—	3(2(66.7))
情報基盤センター	2		—	—	2(1(50.0))
国際連携機構			53	30	83(50(60.2))
総合博物館	1		—	—	1(1(100.0))
北方生物圏フィールド科学センター	3		—	—	3(0(0.0))
高等教育推進機構	4		—	—	4(2(50.0))
合計	34	1	53	30	118(63(53.4))

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数  
生命科学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数

■大学院

研究科名	修士課程(博士前期)				専門職学位課程				博士課程(博士後期及び博士一貫)					聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講生	特別研究生	合計		
	入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数											
		1年次	2年次	小計		1年次	2年次	3年次		小計	1年次	2年次	3年次							4年次	小計
文学研究科	90人	81人	113人	194人 (96/49.5%)	一人	一人	一人	一人	一人	35人	27人	33人	100人	一人	160人 (80/50.0%)	5人	0人	19人	7人	5人	390人 (196/50.3%)
法学研究科	20	30	19	49 (25/51.0)	50	18	15	18	100 (23/23.0)	15	7	5	21	—	33 (12/36.4)	2	22	7	4	217 (79/36.4)	
情報科学研究科	177	193	180	373 (42/11.3)	—	—	—	—	—	42	43	37	60	—	140 (20/14.3)	—	22	1	4	540 (65/12.0)	
薬学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0 (0/0.0)
水産科学院	90	98	117	215 (59/27.4)	—	—	—	—	—	35	15	19	18	—	52 (16/30.8)	—	—	—	6	273 (76/27.8)	
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2 (0/0.0)	
環境科学院	159	168	158	326 (119/36.5)	—	—	—	—	—	63	32	33	90	—	155 (56/36.1)	—	—	—	2	483 (176/36.1)	
地球環境科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	26	—	—	26 (15/57.7)	
理学院	129	125	150	275 (48/17.5)	—	—	—	—	—	56	43	46	63	—	152 (27/17.8)	—	—	—	3	430 (75/17.4)	
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19	—	—	19 (6/31.6)	
農学院	142	174	183	357 (133/37.3)	—	—	—	—	—	42	41	40	72	—	153 (47/30.7)	—	—	3	2	515 (184/35.7)	
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24	—	—	24 (9/37.5)	
生命科学院	132	132	129	261 (97/37.2)	—	—	—	—	—	46	44	42	62	—	175 (40/22.9)	—	—	—	4	440 (139/31.6)	
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2 (0/0.0)	
教育学院	45	49	48	97 (68/70.1)	—	—	—	—	—	21	14	17	49	—	80 (45/56.3)	1	—	—	3	181 (117/64.6)	
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	—	7 (3/42.9)	
国際広報メディア・観光学研究院	42	44	53	97 (71/73.2)	—	—	—	—	—	17	9	14	52	—	75 (38/50.7)	3	—	4	1	180 (116/64.4)	
メディア・コミュニケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33	—	—	33 (28/84.8)	
保健科学院	40	48	51	99 (41/41.4)	—	—	—	—	—	10	9	10	22	—	41 (17/41.5)	—	—	—	1	141 (59/41.8)	
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	—	—	13 (10/76.9)	
工学院	326	406	389	795 (111/14.0)	—	—	—	—	—	69	73	66	69	—	208 (30/14.4)	1	—	13	4	1,021 (150/14.7)	
工学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	49	—	—	49 (13/26.5)	
工学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3 (0/0.0)	—	—	—	—	3 (0/0.0)	
総合化学院	129	154	143	297 (60/20.2)	—	—	—	—	—	38	50	53	56	—	159 (38/23.9)	—	—	—	2	458 (98/21.4)	
経済学院	35	38	—	38 (23/60.5)	20	22	—	—	22 (5/22.7)	8	12	—	—	—	12 (5/41.7)	1	—	2	1	76 (36/47.4)	
経済学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	3 (2/66.7)	
経済学研究科	—	—	41	41 (26/63.4)	—	1	12	—	13 (2/15.4)	—	—	6	10	—	16 (4/25.0)	—	—	—	—	70 (32/45.7)	
医学院	20	30	—	30 (14/46.7)	—	—	—	—	—	90	90	—	—	—	90 (19/21.1)	1	—	—	3	124 (35/28.2)	
医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—	—	8 (5/62.5)	
医学研究科	—	—	31	31 (16/51.6)	—	—	—	—	—	—	—	96	88	157	341 (79/23.2)	—	1	—	—	373 (95/25.5)	
歯学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	21	—	—	—	21 (10/47.6)	—	—	—	—	21 (10/47.6)	
歯学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14	—	—	14 (6/42.9)	
歯学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	37	30	29	97 (35/36.1)	—	—	—	—	97 (35/36.1)	
獣医学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	17	—	—	—	17 (7/41.2)	—	—	—	—	17 (7/41.2)	
獣医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	—	10 (3/30.0)	
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	27	18	29	77 (37/48.1)	—	—	—	—	77 (37/48.1)	
医理工学院	12	16	—	16 (0/0.0)	—	—	—	—	—	5	9	—	—	—	9 (2/22.2)	—	—	—	—	25 (2/8.0)	
国際感染症学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	14	—	—	—	14 (6/42.9)	—	—	—	—	14 (6/42.9)	
国際食資源学院	15	17	—	17 (8/47.1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17 (8/47.1)	
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	40	33	—	73 (24/32.9)	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	75 (24/32.0)	
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14	—	14 (11/78.6)	
合計	1,603	1,803	1,805	3,608 (1,057/29.3)	100	106	84	18	208 (54/26.0)	664	580	586	891	223	2,280 (670/29.4)	7	9	288	37	45	6,482 (1,968/30.4)

(学務部学務企画課)

## 広報誌等一覧

平成29年10月調査

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	
事	企画課	北海道大学近未来戦略150（英語・日本語併記版）	不定期	H26年8月	北海道大学創基150年に向けた近未来戦略
	広報課	北海道大学読本	不定期	H26年11月	「北大を知るならまずここから」をコンセプトに、本学をコンパクトにわかりやすく紹介
		ビジュアルブック	不定期	H27年3月	色彩豊かで伝統と趣のあるキャンパス風景を四季ごとに紹介
		北海道大学概要	年1回	H29年度版	本学の沿革、組織、職員数等、大学の概要を掲載
		北海道大学概要（英語版）	年1回	H29年9月	本学の沿革、組織、職員数等、大学の概要を掲載
		リテラポブリ	年2回	H29年3月	北海道大学の新たなプロジェクトや変革、教育研究、及び緑豊かなキャンパス等を紹介
		リテラポブリ（英語版）	年2回	H29年6月	北海道大学の新たなプロジェクトや変革、教育研究、及び緑豊かなキャンパス等を紹介
		北大時報	月1回	H29年10月	その月の大学や部局のニュース、お知らせ等を掲載
		キャンパスガイドマップ	不定期	H29年6月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介
		Campus Guide Map（キャンパスガイドマップ 英語版）	年1回	H27年10月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介
Spotlight on Research	年2回	H29年10月	英語版北大公式webサイト等に掲載した研究成果プレスリリースの中から選んだ11本を再構成して掲載		
務	主計課財務管理室	財務レポート	年1回	H29年10月	財務諸表では伝わりにくい財務情報をわかりやすく分析し、併せて本学の活動のうち特徴的なものを財務情報を交えて紹介
	教育推進課	新渡戸カレッジパンフレット	年1回	H29年8月	新渡戸カレッジの概要を掲載
		新渡戸カレッジパンフレット（企業向け）	不定期	H27年9月	新渡戸カレッジの概要を掲載（企業向け）
		新渡戸スクールリーフレット	年1回	H29年3月	新渡戸スクールの活動内容を紹介
	学生支援課	えるむ	年3回	H29年4月	学生向けに学内行事・ニュース・お知らせ等を掲載
		北大元気プロジェクト実施報告書	年1回	H29年9月	北大元気プロジェクトの活動報告を掲載
		学生生活の案内	年1回	H29年4月	学部学生向けの学生生活案内
		学生相談室 広報用カード	不定期	H29年3月	学生相談室の概要
		特別修学支援室リーフレット	不定期	H28年7月	特別修学支援室の概要
		キャンパスライフサポートマップ	不定期	H28年7月	アクセシビリティ調査の結果と学内の関係機関と支援学生の協力により作成した環境情報を掲載
とって北大生		4年に1回	H26年8月	学生生活実態調査の結果を元に北大生の学生生活を紹介	
北海道大学学生寮入寮案内－恵迪寮－		年1回	H29年1月	学生寮（恵迪寮）の概要・入寮出願手続き等を掲載	
北海道大学学生寮入寮案内－霜星寮－		年1回	H29年1月	学生寮（霜星寮）の概要・入寮出願手続き等を掲載	
北海道大学学生寮入寮案内－北大インターナショナルハウス北23条2号棟－	年1回	H29年1月	学生寮（北大インターナショナルハウス北23条2号棟）の概要・入寮出願手続き等を掲載		
入試課	Be ambitious（大学案内）	年1回	H29年6月	学部等の紹介、修学コースマップ、入試・教育・学生生活の紹介	
	オープンキャンパス	年1回	H29年5月	オープンキャンパスの実施内容を掲載	
	AO入試案内	年1回	H29年5月	AO入試の概要について掲載	
	入学者選抜要項	年1回	H29年7月	平成30年度入学者選抜に関する概要	
	北大キャンパスビジットプロジェクト 北大ぐるぶらマップ	不定期	H29年7月	北大キャンパスビジットプロジェクト概要紹介、キャンパス案内	
	知のフロンティア －北海道大学の研究者は、いま－	不定期	H26年10月	本学教員の研究内容紹介	
キャリア支援課 （キャリアセンター名義で発行）	キャリア通信	年3回	H29年9月	キャリアセンター利用案内、各種就職ガイダンス・セミナー情報、インターンシップ情報等を掲載（発行時期により内容は異なる）	
	就職活動のためのキャリアハンドブック	年1回	H29年9月	各種就職関連情報等を掲載	
	就職活動のためのキャリアハンドブック （日本語・英語併記版、日本語・中国語併記版）	年1回	H29年9月	日本での就職を希望する外国人留学生向けに日本独自の慣習や就職活動の流れ等を掲載	
施設企画課	北海道大学キャンパスマスタープラン2006	不定期	H19年10月	21世紀に向けた大学の未来像を現実化するために、教育研究内容に相応しい長期的観点に立ち、将来構想を踏まえた施設整備の基本方針を定めたキャンパス計画	
	北海道大学キャンパスマスタープラン2006リーフレット	不定期	H19年10月	キャンパスマスタープラン2006の概要を掲載	
施設整備課	歴史的資産ガイドマップ	不定期	H28年7月	北海道大学の歴史的資産（建造物等）をマップと写真で紹介	
	HISTORIC HERITAGE VISITOR GUIDE AND MAP（歴史的資産ガイドマップ 英語版）	不定期	H29年2月	北海道大学の歴史的資産（建造物等）をマップと写真で紹介	
国際連携課	ソウルオフィスリーフレット（日本語版、韓国語版）	不定期	H28年4月	ソウルオフィスの施設案内	
	北海道大学留学案内ガイド（韓国語版）	不定期	H28年5月	韓国人留学生向けの入学案内（発行：ソウルオフィス）	
国際教務課	Modern Japanese Studies Program (MJSP)	年1回	H29年3月	現代日本学プログラムの概要を掲載	

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	
事務局	国際教務課	HANDBOOK FOR INTERNATIONAL STUDENTS	年1回	H29年8月	在学中の留学生に必要な手続き及び生活情報を提供
		Exchange Possibilities at Hokkaido Univesrity	年1回	H28年12月	本学の交換留学プログラムの紹介
		Hokkaido University Short-Term Exchange Program	年1回	H28年12月	北海道大学短期留学プログラムHUSTEPの紹介及び開講科目の授業内容等を掲載
		JAPANESE LANGUAGE AND CULTURE STUDIES PROGRAM (JLCSP)	年1回	H28年12月	北海道大学短期留学プログラムJLCSPの紹介及び開講科目の授業内容等を掲載
		Integrated Science Program (ISP)	年1回	H29年3月	ISPのプログラム概要を掲載
	国際交流課	北大生のための留学ハンドブック	年1回	H29年3月	北大生のための留学情報提供誌
		全学教育科目 一般教育演習 (フレッシュマンセミナー) グローバル・キャリア・デザイン [通称:ファースト・ステップ・プログラム (FSP)]	不定期	H29年3月	FSP概要
		Hokkaidoサマー・インスティテュートリーフレット (日本語・英語)	年1回	H29年3月	北大生のためのHSIプログラム概要
		Hokkaido Summer Institute (英語)	年1回	H28年12月	学外者向けHSIプログラム概要
		RJE3リーフレット (日本語・英語・ロシア語)	不定期	H27年3月	RJE3プログラム概要
PAREリーフレット (日本語・英語)	不定期	H28年3月	PAREプログラム概要		
文学研究科・文学部	北海道大学大学院文学研究科・文学部概要	年1回	H29年8月	文学部の沿革、歴代学部長、組織運営等の概要を掲載	
	北海道大学大学院文学研究科案内	年1回	H29年6月	研究科の担当教員や専攻・専修紹介、学生生活、授業内容、入試情報、進路・就職情報等を掲載	
	北海道大学文学部案内	年1回	H29年7月	学部の担当教員や履修コース紹介、学生生活、授業内容、留学情報、入試情報、進路・就職情報等を掲載	
	北海道大学文学部学外評価委員会報告書	不定期	H27年12月	外部評価報告書	
	北海道大学文学研究科紀要	年3回	H29年7月	文学研究科専任教員の研究成果を論文として掲載	
	北海道大学大学院文学研究科研究論集	年1回	H29年3月	文学研究科大学院学生の研究成果を論文として掲載	
	北海道大学大学院文学研究科研究叢書	年1～3回	H26年7月	文学研究科専任教員の研究成果や共同研究の公表	
	Journal of the Graduate School of Letters	年1回	H28年12月	文学研究科教員及び大学院学生の研究成果を英文論文として掲載	
	北海道大学大学院文学研究科ライブラリ	年2回	H29年6月	文学研究科専任教員の研究成果や共同研究の成果、公開講座のテキストを掲載	
	北海道大学文学研究科 若手研究者支援リーフレット	不定期	H29年4月	文学研究科が大学院生向けに実施している独自の支援事業の概要を紹介するリーフレット	
	文学研究科紹介DVD	年1回	H27年5月	文学研究科の研究教育システム、各専修の紹介、進路情報などをまとめた映像、約8分、大学院進学説明会にて上映	
	文学部紹介DVD	年1回	H27年7月	文学部の教育システム、各コースの紹介、進路情報などをまとめた映像、約20分、オープンキャンパスにて上映	
	文学研究科大学院進学説明会配付資料	年1回	H29年6月	文学研究科の入試情報、カリキュラム、支援情報、進路情報、学位論文題目などを掲載	
	Graduate School of Letters / Faculty of Letters	不定期	H26年2月	文学研究科・文学部の海外向け英文パンフレット、文学研究科・文学部の概要をコンパクトにまとめて掲載	
	北海道大学大学院 文学院 (仮称) 紹介リーフレット	不定期	H29年10月	2019年4月設置予定の文学院の特徴を紹介するリーフレット	
留学ガイドブック	年1回	H29年3月	部局間協定校へ留学を希望する、文学研究科・文学部の学生向けガイドブック		
法学研究科・法学部	法学部案内 Be Ambitious	年1回	H29年6月	法学部での学生生活、学修内容や教員等の紹介	
	北大法学論集	年6回	H29年9月	文献の論説、資料の紹介及び判例研究を掲載	
	北大法政ジャーナル	年1回	H28年12月	法学研究科修士論文の「優」に相当する論文及びリサーチペーパー	
	附属高等法政教育研究センター NewsLetter j-mail	不定期	H28年9月	主催シンポジウムの報告、所属教員・研究会の研究内容等を掲載	
	大志ある法曹をめざして (法科大学院パンフレット)	年1回	H29年6月	法科大学院の教育プログラム、教員の紹介、入試制度等を掲載	
	自己点検評価・外部評価報告書	不定期	H26年11月	法学研究科・法学部の自己点検・評価報告書 法学研究科・法学部の外部評価報告書	
	自己点検・評価報告書評価資料集	不定期	H26年11月	法学研究科・法学部の自己点検・評価に関する資料集	
情報科学研究科	知的財産法政策学研究	年2回	H29年5月	知的財産法政策学研究に関する研究報告	
	北海道大学大学院情報科学研究科	年1回	H29年4月	情報科学研究科の研究内容等に関する紹介	
	北海道大学大学院情報科学研究科 (日本語版リーフレット)	年1回	H29年4月	情報科学研究科の紹介	
	北海道大学大学院情報科学研究科 (英語版リーフレット)	年1回	H29年4月	情報科学研究科の紹介	
IST NEWS	年4回	H29年9月	情報科学研究科のニュースを掲載		
水産科学院・水産科学研究院・水産学部	北海道大学大学院水産科学研究院・水産科学院・水産学部概要	年1回	H29年度版	沿革、組織、講座等の紹介 (一般向け)	

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
水産科学院・水産科学研究所・水産学部	北海道大学水産学部 PR誌 aQua	不定期	H29年8月	学部、学院、各学科及び各専攻の紹介（学生向け）
	北海道大学水産学部附属練習船おしよる丸	不定期	H27年1月	附属練習船おしよる丸の概要紹介
	北海道大学水産学部附属練習船うしお丸	不定期	H14年3月	附属練習船うしお丸の概要紹介
	北海道大学水産科学研究彙報 (Bulletin of Fisheries Sciences, Hokkaido University)	年3回	H29年8月	英文・和文で書かれた報文、短報等をまとめたもの
	Memoirs of the Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University (北海道大学大学院水産科学研究所紀要)	年2回	H28年12月	学術的価値を有し、まとまった研究成果を公表する報文、特定分野に従来の研究を総合的にまとめた総合論文（レビュー）等を掲載
	Data Record of Oceanographic Observations and Exploratory Fishing (海洋調査漁業試験要報)	年1回	H29年3月	本学部練習船を用いて行った海洋観測、生物調査、漁業試験結果の紹介
	北海道大学水産科学研究科・水産学部の現状と課題 - 自己点検評価報告書 -	不定期	H20年3月	水産学部の現状と今後の課題をまとめたもの
	北海道大学水産科学研究科・水産学部の現状と課題 - 外部点検評価報告書 -	不定期	H20年4月	水産学部の現状と今後の課題をまとめたもの
	学生寮入寮案内 - 北農寮	不定期	H28年4月	学生寮（北農寮）の概要・入寮手続き等を掲載（WEB版）
環境科学院・地球環境科学研究所	北海道大学大学院環境科学院の紹介	年1回	H29年度版 (H29年3月)	学院の組織、各専攻の紹介等、環境科学院の概要を掲載
	英文リーフレット	不定期	H29年度版 (H29年5月)	学院の組織、各専攻の紹介等、環境科学院の概要を掲載
理学院・理学研究所・理学部	北海道大学大学院理学研究所・理学院・理学部概要	不定期	H29年度版	沿革、組織、職員数、学生数、建物案内、附属施設等の紹介
	理学部 学部案内	2～3年に1回	H29年度版	理学部各専攻の概要や附属施設の紹介及び卒業生の進路、意見等を掲載
	北海道大学理学部広報誌「Sci」	年2回	H29年8月	理学部各学科を特集で紹介、理学部OB・OG紹介、識者による理学と理学部への期待、学生受賞情報、理学部の歴史等を掲載
	理学部ハンドアウト（簡易版パンフレット）	不定期	H28年12月	理学部各学科の簡単な紹介
	School of Science リーフレット	不定期	H29年8月	理学部の紹介（英文）
	Graduate School of Science	年1回	H29年3月	理学院の紹介（英文）
	Faculty of Scienceパンフレット	不定期	H27年3月	理学研究所の紹介（英文）
	北海道大学大学院理学院数学専攻パンフレット	年1回	H29年6月	数学専攻スタッフ一覧、専門紹介、修士課程の履修について掲載
	Hokkaido Mathematical Journal (紀要)	年3回	H29年10月	研究論文
	数学科目ガイド	不定期	H25年4月	数学科の学部学生向け科目案内（全学教育科目、専門科目）
	Hokkaido University Preprint Series in Mathematics	不定期	H29年11月	研究論文速報（HPにて公開）
	Hokkaido University Technical Report Series in Mathematics	不定期	H29年8月	研究集会、特別講演等、本学で講演されたもののアブストラクト集
	北海道大学理学部数学科ガイド	年1回	H29年5月	1年生向け数学科の案内
	北海道大学理学部化学科パンフレット	不定期	H27年6月	化学科の研究室・研究内容等の紹介
	Annual Report2016（化学専攻）	年1回	H29年7月	各研究室の研究業績・外部資金獲得状況等の紹介、各種大学院教育プログラム実績の紹介
	物理学部門年次報告書	年1回	H29年4月	部門の活動一覧、各研究グループの成果報告
	北海道大学理学部物理学科パンフレット	不定期	H29年4月	カリキュラム、研究室等の紹介
	北海道大学理学部生物科学科（生物学）学科案内	年1回	H29年5月	高校生・一般向け講座紹介、入学から卒業までの過程、授業内容、高校生一日入学紹介、教員名簿、卒業後の進路（過去3年間）を掲載
	北海道大学理学部生物科学科（生物学）広報	年1回（漸次更新）	H29年10月	高校生・一般向け講座紹介、教員紹介、各種お知らせ、いきものがたり、生物学者列伝、入学から卒業までの過程、授業内容等を掲載（HPにて公開）
	北海道大学理学部生物科学科（高分子機能学）パンフレット	年1回	H29年7月	学科内容、研究室等の紹介
	北海道大学大学院理学院宇宙理学専攻 専攻案内パンフレット	不定期	H25年6月	専攻内容及び各研究室研究内容メンバーの紹介
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻概要	年1回	H28年5月	専攻の組織、カリキュラム、講座紹介・教員紹介等を掲載
	北海道大学理学部地球惑星科学科パンフレット	不定期	H29年4月	学科内容の紹介、教員紹介
	北海道大学地球物理学研究報告	年1回以上	H27年3月	研究論文の発表
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星ダイナミクス講座	不定期	H27年3月	ダイナミクス講座の研究教育活動及び構成員名簿を掲載
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星システム科学分野	不定期	H28年3月	システム科学講座の研究教育活動及び構成員名簿を掲載
	北海道大学大学院理学研究所附属地震火山研究観測センター	不定期	H29年4月	学部学生を対象として、沿革、分野の紹介等、センターの概要を掲載
	The Institute of Seismology and Volcanology Faculty of Science, Hokkaido University	不定期	H24年3月	外国人研究者及び留学生等を対象として、沿革、分野の紹介等、センターの概要を掲載

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
理学院・理学研究院・理学部	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター年報	年1回	H26年10月	センターとしての活動・研究活動・教育活動及び構成員名簿を掲載
薬学研究院・薬学部	生命科学の最先端へ	年1回	H29年6月	学部紹介パンフレット
	北海道大学大学院薬学研究院・薬学部外部点検評価報告書	不定期	H26年3月	点検評価
	北海道大学大学院薬学研究院・薬学部自己点検評価報告書	不定期	H25年10月	点検評価
農学院・農学研究院・農学部	北海道大学大学院農学研究院・大学院農学院・農学部概要	年1回	H29年7月	農学研究院・農学院・農学部の沿革等の概要を掲載(和文・英文併記)
	北海道大学大学院農学研究院邦文紀要	年2回	H29年3月	農学研究院・農学部の学術研究論文誌
	Journal of the Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University (北海道大学大学院農学研究院欧文紀要)	年1回	H23年2月	農学研究院・農学部の学術研究論文誌
	北海道大学大学院農学研究院邦文紀要別冊「農経論叢」	年1回	H29年3月	農業経済に関する学術研究論文誌
	Insecta Matsumurana	年1回	H29年10月	昆虫学に関する学術研究論文誌
	農学部学部案内	不定期	H29年7月	各学科・附属施設の内容紹介(冊子)
生命科学院・先端生命科学研究院	北海道大学大学院先端生命科学研究院パンフレット	不定期	H26年3月	構成、研究活動、連携、支援体制、人材育成、研究室紹介
	次世代物質生命科学研究所Annual Report 2016年度	年1回	H29年10月	研究活動、研究業績、研究資金等を掲載
	北海道大学大学院生命科学院パンフレット	年1回	H29年度版	大学院受験生への学院紹介、研究概要、入試概要、施設・設備紹介
	北海道大学薬学部 大学院生命科学院 生命科学専攻 生命医薬科学コース 臨床薬学専攻 パンフレット	隔年	H29,30年度版	薬学部、生命医薬科学コース、臨床薬学専攻の概要、カリキュラム、研究活動、施設・設備紹介
	北海道大学大学院生命科学院 生命融合科学コース パンフレット	年1回	H24年5月	コース概要
	北海道大学大学院生命科学院 生命システム科学コース	年1回	H28年度版	コース概要
	先端生命科学研究院リーフレット	不定期	H29年6月	構成、研究活動、産学連携、支援体制、人材育成、研究室紹介
Graduate School of Life Scienceパンフレット	不定期	H29年3月	生命科学院の紹介(英文)	
教育学院・教育学研究院・教育学部	北海道大学教育学部案内	3年に1回	H29年3月	各研究室の紹介、卒業後の進路、学生の声、卒業生の声、国際交流状況等を掲載
	北海道大学大学院教育学院入学案内	3年に1回	H29年3月	各研究室を紹介
	北海道大学大学院教育学研究院紀要	年2回	H28年6月	研究の成果を論文として掲載
	北海道大学教職課程年報	年1回	H29年3月	北海道大学教職課程に関連した調査研究及び授業実践等に関する論文や各種資料を掲載
国際広報メディア・観光学院 メディア・コミュニケーション研究院	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院案内	年1回	H29年4月	学院の沿革、組織、職員数等の概要を掲載
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院案内 英語版	年1回	H27年4月	学院の沿革、組織、職員数等の概要を掲載(英語版)
	国際広報メディア・観光学ジャーナル	年2回	H29年9月	教員の教育・研究成果の公表、博士後期課程学生の研究発表
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 国際広報メディア専攻 観光創造専攻(リーフレット)	年1回	H29年度版	学院の紹介、入試日程概要
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 国際広報メディア専攻 観光創造専攻(リーフレット) 中国語版	年1回	H29年度版	学院の紹介、入試日程概要(中国語版)
	メディア・コミュニケーション研究 自己点検・評価報告書 外部評価報告書	年2回 不定期	H29年3月 H28年3月	教員の研究報告 自己点検・評価報告、外部評価報告
保健科学院・保健科学研究院	北海道大学大学院保健科学研究院・大学院保健科学院・医学部保健学科概要	年1回	H29年度版	保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載(英文併記)
	北海道大学大学院保健科学研究院広報「プラテュス」	年2回	H29年9月	保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科のニュース、トピックス、お知らせ等を掲載
	北海道大学大学院保健科学院保健科学専攻案内	隔年	H28年度版	受験生向け専攻案内
	北海道大学大学院保健科学院・医学部保健学科FDワークショップ報告書	年1回	H28年3月	保健科学院・医学部保健学科で実施したFDワークショップの報告書(メール配信)
	北海道大学大学院保健科学研究院・大学院保健科学院(医学部保健学科)年報	年1回	H29年9月	沿革、組織、研究活動、教育活動等を掲載(CD-ROM)
	北海道大学医学部保健学科・大学院保健科学院・大学院保健科学研究院フロアガイド	不定期	H27年6月	北海道大学医学部保健学科・大学院保健科学院・大学院保健科学研究院フロアガイド(日本語版、英語版)
工学院・工学研究院・工学部	北海道大学大学院工学研究院・工学院・工学部概要(和文・英文)	年1回	H29年度版	沿革、組織、職員数等、工学研究院・工学院・工学部の概要を掲載
	北海道大学大学院工学研究院・工学院広報誌「えんじにあRing」	年4回	H29年10月	工学研究院・工学院の研究紹介、ニュース等を掲載
	北海道大学工学系教育研究センター平成26年度活動報告書	隔年	H27年3月	工学系教育研究センターの報告書(活動)

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
工学院・工学研究院・工学部	北海道大学工学系教育研究センターリーフレット(和文/英文併記)	不定期	H26年7月	工学系教育研究センターの紹介
	北大CEED(工学系教育研究センター)eラーニングのご案内(和文・英文)	不定期	H28年4月	工学系教育研究センターeラーニングシステム開発部で提供しているeラーニングに関する紹介、視聴方法等案内、多言語化への取組
	北海道大学工学部のすべて2017・2018(学部紹介パンフレット)	隔年	H29年7月	工学部への入学を目指す高校生等を対象に、工学部の概要、特に4学科15コースの内容を中心に紹介
	Girls, Be ambitious!	不定期	H28年3月	工学部への入学を目指す女子学生を対象に、工学部を紹介するパンフレット
	就職に強い!工学部	不定期	H29年10月	工学部・工学系大学院の就職状況を紹介
	北海道大学工学院英語特別コースパンフレット(英文)	不定期	H27年8月	工学分野リーダー育成英語特別コース(e3)の概要紹介
	北海道大学工学部 情報エレクトロニクス学科(パンフレット)	年1回	H29年4月	工学部情報エレクトロニクス学科の紹介
	E.O	不定期	H27年11月	工学部情報エレクトロニクス学科の紹介
	北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センターパンフレット(和文・英文)	隔年	H28年8月	センターの沿革、組織、研究内容、業績等統計を掲載
北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センターマルチビーム超高压電子顕微鏡室(パンフレット)	不定期	H28年8月	超高压電子顕微鏡及び周辺機器の仕様、研究例、沿革等を掲載	
総合化学院	北海道大学大学院総合化学院概要(英語併記)	不定期	H29年3月	沿革、組織、総合化学院の概要、研究室紹介等を掲載
	北海道大学大学院総合化学院自己点検評価書	不定期	H26年11月	総合化学院創設から5年間の自己点検評価を掲載
	北海道大学大学院総合化学院外部点検評価書	不定期	H27年4月	H27年2月開催の外部中間評価概要、評価資料、外部委員による評価
	ANNUAL REPORT 2015	年1回	H29年2月	総合化学院の特色ある教育活動、学生状況、分野(研究室)の教育研究活動を掲載
	北海道大学大学院総合化学院紹介ポスター(パネル)	不定期	H27年4月	総合化学院の概要等を紹介
経済学院・経済学研究院・経済学部	北海道大学大学院経済学研究院・大学院経済学院・経済学部概要	年1回	H29年4月	経済学研究院・経済学院・経済学部の沿革、組織、学生数、職員数等の概要を掲載
	北海道大学大学院経済学院(紹介パンフレット)	不定期	H29年4月	経済学院への入学を目指す方を対象に、研究科の構成、入試情報、研究内容等を紹介
	北海道大学アカウンティングスクール(紹介パンフレット)	不定期	H29年4月	会計専門職大学院への入学を目指す方を対象に、入試情報、講義科目等を紹介
	経済学部のすべて(紹介パンフレット)	不定期	H29年4月	経済学部への入学を目指す方を対象に、学部の構成、授業科目、入試情報、学生生活等を紹介
	経済学研究(紀要)	年2回	H29年6月	経済学研究院・経済学院所属の教員・大学院生の研究論文を掲載
	地域経済経営ネットワーク研究センター年報	年1回	H29年3月	経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターの研究成果を発信
医学院・医学研究院・医学部	北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科概要(日本語版)	年1回	H29年9月	医学研究院・医学院・医学部の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載
	北海道大学大学院医学研究科・医学部医学科概要(英語版)	年1回	H28年12月	医学研究科・医学部の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載(英文)
	北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科広報	年4回	H29年8月	医学研究院・医学院・医学部医学科のニュース、トピックス、お知らせ等を掲載
	北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科紹介DVD	不定期	H29年7月	入学志願者、一般向けにカリキュラム、医学研究院・医学院・医学部医学科の特色等を紹介
	北海道大学医学部医学科案内	年1回	H29年7月	入学志願者、一般向け医学科案内
	VIS-Voice of the International Students-国際連携室だより(英日バイリンガル版)	年数回程度	H29年6月	留学生(大学院生・交換留学生)、医学科学生の意見、北大と関係がある国際交流イベントの紹介・参加者の感想等を掲載
	北海道大学 大学院医学院 修士課程案内(日本語版)	年1回	H29年5月	入学志願者、一般向け医学院修士課程案内
	北海道大学 大学院医学院 修士課程案内(英語版)	年1回	H29年8月	入学志願者、一般向け医学院修士課程案内(英文)
	北海道大学 大学院医学院 博士課程案内(日本語版)	年1回	H29年5月	入学志願者、一般向け医学院博士課程案内
	北海道大学 大学院医学院 博士課程案内(英語版)	年1回	H29年8月	入学志願者、一般向け医学院博士課程案内(英文)
北海道大学医学部保健学科案内	年1回	H29年度版	受験生向け保健学科案内	
歯学院・歯学研究院・歯学部	北海道大学大学院歯学研究院・大学院歯学院・歯学部概要	年1回	H29年9月	沿革、組織等、研究院・学院・学部の概要を掲載
	北海道大学大学院歯学研究院・歯学院・歯学部・歯科診療センター広報	年1回	H29年8月	行事紹介、研究活動紹介、新任教員紹介、歯科治療の紹介、学生ニュース等を掲載
	北海道大学歯学部・歯科診療センター創立50周年記念誌	1回	H29年9月	創立50周年を記念しての挨拶、祝辞、沿革、組織、研究活動等
	北海道大学歯学部学部紹介	年1回	H29年度版	歯学部を志願する高校生向けの学部案内
	北海道大学大学院歯学院紹介	年1回	H29年度版	歯学院の志願者向けの大学院案内

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
獣医学院・ 獣医学研究院・ 獣医学部	光れる北を	不定期	H29年5月	獣医学部案内
	The Japanese Journal of Veterinary Research	年4回	H29年8月	欧文による研究論文の発表、広報
	北海道大学 獣医学研究科 獣医学部 概要 (日本語・英語版)	不定期	H26年4月	獣医学研究科・獣医学部の沿革・組織・職員数等の概要を掲載
	大学院獣医学研究院・獣医学部 年報	不定期	H28年11月	研究院の概要、組織、研究活動、教育活動等を掲載
	獣医学研究院 附属動物病院	不定期	H27年10月	動物病院の施設・設備等診療案内
	外部評価報告書	4年に1回	H27年6月	外部評価委員による、獣医学研究科・獣医学部の施設・設備等の評価を公表
	自己点検評価報告書	4年に1回	H27年6月	獣医学研究科・獣医学部の点検・評価事項を公表
	News Letter One World - One Health 1つの世界、1つの健康の実現に向けて	年1～2回	H29年10月	リーディングプログラム広報
	大学の世界展開力強化事業 日本とタイの獣医学教育連携～アジアの健全な発展のために～ (日本語・英語版)	不定期	H29年3月	大学の世界展開力強化事業についての概要とカリキュラム案内
Collaboration of Veterinary Education between Japan and Thailand for Sound Evolution of Asia	年1回	H29年3月	大学の世界展開力強化事業についての報告書	
医理工学院	北海道大学 大学院医理工学院 修士・博士後期課程案内 (日本語版)	年1回	H29年5月	医理工学院修士課程・博士後期課程案内
	北海道大学 大学院医理工学院 修士・博士後期課程案内 (英語版)	年1回	H29年8月	医理工学院修士課程・博士後期課程案内 (英文)
国際感染症学院	北海道大学 大学院国際感染症学院 設置案内 (日本語・英語版)	未定	H28年8月	大学院国際感染症学院の開設・カリキュラム案内
国際食資源学院	北海道大学大学院国際食資源学院 入学希望者向けガイドブック	年1回	H29年6月	国際食資源学院の紹介
	北海道大学大学院国際食資源学院概要	年1回	H29年6月	国際食資源学院の沿革等の概要を掲載 (和文・英文併記)
公共政策学教育部・ 公共政策学連携研究部	外部評価委員会評価報告書	不定期	H26年3月	公共政策学連携研究部・教育部の外部評価報告書
	年報公共政策学	年1回	H29年3月	公共政策に関する研究論文
	大学院案内 (日本語版)	年1回	H29年4月	本大学院の特色、カリキュラム、学修環境等を紹介
	リーフレット	不定期	H28年3月	本大学院の特色、カリキュラム、学修環境等を簡略に紹介
	大学院案内 (英語版)	不定期	H27年3月	本大学院の特色、カリキュラム、学修環境等を紹介
	大学院案内 (中国語版)	不定期	H27年3月	本大学院の特色、カリキュラム、学修環境等を紹介
	大学院案内 (韓国語版)	不定期	H27年3月	本大学院の特色、カリキュラム、学修環境等を紹介
北海道大学病院	北海道大学病院概要	年1回	H29年度版	診療実績等の概要を掲載
	北海道大学病院 初期医師臨床研修プログラム	年1回	H29年度版	医師臨床研修プログラムを掲載
	北海道大学病院 歯科医師臨床研修プログラム	年1回	H29年度版	歯科医師臨床研修プログラムを掲載
	北海道大学 臨床研修センター Resident NEWS letter 「AMBITION」	年4回	H29年9月	当院医師臨床研修に係る最新情報を掲載
	北海道大学病院 内科専門研修プログラム	不定期	H29年6月	当院内科領域の専門研修に係る最新情報を掲載
	北海道大学病院 地域医療連携福祉センター ニュースレター	年2回	H29年5月	各診療科外来診療等紹介や院内の最新情報等を掲載
	北海道大学病院 腫瘍センター NEWS	年2回	H27年6月	腫瘍センターの活動やがん診療に関する情報を掲載
	北海道大学病院 看護部キャリア支援室だより「つながり」	年3回	H29年6月	当院看護師の研修に係る最新情報等を掲載
	北大病院 薬剤部NEWS	年4回	H29年9月	薬剤師業務及び医薬品に係る情報を掲載
	北海道大学病院 臨床研究開発センター News	年12回	H29年10月	臨床研究開発センターに係る情報を掲載
低温科学研究所	北海道大学低温科学研究所概要	隔年	H28年7月	研究所の沿革、組織、職員数等の概要を掲載
	北海道大学低温科学研究所年次自己点検評価報告書-年報-	年1回	H29年9月	研究所の活動状況、研究成果、自己点検評価の結果を掲載 (年報)
	北海道大学低温科学研究所外部点検評価報告書	不定期	H25年3月	研究所の組織及び運営、教員人事、研究活動、大学院教育及び社会教育等の外部評価を掲載
	低温研ニュース	年2回	H29年6月	研究紹介、シンポジウム報告、共同研究、人事異動等を掲載
	環オホーツク観測研究センターリーフレット (日本語版・英語版)	不定期	H26年9月	環オホーツク観測研究センターの研究内容を紹介
	北海道大学低温科学研究所 [ダイジェストガイド]	不定期	H29年1月	研究所の歴史、最新の研究内容、組織を紹介
電子科学研究所	北海道大学電子科学研究所 (概要)	隔年	H26年1月	研究所の概要の紹介用パンフレット (日本語と英語の併記)
	研究活動-点検評価報告書-	毎年	H28年8月	研究所の研究教育活動の年次報告
	外部評価報告書	不定期	H28年1月	研究所の外部評価の状況の取りまとめを掲載
遺伝子病制御研究所	北海道大学遺伝子病制御研究所概要	隔年	H28年12月	目的と使命、沿革、歴代所長・施設長及び名誉教授、機構、職員・学生、研究活動、附属施設、教育活動、代表論文、北海道大学配置図を掲載



部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
遺伝子病制御研究所	北海道大学遺伝子病制御研究所年報	年1回	H28年12月	総論、機構、管理運営、社会貢献、附属施設、予算規模等、研究成果、教育活動、共同利用・共同研究拠点、研究活動、施設・設備、各種委員会等を掲載
	北海道大学遺伝子病制御研究所外部評価報告書	不定期	H26年8月	理念・目標、沿革、研究体制と将来構想、中期目標・中期計画、研究、教育、社会貢献活動、国際交流、管理運営等、施設、共同利用・共同研究拠点、附属施設、各分野における研究概要と成果等を掲載
	IGM News Letter	年1回	H29年3月	トピックス、お知らせ、研究業績紹介、新任教員紹介、新講座開設等を掲載
触媒科学研究所	触媒化学研究センター外部点検評価報告書	不定期	H25年3月	センター外の委員で組織された委員会による点検評価報告
	触媒科学研究所概要	年1回	H29年5月	研究所の沿革、組織、研究概要を掲載（英文併記）
	触媒科学研究所年報	年1回	H29年9月	沿革、組織、研究活動状況、教育活動状況を掲載
附属図書館	北海道大学附属図書館概要	年1回	H29年6月	附属図書館のサービス、沿革、イベント等の概要を掲載
	北海道大学附属図書館年報	年1回	H29年8月	附属図書館の活動のトピックス紹介、統計、組織、人事往来等を掲載
	北海道大学附属図書館本館利用案内（リーフレット）日本語版	不定期	H29年9月	附属図書館本館の利用に関する案内等を掲載
	Hokkaido University Library Guide（リーフレット）英語版	不定期	H29年4月	附属図書館本館の利用に関する案内等を掲載
	北海道大学附属図書館北図書館利用案内（リーフレット）日本語版	年1回	H29年4月	附属図書館北図書館の利用に関する案内等を掲載
	北海道大学附属図書館北方資料概要	不定期	H25年3月	附属図書館所蔵北方資料の利用に関する案内等を掲載
	榆蔭（北海道大学附属図書館報）	年2回	H29年10月	学生向けに附属図書館のサービス紹介、ニュース等を掲載
	HUSCAPレター	不定期	H26年3月	北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）収載文献の紹介記事等を掲載
スラブ・ユーラシア研究センター	SLAVIC RESEARCH CENTER HOKKAIDO UNIVERSITY（概要）	不定期	H28年10月	センターの沿革、組織、職員紹介、研究活動等を掲載
	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターニュース	年4回	H29年9月	センターの最新の研究・行事・人事等の活動状況を掲載
	スラブ・ユーラシア研究センターを研究する（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター点検評価報告書）	不定期	H26年8月	センターの自己点検評価報告、外部評価報告、活動記録報告
	ACTA SLAVICA IAPONICA（欧文学術雑誌）	年1回	H29年6月	投稿論文を欧文で掲載（レフェリー制）
	スラヴ研究（和文学術雑誌）	年1回	H29年6月	投稿論文を和文で掲載（レフェリー制）
	スラブ・ユーラシア研究報告集	不定期	H29年8月	研究報告会等での報告抄録等を掲載
	Slavic Research Center News	年1回	H29年4月	センターの研究・行事・人事等の活動状況を欧文で掲載
	Slavic Eurasian Studies（欧文論集）	不定期	H29年7月	シンポジウムのペーパー等を欧文で掲載
	Eurasia Border Review	年2回	H29年3月	グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」に関する報告抄録等を掲載
	境界研究	年1回	H29年3月	グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」に関する投稿論文を和文で掲載（レフェリー制）
	スラブ研究センター・レポート	不定期	H23年3月	研究報告会等での報告抄録等を掲載（WEB版）
	スラブ・ユーラシア研究者名簿	不定期	H24年3月	スラブ・ユーラシア地域研究者の名簿
スラブ・ユーラシア研究センター（SRC）メールマガジン	月1回	H29年10月	センターの行事や研究会の予定、募集等について掲載	
スラブ・ユーラシア研究センター（SRC）Twitter	随時	H29年10月	センターの行事や研究会の予定、募集等について掲載	
情報基盤センター	情報基盤センター概要	年1回	H28年9月	センターの沿革、組織、研究概要を掲載
	情報基盤センター概要（英語版）	隔年	H28年10月	センターの沿革、組織、研究概要を英文で掲載
	情報基盤センター年報	年1回	H28年11月	センターの沿革、組織、研究活動状況、教育活動状況を掲載
	大型計算機システム（iiC-HPC）ニュース	年2～4回	H29年3月	大型計算機システムに関する情報提供
	HINES-WORLD	不定期	H25年4月	情報ネットワーク利用案内
人獣共通感染症リサーチセンター	北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター（日本語・英語版）	年1回	H29年9月	人獣共通感染症リサーチセンターの概要を掲載
	人獣共通感染症リサーチセンター年報	年1回	H28年3月	センターの概要、組織、研究活動、教育活動等を掲載
	外部評価報告書	6年に1回	H27年3月	外部評価委員による、人獣共通感染症リサーチセンターの研究業績・施設・設備等の評価を公表
	自己点検評価報告書	6年に1回	H27年3月	人獣共通感染症リサーチセンターの点検・評価事項を公表
アイソトープ総合センター	センター概要	不定期	H29年3月	センターの施設案内、沿革等を掲載
	アイソトープ総合センター利用案内	隔年	H28年3月	センターの利用に関する規程等、利用に関する情報をわかりやすく掲載
	北海道大学アイソトープ総合センター自己点検・評価報告書	年1回	H29年7月	センターの利用状況、共同研究一覧、活動報告等を掲載
	センターニュース（CIS NEWS）	年1回	H29年3月	センターの最新機器の紹介、講義、講習会のお知らせ等のニュースを掲載

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	
量子集積エレクトロニクス研究センター	北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター (概要・和文)	不定期	H26年4月	センターの目的, 組織, 研究内容等を掲載	
	北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター (概要・英文)	不定期	H26年4月	センターの目的, 組織, 研究内容等を掲載	
	量子集積エレクトロニクス研究 (研究報告)	年1回	H29年6月第16巻	センターの研究目的, 組織, 研究内容, 施設・設備と, 研究活動及び研究成果の報告	
	量子集積エレクトロニクス研究センター自己点検評価書	年1回	H29年6月	研究・教育活動成果に基づく自己点検評価書	
北方生物圏フィールド科学センター	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター概要	不定期	H27年2月	沿革, 組織, 研究内容等の概要を掲載	
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター年報	年1回	H29年2月	各施設の教育・研究動向, 職員の研究業績一覧, 施設の利用状況等を掲載	
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター News Letter	年数回	H29年5月	センターの活動紹介, イベントなどのお知らせ, ショートエッセイ等を掲載	
	森林圏ステーション	演習林研究報告	年2回	H27年3月	森林科学関連分野及び森林圏ステーション関連の研究論文 (和文) を掲載。国内外の関係機関等にも送付
		Eurasian Journal of Forest Research	年2回	H28年11月	「演習林研究報告」の英語論文分冊。国内外の関係機関等にも送付
		森林圏ステーション年度報告	年1回	H29年2月	森林圏ステーション管理面の資料を掲載
		北方森林保全技術	年1回	H29年2月	森林圏ステーション技術系職員が試験年報報告会で発表した論文等を掲載。国内の関係機関等にも送付
		森林圏ステーション概要	不定期	H16年9月	施設の紹介
	耕地面ステーション	北海道大学生物生産研究農場概要	不定期	H14年9月	農場の沿革, 部門紹介, 組織等の概要を掲載
		北海道大学生物生産研究農場研究報告	隔年	H17年12月	農場を利用した研究の報告
		北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏ステーション生物生産研究農場 (概要パンフレット)	不定期	H14年3月	農場の沿革, 組織等の概要を掲載
		北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏ステーション生物生産研究農場余市果樹園 (リーフレット)	不定期	H16年1月	余市果樹園の解説
		北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場技術業務報告	年1回	H21年3月	農場における圃場管理や家畜飼養に関する技術業務を掲載
		北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 (概要パンフレット) 英語併記	不定期	H29年8月	植物園の沿革, 組織等の概要を掲載
		植物園だより (リーフレット)	年6回	H29年10月	日高山脈の植物
		北海道大学植物園 (リーフレット) 日本語版	年1回	H28年7月	植物園内の解説
		北海道大学植物園 (リーフレット) 英語版	年1回	H27年4月	植物園内の解説
		北海道大学植物園 (リーフレット) 中国語版	年1回	H28年7月	植物園内の解説
北海道大学植物園 (リーフレット) 韓国語版		年1回	H28年7月	植物園内の解説	
北大植物園技術報告・年次報告		年1回	H28年11月	植物園の活動内容	
MIYABEA sive Illustrated Flora of Hokkaido		不定期	H11年10月	研究報告	
北大植物園研究紀要		年1回	H28年12月	研究報告	
北大植物園資料目録		不定期	H28年2月	資料目録	
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター静内研究牧場研究報告	不定期	H13年3月	牧場を利用した研究の報告		
水圏ステーション	全国大学水産実験所要覧	不定期	H18年10月	施設の概要, 地域の環境, 教育・研究活動, 交通, 職員, 利用手続きを掲載	
	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション厚岸臨海実験所報告	不定期	H19年3月	所員及び研究目録, 業績目録, 科学研究費等補助金, 利用者リスト及び研究, 利用状況, 利用者業績目録, 教育・社会教育活動, 気象・海洋観測データ (各内容を英語及び日本語で掲載)	
観光学高等研究センター	CATS2017 パンフレット	年1回	H29年8月	観光学高等研究センターの紹介	
	CATS2017 パンフレット 英語版	年1回	H29年8月	観光学高等研究センターの紹介 (英語版)	
アイヌ・先住民研究センター	アイヌ・先住民研究センター案内 (パンフレット日本語版)	不定期	H28年8月	アイヌ・先住民研究センターの役割, 特徴及び同センターで実施するプロジェクトを日本語で紹介	
	アイヌ・先住民研究センター案内 (パンフレット英語版)	不定期	H28年9月	アイヌ・先住民研究センターの役割, 特徴及び同センターで実施するプロジェクトを英語で紹介	
	アイヌ・先住民研究センター案内 (パンフレット中国語版)	不定期	H28年9月	アイヌ・先住民研究センターの役割, 特徴及び同センターで実施するプロジェクトを中国語で紹介	
	アイヌ・先住民研究センター案内 (パンフレットロシア語版)	不定期	H28年12月	アイヌ・先住民研究センターの役割, 特徴及び同センターで実施するプロジェクトをロシア語で紹介	
	日本国憲法と先住民族であるアイヌの人びと (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット1号)	不定期	H25年2月	アイヌ・先住民研究センターが2011年10月に主催した講演会の講演内容を紹介	
	トンコリの世界 (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット2号)	不定期	H26年3月	アイヌの伝統的楽器トンコリ伝承者の富田友子氏に対するインタビューをまとめて楽曲だけでなくトンコリの作り方なども紹介	

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
アイヌ・先住民研究センター	The Ainu : Indigenous People of Japan (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット3号)	不定期	H29年3月	ワシントンD.C.での国際シンポジウムにおける報告をまとめ、現代のアイヌ民族の活動等を海外に向けて英文で紹介
	花とイナウー世界の中のアイヌ文化ー(北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット4号)	不定期	H29年4月	アイヌ民族の信仰や儀式等において用いられるイナウの意味や特徴を各国のイナウとも比較しながら紹介
	台湾の原住民族政策ー民族認定と博物館ー(北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット5号)	不定期	H27年4月	アイヌ・先住民研究センターが2012年と2014年に主催した台湾の原住民族政策に関するシンポジウムの講演内容を紹介
	古川アシンノカルの生涯ー新冠地方の故事と伝承ー(北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット6号)	不定期	H28年3月	北海道日高郡新ひだか町在住の狩野義美氏が書き記した文章の中から大祖父の古川アシンノカル氏らに係るものを集成
	The World of Tonkori (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット7号)	不定期	H29年3月	アイヌの伝統的楽器トンコリ伝承者の富田友子氏に対するインタビューをまとめて楽曲だけでなくトンコリの作り方なども紹介したブックレット2号の英語版
	2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活と意識	不定期	H24年1月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査(アンケート調査)に関する報告書
	2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活の歩みと意識の変容	不定期	H24年3月	アイヌ・先住民研究センターが2009年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査(インタビュー調査)に関する報告書
	2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活と意識の多様性	不定期	H26年3月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査の結果を再分析した報告書
	2014年アイヌ民族多住地域住民調査報告書 地域住民のアイヌ政策への評価とアイヌの人々との社会関係	不定期	H27年9月	アイヌ・先住民研究センターが2014年に札幌市とむかわ町で実施したアイヌ民族多住地域住民調査の結果に関する報告書
	Report on the 2008 Hokkaido Ainu Living Conditions Survey	不定期	H23年3月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査に関する報告書の英語版
	沖縄におけるガイドツアーの運営実態に関する事例調査	不定期	H23年3月	アイヌ・先住民研究センターがエコツーリズム・プロジェクトの一環として実施した事例調査の報告書
	世界のなかのアイヌ・アート	不定期	H28年1月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民アートプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	先住民アート・プロジェクト報告書 アイヌ・アートが担う新たな役割ー米国先住民アートショーに学ぶ	不定期	H27年4月	アイヌ・先住民研究センターが2014年に国立民族学博物館との共催で開催した国際シンポジウムの記録
	先住民文化遺産とツーリズムーアイヌ民族における文化遺産活用の理論と実践	不定期	H28年6月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民文化遺産とツーリズムプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	Indigenous Heritage and Tourism-Theories and Practices on Utilizing the Ainu Heritage-	不定期	H26年1月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民文化遺産とツーリズムプロジェクト」の研究成果に関する報告書の英語版
	teetasinrit tekrukoci 先人の手あと 北大所蔵アイヌ資料ー受けつぐ技ー	不定期	H21年2月	アイヌ・先住民研究センターと北大総合博物館の企画展示の記録
	teetasinrit tekrukoci -The Handprints of our Ancestors- Ainu Artifacts Housed at Hokkaido University-Inherited Techniques	不定期	H24年3月	アイヌ・先住民研究センターと北大総合博物館の企画展示の記録の英語版
	北海道新冠地方におけるアイヌ語地名の調査と分析	不定期	H28年3月	アイヌ・先住民研究センターが2013年から2015年に行ったアイヌ語地名調査の成果報告
	にかほ市象潟郷土資料館所蔵森家旧蔵「蝦夷方言藻汐草全」翻刻・解題	不定期	H25年3月	アイヌ・先住民研究センターが2012年に実施した「古文書プロジェクト」の研究成果に関する報告書
	ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所所蔵 田藩文庫旧蔵「東蝦夷彙考」翻刻・解題	不定期	H26年5月	ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所所蔵の和文写本の概要を日本で初めて紹介
	国立公文書館内閣文庫所蔵 昌平坂学問所旧蔵「蝦夷語集」元・亨 影印・翻刻	不定期	H29年3月	アイヌ・先住民研究センターが2016年に実施した「古文書プロジェクト」の研究成果に関する報告書
	藤山ハル口述・村崎恭子採録・著 樺太アイヌ語例文集(2)	不定期	H28年3月	アイヌ・先住民研究センターが2015年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイブプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	和田文治郎 樺太アイヌ言語・文化誌 出版・育児・通過儀礼	不定期	H29年3月	アイヌ・先住民研究センターが2016年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイブプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	アイヌ語調査資料のデータベース化に関する基礎的研究(6)	不定期	H29年3月	アイヌ・先住民研究センターが2016年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイブプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	アイヌ語十勝方言例文集1	不定期	H26年3月	アイヌ語十勝方言の研究に際して基礎となる例文を提示し、言語学的研究の一助とする目的で日常語例文を収録
	アイヌ語厚別方言語彙集	不定期	H29年2月	北海道日高町豊田に在住した松島トミ氏によるアイヌ語語彙と例文の記録
アイヌ語十勝方言會話小辞典	不定期	H29年10月	アイヌ・先住民研究センターが行ったアイヌ語十勝方言の言語調査で得られた資料を意味分類に従って配列したもの	
アイヌ語浦河方言語彙集	不定期	H29年5月	アイヌ・先住民研究センターが行った調査によるアイヌ語浦河方言の語彙集	

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等	
社会科学実験研究センター	北海道大学社会科学実験研究センター自己点検評価	年1回	H29年3月	社会科学実験研究センターの概要、教育研究活動の実績、組織構成を掲載（HPよりダウンロード可能）	
	北海道大学社会科学実験研究センター案内（パンフレット）	不定期	H22年3月	社会科学実験研究センターの概要、実験室等の研究設備とその利用状況、研究成果を紹介	
	北海道大学社会科学実験研究センター案内（パンフレット）英語版	不定期	H27年8月	社会科学実験研究センターの概要、実験室等の研究設備とその利用状況、研究成果を紹介	
環境健康科学研究教育センター	北海道大学環境健康科学研究教育センター年報	隔年	H28年3月	環境健康科学研究教育センターの概要、部門報告、業績一覧、委員会名簿等を掲載	
	環境健康科学研究教育センターチラシ（英語版、日本語版）	不定期	H28年3月	環境健康科学研究教育センターの組織、概要、活動内容を分かりやすく掲載	
脳科学研究教育センター	北海道大学脳科学研究教育センター概要	隔年	H29年7月	センターの組織、発達脳科学専攻（バーチャル専攻）の概要等を掲載	
外国語教育センター	HOKKAIDO UNIVERSITY CENTER FOR LANGUAGE LEARNING	不定期	H21年4月	外国語教育センターの紹介	
	自己点検・評価報告書 外部評価報告書	不定期	H28年3月	自己点検・評価報告、外部評価報告	
総合博物館	重要文化財札幌農学校第2農場パンフレット（見学者配付用資料）	1回	H29年3月	重要文化財札幌農学校第2農場を見学者に紹介	
	総合博物館展示リーフレット（見学者配付用資料）	1回	H28年7月	総合博物館常設展示の各展示ゾーン紹介・利用案内を見学者に紹介	
	An Introduction to The Hokkaido University Museum	1回	H28年7月	総合博物館常設展示の各展示ゾーン紹介・利用案内を見学者に紹介（リーフレット）	
	北海道大学総合博物館概要	年1回	H24年度版	博物館の目的・沿革・組織・教育研究活動内容等を掲載	
	北海道大学総合博物館外部点検評価報告書（2010）	不定期	H23年3月	外部点検評価委員会による総合博物館の評価	
	北海道大学総合博物館点検評価報告書（2004-2006年度）	1回	H19年7月	北海道大学総合博物館点検評価委員会委員による総合博物館の評価	
	北海道大学総合博物館研究報告	年1回	H28年3月	研究報告 No.1（2003.3）-No.8（2016.3）	
	北海道大学総合博物館年報	年1回	H24年1月	博物館及び博物館教員の活動記録 H16年度（2004.1.31） H18・19年度（2006.12.1） H20・21年度（2012.3.1） H22・23年度（2013.1.1）	
	北海道大学総合博物館ニュース	年2回	H29年6月	博物館の活動状況・出来事・ニュース・特別寄稿等を掲載 No.1（1999.7）-No.35（2017.6）	
Guidebook : Museum Meister Course, The Hokkaido University Museum	年1回	H29年度版	総合博物館ミュージアムマイスター認定コースの案内		
大学文書館	北海道大学大学文書館年報	年1回	H29年3月	研究論文、資料紹介・目録、業務記録等を掲載	
	北海道大学大学文書館資料叢書	不定期	H22年3月	資料翻刻、解説等を掲載	
	北海道大学大学文書館概要	年1回	H29年9月	大学文書館の概要、案内図等を掲載	
	北海道大学大学文書館リーフレット	年1回	H29年8月	大学文書館の概要、所蔵資料の紹介、利用に関する案内等を掲載	
	北海道大学大学文書館利用案内	年1回	H29年8月	大学文書館の利用方法に関する案内を掲載	
埋蔵文化財調査センター	北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター	年3回	H29年8月	構内の遺跡、埋蔵文化財調査センターの活動内容を紹介	
	北大構内の遺跡	年1回	H29年3月	北大構内（札幌キャンパス）における埋蔵文化財の調査報告	
人材育成本部	上級人材育成ステーション S-cubic	Scubic通信	不定期	H29年3月	DC・PDを対象とした進路選択のガイドブック
	I-HoP	Career Management Guide for the Doctorates	不定期	H29年8月	外国人英語コース博士のためのキャリアマネジメントガイド
	連携型博士研究人材育成推進室	科学技術人材育成のコンソーシアム構築事業 連携型博士研究人材総合育成システムの構築	不定期	H29年7月	コンソーシアム事業の紹介
	女性研究者支援室	女性研究者支援室FResHU リーフレット	不定期	H27年10月	女性研究者支援室の紹介
創成研究機構	創成ニューズレター CRIS TIMES	年1回	H28年度版	創成研究機構の活動紹介	
	北海道大学 創成研究機構	不定期	H28年1月	創成研究機構の組織紹介	
	北海道大学 創成研究機構（DVD）	不定期	H23年9月	創成研究機構の紹介DVD（改訂版）	
	Creative Research Institution	不定期	H23年10月	創成研究機構の紹介DVD（英語・改訂版）	
	北大を特徴づける研究機関 創成研究機構 構成組織	不定期	H25年10月	創成研究機構各構成組織の紹介及び研究・活動内容の紹介	
	ACADEMIC FANTASISTA 国民との科学・技術対話事業	年1回	H28年度版	北海道大学における「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業の紹介	
	Strategy for Making Innovation 理の社会実装を目指して	不定期	H29年度版	北海道大学の研究者の紹介と、産学・地域協働を支えるシステムの紹介	
	Reach アウトリーチイベントのつくりかたハンドブック	不定期	H28年3月	教職員を対象としたアウトリーチのイベント企画のためのハンドブック	
	オープンファシリティプラットフォーム	不定期	H29年5月	オープンファシリティプラットフォームの紹介	
	Global Facility Center Hokkaido University	不定期	H29年8月	グローバルファシリティセンターの紹介（日本語版）	
	Global Facility Center Hokkaido University (English ver.)	不定期	H29年7月	グローバルファシリティセンターの紹介（英語版）	

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
創成研究機構	グローバルファシリティセンター (リーフレット)	不定期	H28年10月	グローバルファシリティセンターの紹介
	グローバルファシリティセンター (リーフレット) 英語版	不定期	H29年10月	グローバルファシリティセンターの紹介
	オープンファシリティ料金表 学外利用者用	不定期	H29年10月	オープンファシリティ学外利用料金一覧 (日本語版)
	Hokkaido University OPEN FACILITY PRICE LIST For EXTERNAL USERS	不定期	H29年10月	オープンファシリティ学外利用料金一覧 (英語版)
	先端技術のオープンステーション 北海道大学 オープンファシリティ	不定期	H27年12月	オープンファシリティの紹介DVD (日本語版)
	Cutting-edge Open Station Hokkaido University Open Facility	不定期	H27年12月	オープンファシリティの紹介DVD (英語版)
	オープンファシリティシンポジウム報告書	年1回	H29年3月	オープンファシリティシンポジウム開催報告
	オープンファシリティ利用者説明会&見学会	年1回	H29年9月	オープンファシリティ利用者説明会・見学会の紹介
	北海道大学創成研究機構 グローバルファシリティセンター機器分析受託部門	不定期	H29年4月	グローバルファシリティセンター機器分析受託部門の紹介
	機器分析受託サービス利用説明会	年2回	H29年9月	機器分析受託サービス利用説明会の紹介
	分析料金表	不定期	H28年4月	分析料金一覧 学外料金 (日本語版)
	Price List	不定期	H28年4月	分析料金一覧 学外料金 (英語版)
	次世代研究基盤戦略	不定期	H29年9月	文部科学省「先端研究基盤共用促進事業 (新たな共用システム導入支援プログラム)」の紹介
	原子・分子の顕微イメージングプラットフォーム	不定期	H28年8月	文部科学省：先端研究基盤共用促進事業 (共用プラットフォーム形成支援プログラム)「原子・分子の顕微イメージングプラットフォーム」事業の紹介及び利用募集
同位体顕微鏡	不定期	H25年4月	文部科学省：先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業「安定同位元素イメージング技術による産業イノベーション」事業における塚本教授のインタビュー (リテラポブリ29号を元に作成)	
高等教育推進機構	高等教育ジャーナル - 高等教育と生涯学習 -	年1回	H29年3月	広く高等教育に関する論文・報告等を公開
	ニュースレター	年3回	H29年10月	高等教育推進機構の活動を報告
	ラーニングサポート室リーフレット	不定期	H29年4月	ラーニングサポート室の利用に関する案内
	アカデミック・マップ	年1回	H29年4月	進級、学部移行の参考として各学部学科等の研究内容等を掲載
	ラーニングサポートレター	年4回	H29年9月	初年次学生の修学状況とラーニングサポート室で実施する学習サポートやセミナーの利用状況を掲載
	北海道大学オープンエデュケーションセンター活動報告書	年1回	H29年3月	北海道大学オープンエデュケーションセンターの活動報告書
	北海道大学オープンエデュケーションセンターリーフレット	不定期	H29年3月	学内の教職員を対象にオープンエデュケーションセンターの活動内容を紹介
	北海道大学オープンエデュケーションセンターフライヤー	年1回	H28年4月	新入学生向けに、北海道大学オープンコースウェア及びオープンエデュケーションセンターに関する案内を掲載
	教育情報システム (ELMS) リーフレット	年1回	H29年4月	教育情報システム (ELMS) の利用案内を掲載
	CoSTEPリーフレット	年1回	H29年3月	CoSTEPの活動を紹介
	いいね! Hokudai	週4回	H29年10月	北大の日々を紹介するWebマガジン
	CoSTEP PR	不定期	H29年10月	スタッフや受講生の日常を紹介
サステイナブルキャンパス推進本部	Sustainable Initiative 持続可能な社会への大志	不定期	H25年3月	サステイナブルキャンパス推進本部発足の経緯、組織概要、業務内容、本学の目指すサステイナブルキャンパスの概念について掲載
	News Letter Vol.2	年1回以上	H27年6月	最近のサステイナブルキャンパス推進本部の活動の紹介
	News Letter Vol.2 (英語版)	年1回以上	H27年6月	最近のサステイナブルキャンパス推進本部の活動の紹介
	いいキャンパスとは? 環境報告書 Sustainability Report2016 サステイナブルキャンパスをめざして	年1回	H28年9月	本学の環境に配慮した活動等をまとめ、2015年度の環境に関する教育研究活動やエネルギー・水等の使用量の状況を掲載
	What is a Good Campus? Sustainability Report2016 Toward a Sustainable Campus (英語版)	年1回	H28年10月	環境報告書の日本語版を海外向けに編集した報告書
	環境報告書2017 北大のタテ・ヨコ・あした	年1回	H29年9月	本学の環境に配慮した活動等をまとめ、2016年度の環境に関する教育研究活動やエネルギー・水等の使用量の状況を掲載
	Sustainability Report 2017 Coaction with expertise for the future of Hokkaido University	年1回	H29年10月	環境報告書の日本語版を海外向けに編集した報告書
産学・地域協働推進機構	産学官連携の手引き	年1回	H29年8月	産学・地域協働推進機構の業務内容説明及び産学官連携のための案内
	産学・地域協働推進機構パンフレット	年1回	H29年4月	産学・地域協働推進機構の概要紹介
	北海道大学 研究シーズ集Vol.4	年1回	H29年3月	北海道大学の研究シーズを分野別に紹介

部局名	広報誌等名	発行回数	最新版発行年月	掲載内容等
産学・地域協働推進機構	フード&メディカルイノベーション国際拠点パンフレット	不定期	H29年10月	フード&メディカルイノベーション国際拠点（FMI国際拠点）の紹介
	「食と健康の達人」拠点パンフレット	不定期	H29年4月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点の活動紹介
	岩見沢市×北海道大学のフリーマガジン「live（ライブ）」	年6回	H29年9月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点が地域と課題、情報を共有するフリーペーパー
	フリーマガジン「Sapporo live」	不定期	H29年4月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点が地域と課題、情報を共有するフリーペーパー
国際連携機構	岩見沢市×北海道大学のフリーマガジン「live（ライブ）」別冊	年1回	H29年11月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点が高校生と共に地域と課題、情報を共有するフリーペーパー
	北海道大学国際教育研究センター紀要	年1回	H28年12月	研究論文、研究ノート、実践報告
国際連携研究教育局	北海道大学国際教育研究センターブックレット	不定期	H27年9月	留学生と日本人学生がともに学ぶ「多文化交流科目」を考える
	GI-CoRE概要（英語・日本語表記）	不定期	H28年4月	国際連携研究教育局の概要、各グローバルステーション（量子、人獣、食水土、ソフトマター、ビッグデータ、北極域）の紹介

(総合企画部広報課)

## 編集メモ

---

●11月中旬に雪が降り、キャンパス内は紅葉の美しい秋の景色から、すっかり冬景色に様変わりしました。



●8月23日（水）にプレオープンした、百年記念会館1階にあるレストラン“北大マルシェ Café & Labo”が、11月1日（水）にグランドオープンしました。物販やテイクアウトもございますので、まだご来店したことのない方もぜひ気軽にお立ち寄りください。

◆<http://www.marche-cafelabo.com/>  
営業時間 10:00～18:00  
(ランチ 11:00～14:00)

定休日 火曜日

TEL&FAX 011-788-7452



2016.12.4 留萌本線 増毛駅（増毛町）

## 北の鉄道風景 56 惜別の夜

深川から留萌を経て増毛を終点としていた留萌本線。昨年の初冬、JR北海道は留萌～増毛間での営業を終了し、同区間は廃止された。それによって、留萌本線は、全国のJR線の中で最も短い「本線」（深川～留萌間50.1km）となった。この区間についても、利用者数の減少を理由に、JR北海道は廃止の方針を沿線自治体に示しており、今後の動向が気になると

ころである。写真は留萌～増毛間での営業最終日の夜、大勢の人々に見送られながら、最終列車が増毛駅を去る光景だ。「JR北海道単独では維持が困難な線区」とされた道内のローカル路線で、近い将来、このような光景が繰り返されることになるのだろうか。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑪ No.764 平成29年11月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html